

平成28年(2016年)
全国災害時気象概況

平成29年3月

気象庁

—— 目 次 ——

1 平成28年(2016年)の気象災害.....	1
1-1 気象の特徴	1
1-2 主な気象災害	2
資料1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料	21
資料1-2-2 平成28年(2016年)に発生した主な竜巻等の突風.....	29
資料1-2-3 平成28年(2016年)激甚災害指定状況一覧表.....	30
2 平成28年(2016年) 台風の概要	32
2-1 平成28年(2016年)に発生した台風	32
資料2-1-1 台風発生数一覧表	33
資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表.....	34
資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表.....	35
資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表.....	36
資料2-1-5 平成28年(2016年)に発生した台風の一覧表.....	37
2-2 平成28年(2016年)に日本に影響した主な台風	38
資料2-2-1 平成28年(2016年)に日本に影響した台風の概要表 ...	41
資料2-2-2 平成28年(2016年)に発生した台風の経路図.....	42
3 平成28年(2016年)の天気概況.....	45

本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁予報部において取りまとめたものである。

1 平成 28 年(2016 年)の気象災害

1-1 気象の特徴

○ 高温が持続し、年平均気温は東日本以西でかなり高く、北日本で高い

北日本の秋を除き、全国的に高温傾向が続き、年平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美でかなり高く、北日本でも高かった。特に東日本では、平年差+1.0℃と 1946 年の統計開始以降で 2004 年と並び、最も高かった。年降水量は、北日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側でも多かった。年間日照時間は北日本と東日本日本海側で多く、西日本日本海側、西日本太平洋側で少なかった。

○ 8 月に北日本に 4 個の台風が上陸

北日本では、8 月に台風第 7 号、第 11 号、第 9 号、第 10 号が相次いで上陸し、大雨や暴風となった。特に北海道と岩手県では記録的な大雨となり、河川の氾濫、浸水害、土砂災害などが発生した。

○ 秋に西日本で顕著な多雨寡照

秋は、低気圧や前線、台風の影響を受けやすく、西日本中心に全国的に日照時間が少なかった。西日本では、降水量もかなり多かった。

1-2 主な気象災害

ここでは、平成 28 年(2016 年)に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生日順に災害番号(括弧内番号)を付けて記述する。また、災害番号に続けて、災害期日:地域、()内に災害の種類、< >内に気圧配置等の気象状況を記す。災害の種別(大雨、大雪、暴風、突風、高波、高潮等)の一覧表は表 1.1 に示す。

被害の具体的な数値は、内閣府、総務省消防庁、国土交通省の資料及び、地方気象台等が国や都道府県の防災機関等から入手し、気象庁観測部計画課情報管理室が取りまとめた資料による。また、地方気象台等が行った突風の被害状況等調査報告等も参考にした。

表 1.1 災害の種類別の番号一覧表

災害名	災害番号
大雨(豪雨を含む)	(3)、(4)、(5)*、(6)、(8)*、(9)、(10)、(11)*、(12)、(13)
大雪	(1)、(2)*
暴風(暴風雪を含む)	(1)、(2)*、(4)、(8)*、(9)、(10)、(11)*、(13)、(15)*
突風(竜巻を含む)	(5)*、(8)*、(12)、(13)、(15)*
高波	(1)、(2)*、(8)*、(9)、(10)、(11)*、(13)
その他	(2)*、(7)、(14)

*を付した災害については、資料 1-2-1「主な気象災害に対応する気象資料」に天気図等を掲載している。

(1)1月17日～1月20日:西日本から北日本(大雪、暴風雪、高波)＜低気圧、冬型＞

1月17日から20日にかけては、前線を伴う低気圧が発達しながら東シナ海から本州南岸を北東に進んで北海道の東海上に達したほか、別の低気圧が日本海中部を東南東に進み日本の東海上に達し、日本付近は冬型の気圧配置となった。このため、北海道えりも町えりも岬で35.9メートルの最大風速を観測するなど、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本を中心に非常に強い風が吹き、大雪となったほか、西日本から東海地方にかけての太平洋側の平地でも積雪となった所があった。また、西日本から北日本にかけて大しけとなり、北日本太平洋側では猛烈なしけとなった所があった。

これらの影響により、西日本から北日本にかけて道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生したほか、港湾施設、農業施設の被害が発生した。また、岩手県や青森県では、大規模な停電が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年1月28日の内閣府の情報による)

[主な日降雪量]

1月17日	山形県新庄市新庄(シンジョウ)	27 cm	北海道石狩市石狩(イシカ)	20 cm
1月18日	岩手県葛巻町葛巻(クスマキ)	44 cm	青森県青森市酸ヶ湯(スカユ)	41 cm
	栃木県日光市土呂部(ドロブ)	40 cm	福島県天栄村湯本(ユモト)	35 cm
	宮城県栗原市駒ノ湯(コマノユ)	34 cm	群馬県草津町草津(クサツ)	34 cm
	埼玉県秩父市秩父(チチブ)	34 cm	山梨県富士河口湖町河口湖(カワグチコ)	34 cm
	北海道大樹町大樹(タイキ)	33 cm	長野県松本市松本(マツモト)	32 cm
	北海道えりも町目黒(メグロ)	31 cm		
1月19日	北海道遠軽町白滝(シラタキ)	71 cm	北海道弟子屈町川湯(カワユ)	60 cm
	山形県金山町金山(カナヤマ)	60 cm	秋田県湯沢市湯の岱(ユノタイ)	57 cm
	広島県庄原市高野(タカノ)	57 cm	北海道美深町美深(ヒフカ)	54 cm
	石川県加賀市加賀菅谷(カガスカタニ)	47 cm	島根県奥出雲町横田(ヨコタ)	47 cm
	岐阜県白川村白川(シラカワ)	46 cm	北海道別海町別海(ヘツカイ)	41 cm
	宮城県栗原市駒ノ湯(コマノユ)	41 cm		
1月20日	北海道滝上町滝上(タキノウエ)	67 cm	北海道釧路市阿寒湖畔(アカンコハン)	50 cm
	長野県上田市菅平(スカダイラ)	42 cm	群馬県草津町草津(クサツ)	41 cm
	福島県檜枝岐村檜枝岐(ヒノエマタ)	33 cm	北海道上川町層雲峡(ソウウンキョウ)	32 cm
	岐阜県郡上市長滝(ナガタキ)	30 cm		

[主な最大風速]

1月17日	沖縄県久米島町北原(キタハラ)	18.9 m/s	南南東	[10:16]
1月18日	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	34.6 m/s	北東	[23:57]
	宮城県女川町江ノ島(エノシマ)	27.6 m/s	北北東	[19:14]
	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	25.5 m/s	西北西	[22:01]
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	21.9 m/s	西	[18:13]
	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	21.1 m/s	西北西	[21:21]
	愛媛県宇和島市宇和島(ウヅシマ)	20.9 m/s	西北西	[22:29]
	青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	20.5 m/s	東北東	[19:48]
	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	20.2 m/s	東	[10:19]
	和歌山県串本町潮岬(シオミサキ)	20.2 m/s	西	[23:54]
	1月19日	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	35.9 m/s	北東
北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)		24.5 m/s	東北東	[05:42]

	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	23.5 m/s	北西	[18:47]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトサキ)	22.9 m/s	西北西	[00:26]
	山形県酒田市飛鳥(トビシマ)	22.8 m/s	西	[03:18]
	北海道根室市納沙布(ノサップ)	22.7 m/s	東北東	[05:13]
	東京都神津島村神津島(コウヅシマ)	21.4 m/s	西北西	[05:34]
	島根県隠岐の島町西郷岬(サイゴウミサキ)	20.1 m/s	西南西	[05:29]
1月20日	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	20.8 m/s	北西	[06:20]
	鳥取県鳥取市湖山(コヤマ)	20.8 m/s	西北西	[04:08]
	東京都神津島村神津島(コウヅシマ)	20.4 m/s	西北西	[10:45]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	20.2 m/s	西	[05:24]

(2)*1月23日～1月25日:西日本から北日本(大雪、暴風雪、高波、その他)＜冬型＞

1月23日から25日にかけては、日本付近は強い冬型の気圧配置となった。特に、沖縄・奄美から西日本にかけて上空に非常に強い寒気が流れ込んで記録的な低温となり、鹿児島県奄美市で1901年2月12日以来115年ぶりに雪を、沖縄県久米島町で1977年2月17日以来39年ぶりに、沖縄県名護市で観測史上初めて、みぞれを観測した。また、西日本から東北地方にかけての日本海側を中心に大雪となり、西日本から東海地方にかけての普段雪の少ない地域でも積雪となった所があったほか、全国的に強い風が吹き、南西諸島や伊豆諸島では非常に強い風が吹き、沖縄・奄美から東日本にかけて大しけとなった。

これらの影響により、西日本を中心に、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した。また、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生し、特に、九州地方や中国地方では低温による大規模な水道被害が発生したほか、島根県では強風と積雪による大規模な停電が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年2月2日の内閣府の情報による)

[主な日降雪量]

1月23日	広島県北広島町八幡(ヤワタ)	53 cm	島根県邑南町瑞穂(ミズホ)	42 cm
1月24日	新潟県長岡市長岡(ナガオカ)	69 cm	福島県金山町金山(カネヤマ)	64 cm
	富山県高岡市伏木(フシキ)	64 cm	広島県北広島町大朝(オオアサ)	52 cm
	島根県飯南町赤名(アカナ)	52 cm	石川県加賀市加賀菅谷(カガスカタニ)	45 cm
1月25日	福井県南越前町今庄(イマジョウ)	50 cm	滋賀県長浜市柳ヶ瀬(ヤナガセ)	48 cm
	福島県只見町只見(タダミ)	44 cm		

[主な最大風速]

1月23日	沖縄県宮古島市下地(シモジ)	20.9 m/s	北	[08:02]
1月24日	秋田県八峰町八森(ハチモリ)	24.5 m/s	西北西	[22:52]
	東京都神津島村神津島(コウヅシマ)	21.4 m/s	西北西	[12:51]
	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	20.5 m/s	北西	[15:35]
1月25日	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	20.8 m/s	北	[01:42]
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	20.1 m/s	西	[00:40]

[主な日最低気温¹⁾]

1月23日	広島県庄原市高野(タカノ)	-6.6 °C	愛媛県久万高原町久万(クマ)	-4.4 °C
-------	---------------	---------	----------------	---------

¹⁾ 中国地方、四国地方、九州北部地方、九州南部、奄美地方、沖縄地方の各地方について、最低気温が最も低かった地点を示す。

	熊本県南阿蘇村阿蘇山(アソサン)	-8.8 °C	宮崎県五ヶ瀬町鞍岡(クオカ)	-4.3 °C
	鹿児島県十島村中之島(ナカシマ)	5.5 °C	沖縄県南城市糸数(イトズ)	9.4 °C
1月24日	島根県奥出雲町横田(ヨコタ)	-11.3 °C	愛媛県久万高原町久万(クマ)	-9.8 °C
	熊本県南阿蘇村阿蘇山(アソサン)	-14.4 °C	宮崎県五ヶ瀬町鞍岡(クオカ)	-10.6 °C
	鹿児島県十島村中之島(ナカシマ)	0.2 °C	沖縄県国頭村奥(オク)	3.1 °C
1月25日	岡山県奈義町奈義(ナギ)	-13.7 °C	徳島県三好市京上(キョウジョウ)	-7.3 °C
	熊本県あさぎり町上(ウエ)	-13.8 °C	鹿児島県伊佐市大口(オオクチ)	-15.2 °C
	鹿児島県十島村中之島(ナカシマ)	1.4 °C	沖縄県国頭村奥(オク)	3.2 °C

(3)4月6日～4月7日:西日本から東日本(大雨)＜低気圧、前線＞

4月6日から7日にかけては、前線を伴う低気圧が東シナ海から日本海を通り三陸沖に進んだ。前線や低気圧の影響で、西日本から北日本にかけては雨が降り、西日本や東日本では、日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。

この影響により、西日本から東日本にかけて道路の通行不能、航空機の欠航等の交通障害、農業施設等の被害、停電等が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

4月6日	長崎県新上五島町有川(アリカワ)	29.5 mm		
4月7日	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	183.0 mm	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	153.0 mm
	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	142.5 mm	長野県玉滝村御嶽山(オンタケサン)	140.0 mm
	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	132.0 mm	静岡県静岡市葵区井川(イカワ)	128.5 mm
	岐阜県白川村御母衣(ミホロ)	127.0 mm	長崎県平戸市平戸(ヒラト)	119.5 mm
	熊本県南阿蘇村阿蘇山(アソサン)	106.0 mm	福岡県添田町英彦山(ヒコサン)	103.5 mm
	山口県岩国市広瀬(ヒロセ)	103.0 mm		

(4)4月16日～4月18日:西日本から北日本(大雨、暴風)＜低気圧＞

4月16日から18日にかけては、前線を伴う低気圧が華中から日本海を通り北海道付近に進み、千島の東海上に達した。前線や低気圧の影響で、全国的に雨や雪が降り、九州北部地方や四国地方では日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。また、西日本から北日本にかけて非常に強い風が吹き、東北地方では猛烈な風が吹いた所があった。

これらの影響により、西日本から北日本にかけて鉄道の運休、航空機の欠航等の交通障害が発生した。また、鳥取県や青森県では大規模な停電が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

4月16日	長崎県対馬市美津島(ミツシマ)	57.0 mm		
4月17日	高知県安芸市安芸(アキ)	110.0 mm	山口県周南市鹿野(カノ)	105.5 mm
4月18日	沖縄県伊是名村伊是名(イゼナ)	31.5 mm		

[主な最大風速]

4月16日	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	25.4 m/s	南	[22:21]
	長崎県長崎市野母崎(ノモザキ)	23.5 m/s	南東	[23:29]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	20.9 m/s	南南東	[24:00]

4月17日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	30.0	m/s	西南西	[16:12]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	26.8	m/s	南南西	[08:07]
	新潟県佐渡市両津(ヨウツ)	26.0	m/s	西	[16:13]
	北海道奥尻町米岡(ヨネオカ)	25.2	m/s	西南西	[23:57]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	25.2	m/s	南	[06:30]
	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	24.5	m/s	南南東	[01:49]
	島根県隠岐の島町西郷岬(サイコウミサキ)	24.4	m/s	南西	[09:18]
	石川県金沢市金沢(カナザワ)	23.7	m/s	南南西	[11:26]
	富山県朝日町泊(トマリ)	22.8	m/s	南南西	[11:50]
	東京都江戸川区江戸川臨海(エドガワリンカイ)	22.2	m/s	南南西	[14:24]
	青森県黒石市黒石(クロイシ)	21.9	m/s	南西	[19:22]
	長崎県長崎市野母崎(ノモサキ)	21.4	m/s	南東	[00:01]
	福井県坂井市三国(ミクニ)	21.2	m/s	南	[10:35]
	北海道広尾町広尾(ヒロオ)	21.1	m/s	西南西	[23:47]
	千葉県勝浦市勝浦(カツウラ)	21.0	m/s	南南西	[14:26]
	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	20.6	m/s	北東	[10:35]
	神奈川県藤沢市辻堂(ツジドウ)	20.6	m/s	南南西	[13:52]
	鳥取県鳥取市湖山(コヤマ)	20.6	m/s	南南東	[03:46]
4月18日	北海道広尾町広尾(ヒロオ)	25.5	m/s	西南西	[02:03]
	北海道奥尻町米岡(ヨネオカ)	24.6	m/s	西南西	[00:11]
	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	23.8	m/s	西	[03:04]
	青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	21.4	m/s	西南西	[12:37]

(5)*6月6日～7月15日:全国(大雨、突風)＜梅雨前線、低気圧、大気不安定＞

6月6日から7月15日にかけて、梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し、断続的に大気の状態が不安定となり全国各地で大雨となった。特に、6月19日頃から24日頃にかけて、前線が本州付近に停滞し、その前線上に複数の低気圧が発生したため、九州地方を中心に日降水量が200ミリを超える大雨となった。また、7月7日頃から15日頃にかけては、九州付近の低気圧が前線上を東に進んだため、西日本太平洋側を中心に日降水量が200ミリを超える大雨となった。

大雨により、西日本を中心に土砂災害や浸水害等が発生し、死者・行方不明者7名、負傷者10名の人的被害が発生したほか、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。また、大気の状態が不安定となったため、6月20日には岩手県で、7月14日から15日にかけては関東地方を中心に、竜巻等の突風が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年8月1日の内閣府の情報による)

6月6日から6月7日まで

6月6日から7日にかけて、南西諸島から日本の南海上にかけて梅雨前線が停滞した。また、低気圧が四国沖にほとんど停滞した。これらの影響で、四国地方では多い所で日降水量が200ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6月6日	宮崎県宮崎市青島(アオシマ)	73.5	mm
6月7日	高知県室戸市佐喜浜(サキハマ)	268.0	mm

6月8日から6月9日まで

6月8日から9日にかけて、南西諸島から伊豆諸島付近に前線が停滞した。また、黄海に中心を持つ高気圧と日本の東海上に中心を持つ高気圧により、日本付近は気圧の谷となった。その後、9日は低気圧が秋田付近に発生して東に進んだ。

[主な日降水量]

6月8日	宮崎県延岡市古江(フルエ)	60.0 mm
6月9日	茨城県大子町大子(ダイコ)	73.5 mm

6月10日から6月11日まで

6月10日から11日にかけて、南西諸島から日本の南海上にかけて前線が停滞した。この影響で南西諸島を中心に雨が降った。

[主な日降水量]

6月10日	沖縄県南大東村南大東(ミナミダイウ)	58.0 mm
6月11日	沖縄県宮古島市宮古島(ミヤコジマ)	75.5 mm

6月12日から6月15日まで

6月12日から15日にかけて、南西諸島から日本の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の東シナ海で低気圧が発生し、西日本から東日本の太平洋側を東に進んだ。また、日本海北部には低気圧が発生して、北東に進んだ。これらの影響で沖縄・奄美、九州南部、四国地方、関東地方及び北海道地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6月12日	高知県室戸市佐喜浜(サキハマ)	199.0 mm	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	159.5 mm
	沖縄県東村東(ヒガシ)	152.0 mm	宮崎県日向市日向(ヒュウガ)	115.5 mm
6月13日	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	147.5 mm	北海道白老町白老(シラオイ)	123.0 mm
	沖縄県久米島町北原(キタハラ)	111.5 mm	埼玉県ときがわ町ときがわ(トキガワ)	106.5 mm
	東京都青ヶ島村青ヶ島(アオガシマ)	100.0 mm		
6月14日	沖縄県南城市糸数(イトカズ)	172.0 mm		
6月15日	鹿児島県十島村平島(タイラジマ)	139.5 mm		

6月16日から6月17日まで

6月16日から17日にかけて、九州から日本の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の四国付近で低気圧が発生し、西日本から東日本の太平洋側を東に進んだ。また、別の低気圧が日本海を北東に進んで北海道付近に達した。これらの影響で九州南部、近畿南部、東海地方及び北海道地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6月16日	鹿児島県指宿市指宿(イブスキ)	163.5 mm	北海道えりも町目黒(メグロ)	124.5 mm
	和歌山県新宮市新宮(シンクウ)	116.0 mm	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	109.5 mm
	三重県津市笠取山(カサトリヤマ)	107.0 mm	北海道登別市登別(ノボリベツ)	103.5 mm
6月17日	北海道釧路市釧路(クシロ)	155.0 mm	北海道浦河町中杵臼(ナカキネウス)	120.0 mm
	北海道むかわ町穂別(ホベツ)	113.5 mm	北海道標津町糸樋別(イトクシベツ)	100.0 mm

6月18日

6月18日は、華中から九州の南海上にかけて停滞する梅雨前線が九州付近へ北上した影響で、九州地方の一部で雨が降った。また、低気圧が網走沖にほとんど停滞して消滅した。低気圧や気圧の谷の影響で、北日本で雨が降った。

[主な日降水量]

6月18日 北海道釧路市釧路(クシロ) 19.5 mm

6月19日から6月24日まで

6月19日から20日にかけて、九州南部に停滞する前線がゆっくり北上しながら関東の東海上にのびた。その後、20日から21日にかけてこの前線上を低気圧が東に進み関東の東海上に達した。また、22日には前線上の対馬付近に別の低気圧が発生して、23日にかけて再び前線上を東に進み、日本の東海上へ達した。前線は、24日にかけて本州付近に停滞した。これらの影響で、九州北部地方の多い所で日降水量300ミリに達するなど、各地で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、大気の状態が不安定となったため、20日、岩手県で竜巻が発生した。

大雨の影響で、西日本を中心に土砂災害、浸水害等が発生した。また、公共施設、農地等への被害、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が発生し、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年8月1日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

6月19日	鹿児島県鹿屋市輝北(キホク)	252.0 mm	熊本県山江村山江(ヤマエ)	231.5 mm
	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	175.5 mm	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	101.0 mm
6月20日	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	245.0 mm	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	237.5 mm
	熊本県南阿蘇村阿蘇山(アソサン)	212.5 mm	佐賀県嬉野市嬉野(ウレシノ)	176.0 mm
	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	149.0 mm	高知県四万十市江川崎(エカワサキ)	146.0 mm
	愛媛県西予市宇和(ウワ)	142.0 mm	鹿児島県出水市出水(イズミ)	129.0 mm
	北海道浦河町中杵臼(ナカキネウス)	120.5 mm	福岡県行橋市行橋(ユクハシ)	120.0 mm
	東京都青ヶ島村青ヶ島(アオガシマ)	100.0 mm		
6月21日	鹿児島県伊佐市大口(オオクチ)	196.0 mm	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	185.5 mm
	熊本県五木村五木(イツキ)	138.5 mm	和歌山県古座川町西川(ニシカワ)	135.0 mm
	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	121.0 mm	三重県志摩市阿児(アゴ)	119.0 mm
	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	108.5 mm		
6月22日	福岡県大牟田市大牟田(オオムタ)	300.0 mm	熊本県山鹿市鹿北(カホク)	290.0 mm
	長崎県佐世保市佐世保(サセホ)	266.5 mm	佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	249.0 mm
	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	239.0 mm	東京都青ヶ島村青ヶ島(アオガシマ)	175.0 mm
	山口県周南市鹿野(カノ)	140.5 mm	広島県大竹市大竹(オオタケ)	112.0 mm
6月23日	静岡県伊豆市湯ヶ島(ユガシマ)	122.0 mm	鹿児島県中種子町中種子(ナカタネ)	114.0 mm
	千葉県鴨川市鴨川(カモガワ)	112.0 mm		
6月24日	岐阜県白川村御母衣(ミボロ)	73.0 mm		

6月25日

6月25日は、低気圧が発達しながら北東に進み日本海北部に達し、伴う前線が東日本を通過した。これらの影響で、全国的に雨が降り、北海道地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

6月25日 北海道登別市カルルス(カルルス) 185.0 mm 北海道千歳市支笏湖畔(シコツコハン) 114.0 mm

6月26日

6月26日は、華中から日本の南海上にかけて停滞する前線の影響で、南西諸島では雨が降った。また、低気圧が日本海北部から釧路沖へ進んだ。これらの影響で、北陸地方から北日本にかけて雨が降った。

[主な日降水量]

6月26日 沖縄県粟国村粟国(アグニ) 98.0 mm

6月27日から6月30日まで

6月27日から30日にかけて、華中から日本の南海上に停滞する前線がゆっくり北上し、前線上の九州付近に低気圧が発生して、西日本から東日本の太平洋側を東に進んだ。これらの影響で九州南部では多い所で日降水量200ミリを超えたほか、九州北部地方、近畿地方、東海地方及び伊豆諸島の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

大雨の影響で、九州地方を中心に土砂災害、浸水害等が発生した。また、公共施設、農地等への被害、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が発生し、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年8月1日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

6月27日 鹿児島県指宿市指宿(イブスキ) 138.5 mm
6月28日 宮崎県えびの市えびの(エビノ) 270.0 mm 鹿児島県霧島市溝辺(ミヅベ) 186.0 mm
和歌山県田辺市栗栖川(クスガワ) 157.0 mm 熊本県南阿蘇村阿蘇山(アソサン) 132.0 mm
三重県御浜町御浜(ミハマ) 127.0 mm 奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ) 123.5 mm
東京都新島村新島(ニイジマ) 116.0 mm 長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ) 106.0 mm
6月29日 鹿児島県霧島市溝辺(ミヅベ) 158.0 mm 熊本県山都町山都(ヤマト) 129.0 mm
長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ) 102.5 mm
6月30日 鹿児島県肝付町肝付前田(キモツキマエタ) 107.0 mm

7月1日から7月4日まで

7月1日から4日にかけて、前線を伴った低気圧が日本海を北東に進み北海道に達し、前線が東北地方を通過した。その後、西日本から東日本にかけて前線が停滞した。これらの影響で、九州南部、九州北部地方、中国地方、関東地方及び北海道地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となり、大雨等の影響で、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

7月1日 栃木県大田原市大田原(オオタワラ) 134.5 mm 鹿児島県阿久根市阿久根(アクネ) 114.0 mm
7月2日 北海道登別市カルルス(カルルス) 147.0 mm 北海道奥尻町奥尻(オクシリ) 106.0 mm
7月3日 島根県大田市福光(フクミツ) 149.5 mm 鹿児島県阿久根市阿久根(アクネ) 134.5 mm
熊本県球磨村一勝地(イチショウチ) 103.5 mm
7月4日 島根県隠岐の島町西郷岬(サイゴウサキ) 101.5 mm

7月5日から7月6日まで

7月5日から6日にかけて、華中から日本海西部にのびる前線上の朝鮮半島付近に低気圧が発生し、前線を東に進み、三陸沖に達した。これらの影響で、北陸地方及び東北地方の多い所で日降水量100ミリを

超える大雨となった。

[主な日降水量]

7月5日	鳥取県智頭町智頭(チズ)	43.5	mm			
7月6日	山形県真室川町差首鍋(サスナベ)	123.0	mm	新潟県阿賀町室谷(ムロヤ)	110.5	mm

7月7日

7月7日は、台風第1号が沖縄の南海上を北西に進んだ。台風からの暖かく湿った空気の影響で、沖縄・奄美の多い所で日降水量100ミリを超える大雨となった。

[主な日降水量]

7月7日	鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ)	169.0	mm	沖縄県南大東村旧東(キョウトウ)	112.0	mm
------	-------------------	-------	----	------------------	-------	----

7月8日から7月9日まで

7月8日から9日にかけて、九州の西海上に発生した低気圧が、前線を伴って東に進み関東の東海上に進んだ。これらの影響で西日本太平洋側では多い所で日降水量が200ミリを超えたほか、九州北部地方及び東海地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

大雨の影響で、中国地方、近畿地方では土砂災害、浸水害が発生し、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

7月8日	鹿児島県十島村平島(タイラジマ)	297.5	mm	宮崎県宮崎市青島(アオシマ)	252.5	mm
	高知県土佐清水市清水(シミス)	227.5	mm	大分県佐伯市蒲江(カマエ)	162.5	mm
	熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソオトヒメ)	144.5	mm	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	135.5	mm
	愛媛県愛南町御荘(ミショウ)	116.0	mm	佐賀県白石町白石(シロイシ)	110.0	mm
	山口県岩国市羅漢山(ラカンザン)	101.5	mm			
7月9日	和歌山県田辺市栗栖川(クリスガワ)	216.0	mm	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	179.5	mm
	三重県熊野市熊野新鹿(クマノアタシカ)	158.0	mm	高知県馬路村魚梁瀬(イナセ)	127.5	mm
	鹿児島県肝付町内之浦(ウチノウラ)	112.0	mm	徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	100.0	mm

7月10日から7月13日まで

7月10日から13日にかけて、九州から伊豆諸島にかけて停滞する前線が、ゆっくりと北上した。また、13日には、日本海西部に低気圧が発生し東に進んだ。これらの影響で、九州北部地方の多い所で日降水量200ミリを超えたほか、九州南部及び北陸地方の多い所で日降水量100ミリを超える大雨となった。

大雨の影響で、九州地方では土砂災害、浸水害が発生し、住家被害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

7月10日	鹿児島県指宿市指宿(イブスキ)	165.5	mm	宮崎県串間市串間(クシマ)	112.5	mm
7月11日	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	87.5	mm			
7月12日	長崎県平戸市平戸(ヒラト)	125.5	mm	熊本県多良木町多良木(タラキ)	121.0	mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	106.0	mm			
7月13日	熊本県南阿蘇村阿蘇山(アソサン)	232.0	mm	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	198.0	mm
	福岡県大牟田市大牟田(オオムタ)	160.0	mm	宮崎県五ヶ瀬町鞍岡(クラオカ)	156.5	mm
	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	126.0	mm	山口県防府市防府(ホフ)	125.0	mm
	佐賀県伊万里市伊万里(イマリ)	108.0	mm	富山県富山市富山(トヤマ)	103.5	mm

7月14日から15日まで

7月14日から15日にかけて、九州から関東付近にかけて停滞する前線が、ゆっくりと南下し、関東付近の低気圧が前線から離れ関東の東海上を北東に進んだ。また、日本海に低気圧がほとんど停滞した。これらや上空の寒気の影響で、西日本から東日本にかけては雨が降り、九州地方、関東地方及び東北地方の多い所で日降水量100ミリを超える大雨となった。また、大気の状態が不安定となったため、14日、埼玉県、群馬県、栃木県で竜巻等の突風が発生した。

大雨の影響で、西日本から東日本にかけて土砂災害、浸水害が発生し、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害、停電等のライフラインの被害が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

7月14日	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	187.5 mm	鹿児島県霧島市溝辺(ミゾベ)	160.0 mm
	岩手県岩泉町小本(オモト)	117.5 mm	熊本県南阿蘇村南阿蘇(みなみアソ)	106.0 mm
7月15日	鹿児島県十島村中之島(ナカシマ)	180.5 mm	群馬県みなかみ町みなかみ(ミナガ)	115.5 mm
	神奈川県横浜市中区横浜(ヨコハマ)	110.0 mm		

(6)8月1日～8月3日:東日本から北日本(大雨)＜大気不安定＞

8月1日から3日にかけては、低気圧が日本の南海上でほとんど停滞して消滅したほか、気圧の谷が北日本を通過した。低気圧や気圧の谷、上空の寒気の影響で、東日本や北日本の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。また、大気の状態が不安定となったため、雷を伴った所があった。

雷の影響により、愛知県、長野県、千葉県、群馬県では大規模な停電が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

8月1日	北海道南富良野町金山(カナヤマ)	127.5 mm		
8月2日	福島県福島市鷲倉(ワシクラ)	120.0 mm	群馬県前橋市前橋(マエバシ)	105.5 mm
8月3日	栃木県佐野市佐野(サノ)	95.0 mm		

(7)8月14日:近畿地方(その他)＜大気不安定＞

8月14日は、上空の寒気や気圧の谷の影響で、西日本から東海地方にかけてを中心に雨が降り、近畿地方では雷を伴った所があった。雷の影響により、大阪府では大規模な停電が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

8月14日	三重県志摩市阿児(アコ)	52.5 mm		
-------	--------------	---------	--	--

(8)*8月16日～8月31日:全国(大雨、暴風、突風、高波)＜台風第7号、台風第9号、台風第10号、台風第11号＞

8月16日から31日にかけては、台風第7号、第11号、第9号、第10号が相次いで上陸し、東日本から北日本を中心に大雨や暴風となった。

8月16日から17日にかけては、台風第7号が関東地方から東北地方の太平洋沿岸を北へ進み、北海道襟裳岬付近に上陸し、オホーツク海で温帯低気圧に変わった。

8月21日には、台風第11号が三陸沖を北へ進み、北海道釧路市付近に上陸した。また、8月21日から23日にかけては台風第9号が伊豆諸島近海を北へ進み、千葉県館山市付近に上陸した後、北海道日高地方に再上陸した(北海道に年間2個、再上陸も含めて3個の台風が上陸したのは1951年の統計開始以来、ともに初めて)。

8月28日から31日にかけては、台風第10号が日本の南海上から三陸沖に進み、岩手県大船渡市付近に上陸し、日本海で温帯低気圧に変わった(東北太平洋側への台風上陸は1951年の統計開始以来、初めて)。また、8月17日から23日にかけて北日本に、8月26日から27日にかけては本州付近に前線が停滞した。また、8月22日には日本版改良藤田スケールでJEF2の強さの竜巻が岩手県奥州市で発生したほか、千葉県及び宮城県で、竜巻等の突風が発生した。

これらの影響で、東日本から北日本を中心に大雨や暴風となり、河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生した。特に、8月20日頃から23日頃にかけての台風第11号、第9号及び前線等による大雨では北海道や神奈川県で死者計2名、8月26日頃から31日頃にかけての台風第10号、前線及び低気圧等による大雨では北海道や岩手県で死者計22名の人的被害が生じたほか、大雨や暴風、高波により、公共施設、農地等への被害、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生し、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年11月16日の内閣府の情報による)

8月16日から8月17日まで

8月14日03時に北マリアナ諸島の西の海上で発生した台風第7号は日本の東海上から三陸沖を北上し、17日17時半頃に北海道襟裳岬付近に上陸してさらに北に進み、18日03時にサハリン付近で温帯低気圧となった。また、日本海から北日本にかけて前線が停滞した。これらの影響で、北日本を中心に日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、北海道釧路市釧路で最大風速31.8メートルを観測するなど、北日本では暴風となり、北日本太平洋側では猛烈なしけとなった。これらの影響で、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、船舶の欠航等の交通障害が発生したほか、停電、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年11月16日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

8月16日	千葉県勝浦市勝浦(カツラ)	147.5 mm	京都府京田辺市京田辺(キョウタナベ)	128.5 mm
8月17日	福島県福島市鷲倉(ウシクラ)	203.5 mm	北海道上士幌町ぬかびら源泉郷(ヌカ ピラケンセンキョウ)	192.5 mm
	北海道白老町森野(モリノ)	190.5 mm	青森県野辺地町野辺地(ノヘジ)	182.5 mm
	北海道美瑛町白金(シロガネ)	157.5 mm	北海道釧路市阿寒湖畔(アカンコハン)	155.5 mm
	岩手県大槌町大槌(オオツチ)	151.0 mm	北海道置戸町置戸常元(オケツツネト)	145.0 mm
	北海道浦河町中杵臼(ナカキネウス)	140.5 mm	宮城県仙台市泉区泉ヶ岳(イズミガダケ)	138.5 mm
	茨城県北茨城市花園(ハナヅノ)	133.0 mm	山形県最上町瀬見(セミ)	132.5 mm
	秋田県鹿角市湯瀬(ユセ)	126.5 mm	北海道千歳市支笏湖畔(シツコハン)	121.5 mm
	和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ)	117.5 mm	北海道枝幸町北見枝幸(キタミエサン)	113.0 mm
	北海道滝川市滝川(タキカワ)	104.5 mm		

[主な最大風速]

8月16日	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	17.6 m/s	東北東	[23:18]
8月17日	北海道釧路市釧路(クシロ)	31.8 m/s	南	[19:46]
	北海道豊頃町大津(オオツ)	24.7 m/s	南南東	[18:30]

北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	24.1 m/s	南南東	[17:16]
北海道紋別市紋別小向(モンベツコムカイ)	21.5 m/s	西北西	[22:40]

8月18日から8月19日まで

前線が北日本付近に停滞した。この前線や気圧の谷の影響で、関東甲信地方では日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。

[主な日降水量]

8月18日	栃木県宇都宮市宇都宮(ウツバヤ)	113.5 mm	長野県上田市上田(ウエタ)	113.5 mm
	群馬県草津町草津(クサツ)	108.0 mm		
8月19日	岐阜県郡上市八幡(ハチマン)	67.0 mm		

[主な最大風速]

8月18日	北海道釧路市釧路(クシロ)	14.2 m/s	南南西	[00:25]
8月19日	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	17.8 m/s	北東	[23:17]

8月20日から8月23日まで

8月20日09時に日本の東海上で発生した台風第11号は、日本の東海上から三陸沖を進み、21日23時過ぎに北海道釧路市付近に上陸して北海道を縦断し、22日03時にオホーツク海で温帯低気圧となった。

また、19日15時に北マリアナ諸島の西海上で発生した台風第9号は、日本の南海上を北に進み、22日12時半頃に千葉県館山市付近に上陸した。台風はその後、東日本及び北日本を進んで、23日06時前に北海道日高地方中部に再上陸した後、23日12時にオホーツク海で温帯低気圧に変わった。また、台風第11号から変わった温帯低気圧からのびる前線が北日本を通過した。これらの影響で、東海地方の多いところでは日降水量が400ミリを超えたほか、東日本及び北日本では日降水量が100ミリを超える大雨となり、また、千葉県勝浦市勝浦で31.5メートルの最大風速を観測するなど、東日本から北日本にかけて暴風となり、東日本から北日本にかけての太平洋側では大しけとなった。また、大気の状態が不安定となったため、22日、日本版改良藤田スケールでJEF2の強さの竜巻が岩手県奥州市で発生したほか、千葉県及び宮城県東北地方で、竜巻等の突風が発生した。

大雨により、土砂災害、浸水害、洪水害が発生し、死者2名、負傷者82名の人的被害が発生した。また、大雨や暴風、高波により、公共施設、農地等への被害、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生し、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年11月16日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

8月20日	北海道赤平市赤平(アカヒラ)	173.5 mm	北海道旭川市旭川(アサヒカワ)	164.0 mm
	北海道上士幌町ぬかびら源泉郷(ヌカビラケンセ ンキョウ)	143.0 mm	北海道遠軽町遠軽(エンガル)	125.0 mm
8月21日	北海道標津町糸櫛別(イトクシベツ)	144.5 mm	北海道鶴居村鶴居(ツルイ)	142.5 mm
	北海道日高町日高門別(ヒダカモンベツ)	110.5 mm		
8月22日	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	422.0 mm	東京都大島町大島(オオシマ)	290.5 mm
	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	288.0 mm	埼玉県秩父市浦山(ウラヤマ)	225.5 mm
	栃木県小山市小山(オヤマ)	158.5 mm	山形県大蔵村肘折(ヒジオリ)	142.0 mm
	茨城県北茨城市花園(ハナヅノ)	142.0 mm	群馬県館林市館林(タテバヤシ)	135.0 mm
	千葉県館山市館山(タテヤマ)	130.5 mm	福島県南会津町田島(タジマ)	128.5 mm

	山梨県上野原市上野原(ウエノハラ)	120.5 mm	岐阜県飛騨市神岡(カオカ)	101.0 mm
8月23日	北海道美瑛町白金(シロガネ)	180.0 mm	茨城県水戸市水戸(ミト)	153.5 mm
	北海道平取町旭(アサヒ)	147.5 mm	北海道むかわ町鶴川(ムカワ)	118.5 mm
	栃木県真岡市真岡(モオカ)	111.5 mm		

[主な最大風速]

8月20日	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	15.8 m/s	北東	[00:05]
8月21日	東京都八丈町八重見ヶ原(ヤエミガハラ)	18.4 m/s	東北東	[23:59]
8月22日	千葉県勝浦市勝浦(カツウラ)	31.5 m/s	南	[13:17]
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	30.4 m/s	西	[10:43]
	福島県いわき市小名浜(オナハマ)	21.9 m/s	南	[19:43]
	宮城県石巻市石巻(イシノマキ)	21.2 m/s	南南東	[22:19]
8月23日	北海道釧路町知方学(チッポマナイ)	23.7 m/s	南	[07:53]
	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	20.0 m/s	西南西	[08:26]

8月24日から25日

気圧の谷や湿った空気の影響で、所々で雨が降り、東海地方では日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。

[主な日降水量]

8月24日	宮崎県日向市日向(ヒュウガ)	71.5 mm
8月25日	三重県紀北町紀伊長島(キイガシマ)	145.0 mm

[主な最大風速]

8月24日	沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ)	15.0 m/s	北東	[14:51]
8月25日	北海道釧路市釧路(クシロ)	13.3 m/s	南	[23:51]

8月26日から27日

オホーツク海の低気圧が北に進み、低気圧からのびる前線が日本海から本州付近へ南下した影響で、西日本から北日本にかけては雨が降り、東日本や東北地方では日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。この影響で、西日本から北日本にかけて浸水害が発生し、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、停電が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

8月26日	岩手県八幡平市荒屋(アラヤ)	121.5 mm	秋田県北秋田市阿仁合(アニアイ)	111.5 mm
8月27日	東京都小笠原村母島(ハハジマ)	162.0 mm	埼玉県鴻巣市鴻巣(コノス)	111.0 mm
	静岡県富士宮市白糸(シライト)	102.5 mm		

[主な最大風速]

8月26日	鳥取県鳥取市湖山(コヤマ)	15.4 m/s	北	[14:17]
8月27日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	17.0 m/s	北東	[22:06]

8月28日から8月31日まで

8月21日21時に四国の南海上で発生した台風第10号は、日本の南海上から三陸沖へ進み、30日17時

半頃に岩手県大船渡市付近に上陸した後北西に進み、31日00時に日本海で温帯低気圧に変わった。台風や低気圧の影響で全国的に雨が降り、近畿地方や東北地方では多い所で日降水量が200ミリを超えるなど、西日本から北日本にかけては大雨となった所があった。また、台風の影響で、最大風速が山形県酒田市飛島で25.3メートルとなるなど、東日本から北日本にかけて暴風となった所があったほか、東日本から北日本にかけての太平洋側は大しけとなり、海は猛烈なしけとなった所があった。

大雨により、北日本を中心に浸水害や洪水害、土砂災害が発生し、死者・行方不明者27名、負傷者15名の人的被害が発生した。また、大雨や暴風、高波により、公共施設、農地等への被害、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生し、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年11月16日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

8月28日	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	183.0 mm	長崎県対馬市厳原(イツハラ)	123.0 mm
	山口県萩市須佐(スサ)	116.5 mm	島根県益田市高津(タカツ)	103.5 mm
8月29日	奈良県上北山村上北山(カキタヤマ)	202.0 mm	三重県大台町宮川(ミヤガワ)	188.5 mm
	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンザン)	157.0 mm	高知県馬路村魚梁瀬(イサセ)	150.5 mm
	大阪府大阪市中央区大阪(オオサカ)	145.5 mm	福島県福島市鷲倉(ウシクラ)	129.0 mm
	島根県江津市桜江(サクラエ)	120.5 mm	広島県北広島町八幡(ヤワタ)	120.0 mm
	京都府南丹市園部(ソノベ)	116.5 mm	兵庫県篠山市後川(シツカワ)	116.5 mm
	岡山県津山市津山(ツヤマ)	111.0 mm		
8月30日	岩手県久慈市下戸鎖(シモトケサリ)	223.5 mm	青森県青森市酸ヶ湯(スカユ)	199.0 mm
	埼玉県秩父市三峰(ミツミネ)	199.0 mm	北海道伊達市大滝(オオタキ)	195.5 mm
	北海道南富良野町幾寅(イケトラ)	168.0 mm	北海道中札内村上札内(カサツナイ)	166.0 mm
	福島県福島市鷲倉(ウシクラ)	159.0 mm	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	140.0 mm
	北海道浦河町中杵臼(ナカキネウス)	138.0 mm	北海道釧路市阿寒湖畔(アカンコハン)	135.0 mm
	宮城県丸森町筆甫(ヒツポ)	124.5 mm	長野県北相木村北相木(キタアキ)	124.5 mm
	北海道七飯町大沼(オオヌマ)	118.0 mm		
8月31日	北海道上士幌町ぬかびら源泉郷(ヌカビラケンセンキョウ)	145.5 mm		

[主な最大風速]

8月28日	長崎県長崎市野母崎(ノモサキ)	18.7 m/s	北北西	[23:07]
8月29日	長崎県長崎市野母崎(ノモサキ)	18.6 m/s	北北西	[00:28]
8月30日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	25.3 m/s	西	[18:16]
	北海道函館市高松(タカマツ)	24.8 m/s	東南東	[21:31]
	北海道奥尻町奥尻(オクシリ)	24.4 m/s	南東	[22:31]
	北海道白老町白老(シラオイ)	23.6 m/s	東南東	[22:40]
	青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	23.6 m/s	東	[19:27]
	北海道浦河町浦河(ウラカワ)	22.7 m/s	東南東	[22:11]
	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	21.5 m/s	東	[19:05]
	岩手県宮古市宮古(ミヤコ)	21.3 m/s	南東	[18:32]
	宮城県石巻市石巻(イシノマキ)	21.0 m/s	東北東	[14:07]
8月31日	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	18.2 m/s	東	[02:32]

(9)9月3日～9月5日:全国(大雨、暴風、高波)＜台風第12号＞

9月1日09時に沖縄の南海上で発生した台風第12号は、九州の西海上を北上した後、5日01時過ぎに長崎県長崎市付近に上陸し、03時に熱帯低気圧となった。台風や湿った空気の影響で、奄美地方の多い所で日降水量が300ミリを超えるなど、九州南部・奄美地方を中心に大雨となった。また、長崎県長崎市野母崎で21.7メートルの最大風速を観測するなど、九州では暴風となった所があり、海は大しけとなった。

これらの影響で、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、平成28年9月4日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

9月3日	鹿児島県十島村中之島(ナカノシマ)	346.5	mm			
9月4日	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	216.5	mm	宮崎県西米良村西米良(ニシメラ)	207.5	mm
	鹿児島県志布志市志布志(シブシ)	182.5	mm	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	131.0	mm
	高知県須崎市須崎(スサキ)	121.0	mm	和歌山県田辺市本宮(ホングウ)	113.0	mm
9月5日	高知県安芸市安芸(アキ)	130.5	mm			

[主な最大風速]

9月3日	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	19.7	m/s	東	[15:46]
9月4日	長崎県長崎市野母崎(ノモザキ)	21.7	m/s	南東	[23:20]
9月5日	長崎県大村市大村(オオムラ)	16.0	m/s	南東	[01:18]

(10)9月6日～9月7日:全国(大雨、暴風、高波)＜台風第13号、低気圧、前線＞

9月6日15時に久米島の北海上で発生した台風第13号は九州の南海上を北東に進んだ後、7日09時に屋久島の南海上で熱帯低気圧となった。また、前線を伴った低気圧が日本海北部から千島の東に進んだ。台風や低気圧、前線の影響で、沖縄地方や近畿地方では日降水量が200ミリを超えるなど、南西諸島から北日本にかけては大雨となった所があった。また、最大風速が沖縄県座間味村慶良間で20.3メートルとなるなど、沖縄・奄美を中心に非常に強い風となり、海は大しけとなった所があった。

大雨の影響で、各地で土砂災害が発生し、北海道では死者1名の人的被害が発生した。また、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、船舶の欠航等の交通障害が発生した。(被害の状況は、平成28年11月16日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

9月6日	沖縄県宮古島市城辺(グスクベ)	213.5	mm	北海道稚内市稚内(ワッカナイ)	192.0	mm
	沖縄県石垣市石垣島(イガキシマ)	128.5	mm			
9月7日	和歌山県古座川町西川(ニシカワ)	219.0	mm	沖縄県南城市糸数(イトカス)	178.0	mm
	栃木県塩谷町塩谷(シオヤ)	156.0	mm	群馬県高崎市榛名山(ハルナサン)	142.5	mm

[主な最大風速]

9月6日	沖縄県座間味村慶良間(ケラマ)	20.3	m/s	南西	[15:02]
9月7日	沖縄県宮古島市下地(シモジ)	14.6	m/s	南西	[00:08]

(11)*9月17日～9月20日:全国(大雨、暴風、高波)＜台風第16号＞

9月13日03時に北マリアナ諸島の西海上で発生した台風第16号は、9月17日に沖縄県与那国島付近を北上した後に東シナ海を北東へ進み、9月20日00時過ぎに強い勢力で鹿児島県大隅半島に上陸した。その後、台風は四国沖を北東へ進み、9月20日13時半頃に和歌山県田辺市付近に再上陸し、更に17時過ぎに愛知県常滑市付近に再上陸した後、21時に東海道沖で温帯低気圧となった。

台風第16号や台風から変わった温帯低気圧、日本付近に停滞した前線の影響で、宮崎県や大分県で日降水量が300ミリを超えるなど、九州地方や四国地方の太平洋側を中心に日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、沖縄県与那国町与那国島で46.6メートル、高知県室戸市室戸岬で33.7メートルの最大風速を観測するなど、沖縄・奄美から東日本にかけて暴風となったほか、沖縄・奄美から東日本にかけて大しけとなり、沖縄・奄美から西日本太平洋側にかけては猛烈なしけとなった所があった。

大雨により、土砂災害、浸水害等が発生し、死者1名、負傷者48名の人的被害が発生した。また、大雨や暴風、高波により、公共施設、農地等への被害、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生し、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年11月16日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

9月17日	沖縄県与那国町所野(トコロ)	305.0 mm	宮崎県串間市串間(クシマ)	175.5 mm
	長崎県対馬市鱒浦(ワニウラ)	138.0 mm		
9月18日	佐賀県嬉野市嬉野(ウレシノ)	240.0 mm	高知県田野町田野(タノ)	233.0 mm
	和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	200.5 mm	福岡県北九州市小倉南区東谷(ヒガシタニ)	169.0 mm
	鹿児島県薩摩川内市中甕(ナカウシキ)	162.5 mm	長野県玉滝村御嶽山(オンタケサン)	143.0 mm
	兵庫県福崎町福崎(フクサキ)	133.5 mm	徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	125.5 mm
	広島県安芸高田市甲田(コウダ)	118.5 mm	長崎県平戸市平戸(ヒラト)	115.5 mm
	岐阜県飛騨市神岡(カミオカ)	103.0 mm	山口県萩市萩(ハギ)	102.0 mm
	京都府京都市中京区京都(キョウト)	101.0 mm	富山県黒部市宇奈月(ウナヅキ)	100.5 mm
	島根県益田市匹見(ヒキミ)	100.5 mm		
9月19日	宮崎県日向市日向(ヒュウガ)	355.0 mm	鹿児島県枕崎市枕崎(マクラザキ)	142.5 mm
	大分県佐伯市宇目(ウメ)	139.5 mm	静岡県富士市富士(フジ)	128.5 mm
	高知県四万十市中村(ナカムラ)	106.5 mm	三重県四日市市四日市(ヨッカイチ)	100.5 mm
9月20日	大分県佐伯市蒲江(カマエ)	324.0 mm	高知県四万十町窪川(クボカワ)	295.0 mm
	徳島県徳島市徳島(トクシマ)	250.5 mm	宮崎県美郷町神門(シカト)	234.0 mm
	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	202.0 mm	愛媛県愛南町御荘(ミショウ)	196.0 mm
	兵庫県洲本市洲本(スモト)	194.5 mm	三重県四日市市四日市(ヨッカイチ)	184.0 mm
	香川県東かがわ市引田(ヒケタ)	176.0 mm	鳥取県鳥取市鹿野(シカノ)	171.5 mm
	愛知県愛西市愛西(アイサイ)	160.0 mm	岐阜県関市関市板取(セキシイタリ)	155.5 mm
	長野県阿智村浪合(ナミアイ)	152.5 mm	鹿児島県霧島市牧之原(マキノハラ)	147.5 mm
	奈良県曽爾村曾爾(ソニ)	146.0 mm	山梨県山中湖村山中(ヤマナカ)	141.0 mm
	東京都三宅村三宅島(ミヤケンマ)	137.0 mm	和歌山県高野町高野山(コウヤサン)	130.0 mm
	千葉県茂原市茂原(モハラ)	121.0 mm	福井県大野市九頭竜(クスリユウ)	117.0 mm
	神奈川県横浜市中区横浜(ヨコハマ)	112.0 mm	滋賀県高島市朽木平良(クツキヘラ)	112.0 mm
	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	110.5 mm	埼玉県秩父市三峰(ミツミネ)	105.5 mm
	京都府舞鶴市舞鶴(マイヅル)	105.5 mm	岡山県真庭市上長田(カミナガタ)	102.5 mm

[主な最大風速]

9月17日	沖縄県与那国町与那国島(ヨナグニジマ)	46.6	m/s	東	[10:08]
9月18日	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	16.2	m/s	西南西	[05:50]
9月19日	鹿児島県枕崎市枕崎(マクラサキ)	30.3	m/s	北北西	[24:00]
9月20日	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	33.7	m/s	東南東	[10:39]
	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	30.8	m/s	南西	[00:48]
	宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	30.3	m/s	北東	[03:18]
	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	27.7	m/s	北東	[03:26]
	和歌山県白浜町南紀白浜(ナンキシラハマ)	25.8	m/s	南南東	[13:09]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	23.3	m/s	北北西	[18:00]
	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	21.8	m/s	北北東	[13:40]

(12)9月28日～9月29日:西日本から東北地方(大雨、突風)＜前線、不安定＞

9月28日から29日にかけては、日本海から東北地方にかけて停滞する前線が南下して九州南部から本州南岸に達した。前線や湿った空気の影響で、西日本から東北地方にかけて雨が降り、長崎県で日降水量が400ミリを超えるなど、西日本を中心に日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。

この影響で、西日本を中心に浸水害が発生したほか、道路の通行不能、鉄道の運休等の交通障害が発生した。また、大気の状態が不安定となったため、28日には、日本版改良藤田スケールで JEF2 の強さの竜巻が福岡県筑後市から八女市にかけて発生し、負傷者1名の人的被害、全壊1棟の住家被害が発生したほか、佐賀県でも竜巻が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

9月28日	長崎県新上五島町頭ヶ島(カシラガシマ)	401.0	mm	佐賀県伊万里市伊万里(イマリ)	199.5	mm
	福岡県太宰府市太宰府(タザイフ)	147.5	mm	石川県志賀町志賀(シカ)	108.0	mm
	島根県隠岐の島町西郷岬(サイゴウサキ)	102.5	mm	京都府長岡京市長岡京(ナガオカキョウ)	101.0	mm
	大阪府茨木市茨木(イバラキ)	101.0	mm			
9月29日	熊本県南小国町南小国(ナミオクニ)	140.0	mm	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	112.5	mm
	高知県馬路村魚梁瀬(イナセ)	102.0	mm	福岡県大牟田市大牟田(オオムタ)	100.0	mm

(13)10月3日～10月5日:沖縄・奄美から東日本(大雨、暴風、突風、高波)＜台風第18号＞

9月29日15時にグアム島の西海上で発生した台風第18号は、フィリピンの東を西へ進み、その後北上して10月3日に沖縄本島地方に最も接近した後、九州の西海上で進路を次第に東よりに変え、対馬海峡から日本海へ進んで5日21時に能登半島付近で温帯低気圧に変わった。台風の影響により、沖縄県久米島町北原で最大風速48.1メートルを観測するなど、沖縄本島地方では猛烈な風が吹き、海は猛烈なしけとなった所があったほか、西日本から東日本にかけての広い範囲で日本海側を中心に暴風となり、海は大しけとなった。また、台風や前線、湿った空気の影響により、西日本では日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。

これらの影響により、沖縄・奄美から東日本にかけて、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した。また、停電、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。また、大気の状態が不安定となったため、5日、日本版改良藤田スケールで JEF2 の強さの竜巻が高知県高知市から南国市にかけて発生し、負傷者4名の人的被害、半壊1棟の住家被害が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成28年11月16日の内閣府の情報による)

[主な日降水量]

10月3日	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	165.5 mm
10月4日	沖縄県久米島町北原(キタハラ)	53.0 mm
10月5日	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	94.0 mm

[主な最大風速]

10月3日	沖縄県久米島町北原(キタハラ)	30.9 m/s	東北東	[24:00]
10月4日	沖縄県久米島町北原(キタハラ)	48.1 m/s	南東	[00:47]
	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	27.5 m/s	西北西	[08:11]
	北海道釧路市釧路(クシロ)	23.2 m/s	西	[08:18]
	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	22.4 m/s	西	[15:22]
10月5日	島根県隠岐の島町西郷岬(サイコウミサキ)	26.1 m/s	南南西	[16:48]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	23.7 m/s	南	[17:37]
	石川県金沢市金沢(カナザワ)	23.1 m/s	南西	[21:12]
	長崎県対馬市美津島(ミツシマ)	22.5 m/s	南	[09:25]
	富山県朝日町泊(トマリ)	21.9 m/s	西南西	[23:10]
	京都府京丹後市間人(タイサ)	21.9 m/s	西南西	[20:14]
	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	20.7 m/s	南南東	[09:02]
	新潟県佐渡市弾崎(ハジキサキ)	20.6 m/s	北北西	[24:00]

(14)10月6日:沖縄地方(その他)＜気圧の谷＞

10月6日は、気圧の谷や台風第19号の周りの湿った空気の影響で、沖縄地方では大気の状態が不安定となり、雨が降り雷を伴った所があった。

雷の影響により、沖縄県では大規模な停電が発生した。(被害の状況は、気象庁調べ)

[主な日降水量]

10月6日	沖縄県石垣市盛山(モリヤマ)	34.5 mm
-------	----------------	---------

(15)*12月22日～12月23日:西日本から北日本(暴風、突風)＜低気圧、前線＞

12月22日から23日にかけては、前線を伴う低気圧が朝鮮半島付近から津軽海峡付近に進んだほか、前線上の釧路沖に別の低気圧が発生して千島の東海上に進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて非常に強い風が吹いた所があった。また、大気の状態が不安定となったため、22日、和歌山県で突風が発生した。

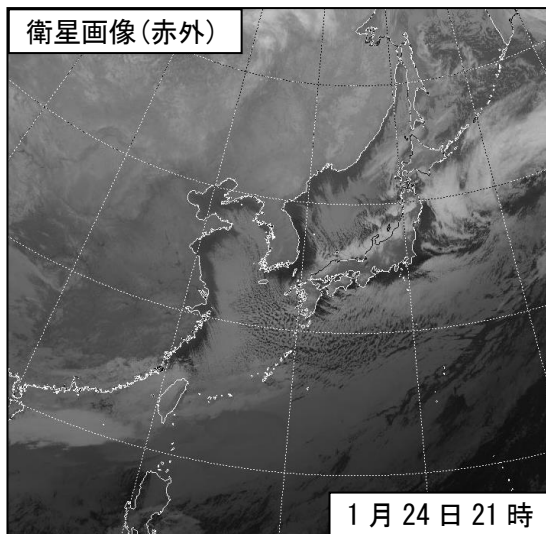
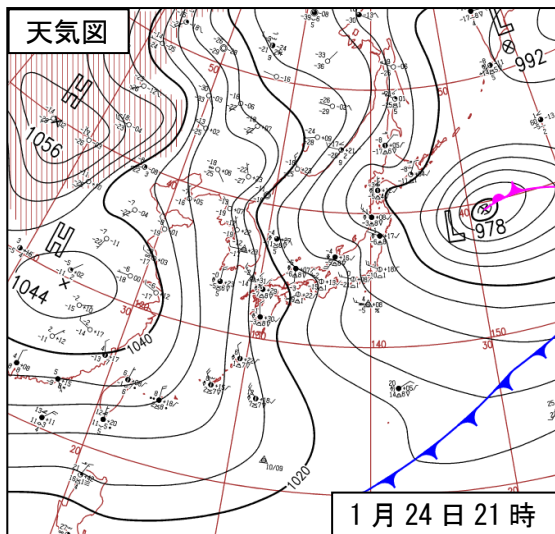
西日本から北日本にかけて鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害や停電が発生した。また、新潟県糸魚川市では、12月22日10時20分頃に発生した火災が強風により広範囲に延焼拡大し、家屋の全焼120棟、半焼5棟、部分焼22棟の被害が発生した。糸魚川市糸魚川では、22日10時18分に、14.2メートルの最大風速(風向:南)を観測した。(被害の状況は、気象庁及び、平成29年1月20日の総務省消防庁の情報による)

[主な最大風速]

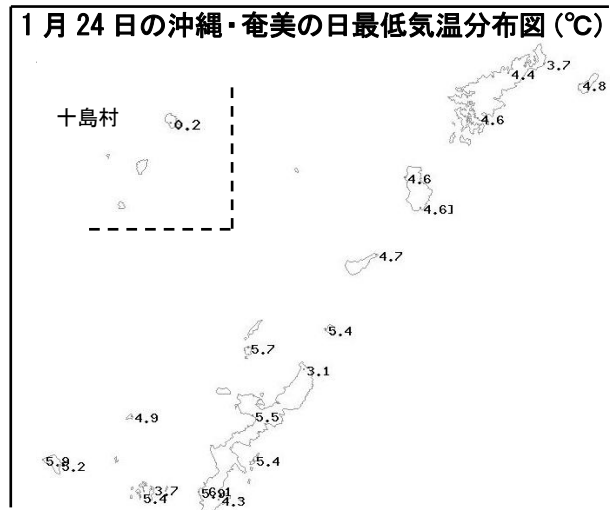
12月22日	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	30.6 m/s	南西	[19:16]
	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	24.8 m/s	北東	[23:20]

	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	23.4	m/s	南	[12:47]
	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	21.6	m/s	南	[10:37]
12月23日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	25.3	m/s	北北東	[02:02]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	23.3	m/s	西	[07:06]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	21.1	m/s	西北西	[01:31]
	北海道奥尻町奥尻(オクシリ)	20.7	m/s	北	[18:43]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	20.7	m/s	西北西	[01:40]
	宮城県名取市名取(ナトリ)	20.1	m/s	西南西	[10:31]

資料 1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料
災害番号 (2)
天気図等



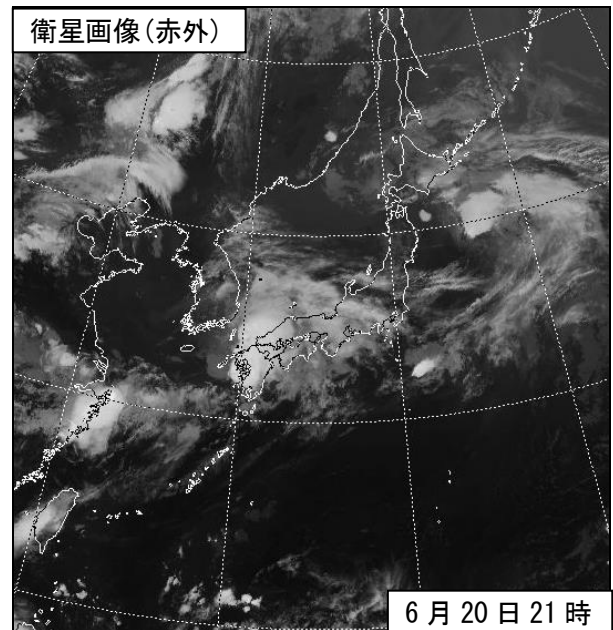
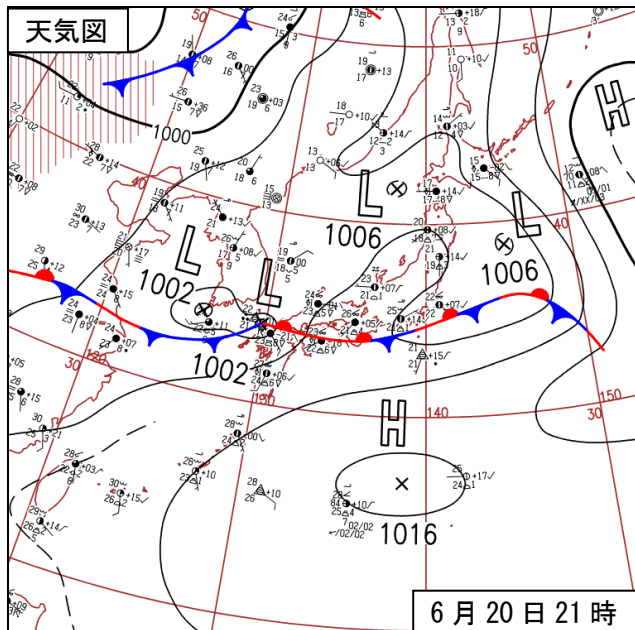
1月25日の中国地方、四国地方、九州北部地方、九州南部の日最低気温分布図 (°C)



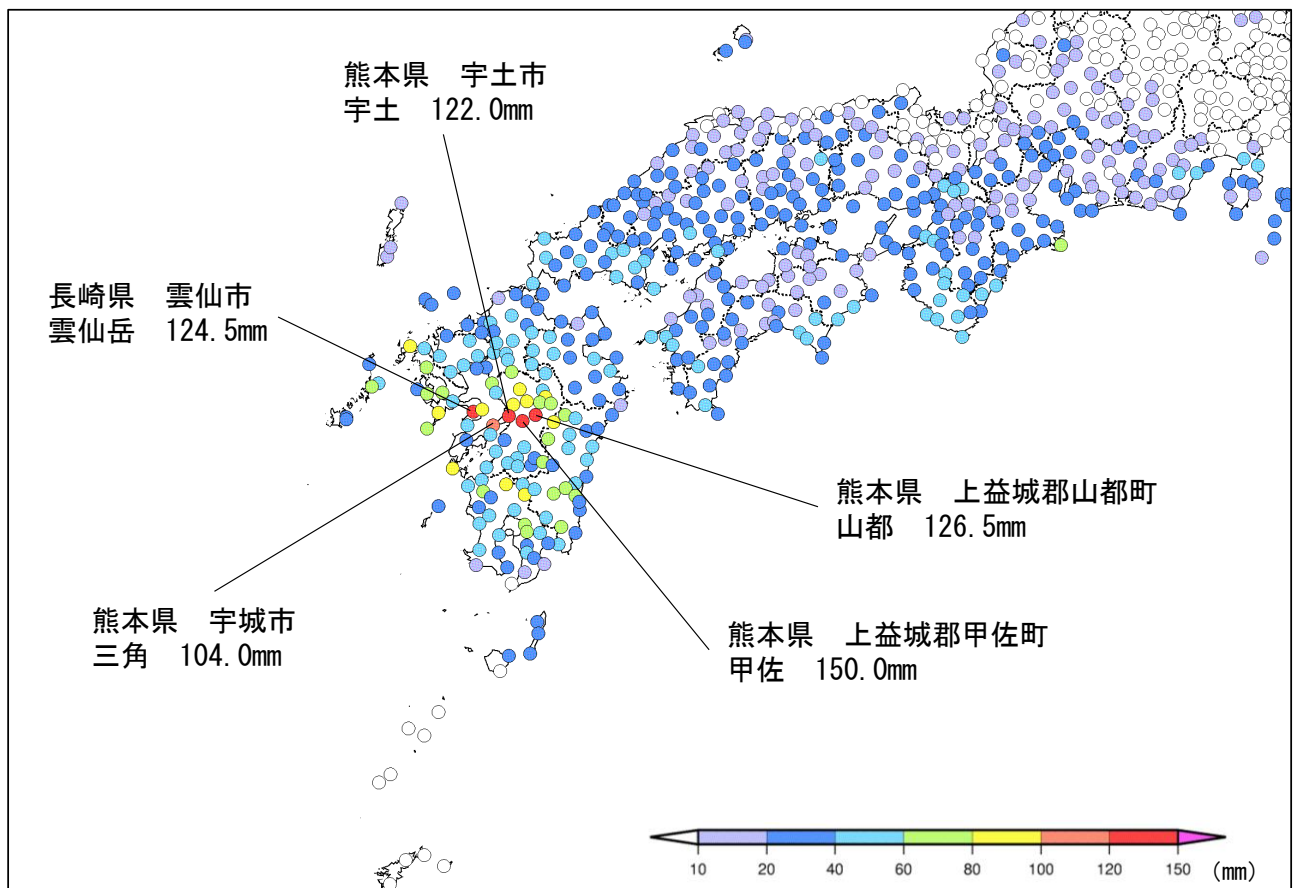
X : 欠測していることを示す。
 I : 統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けていることを示す (資料不足値)。

災害番号 (5)

天気図等

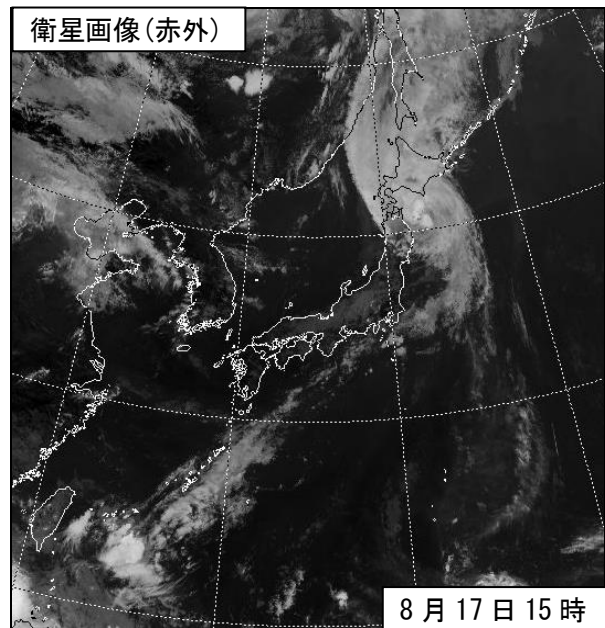
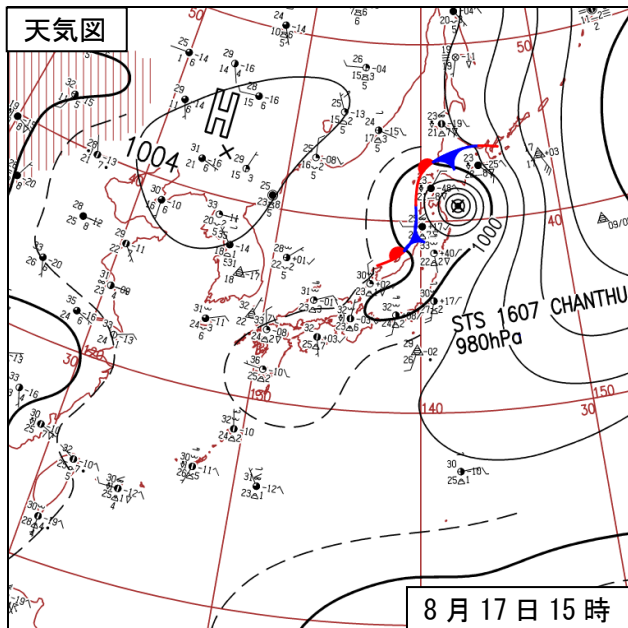


期間 [6月19日~6月24日]中の最大1時間降水量分布図

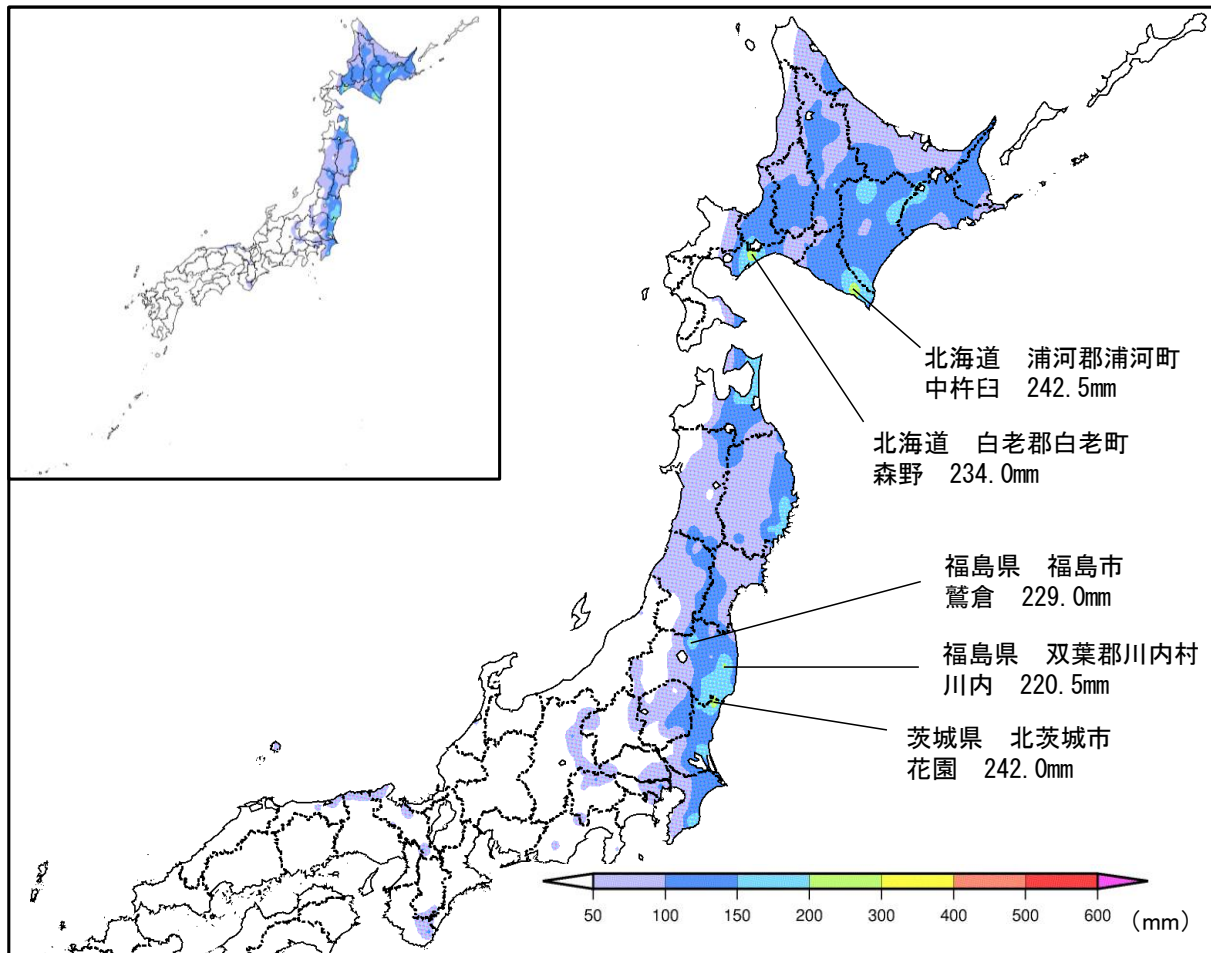


※上位5位の地点については地点名・値を記載

災害番号 (8)
 (台風第7号関連)
 天気図等



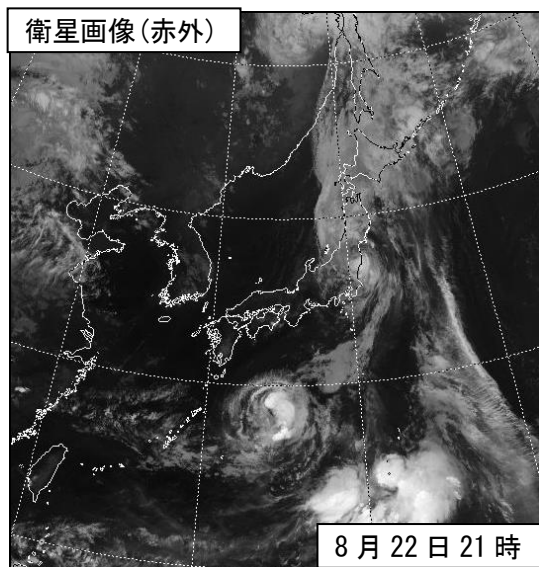
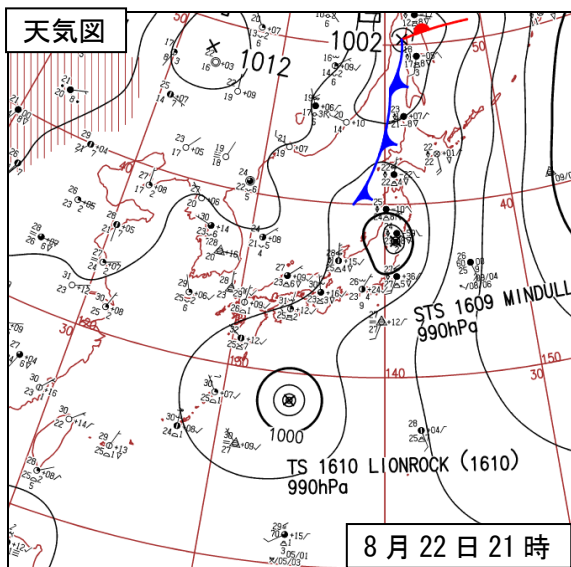
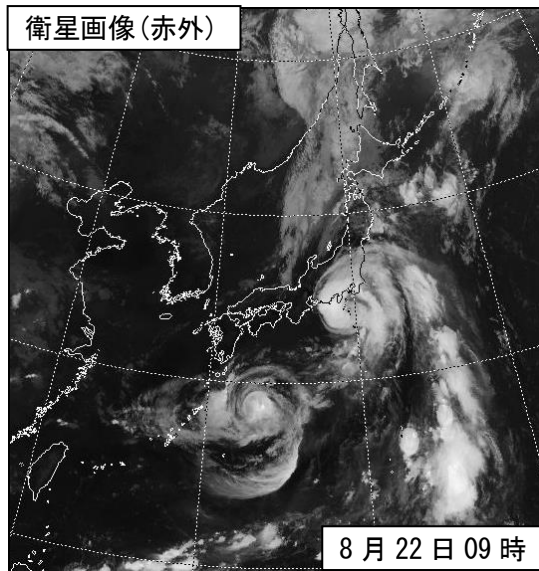
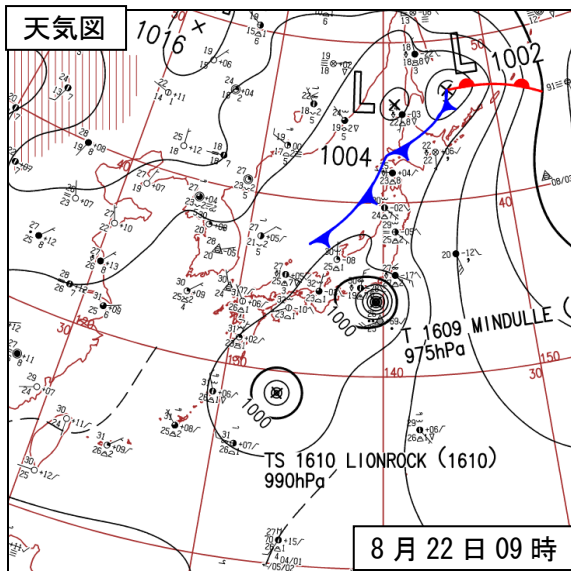
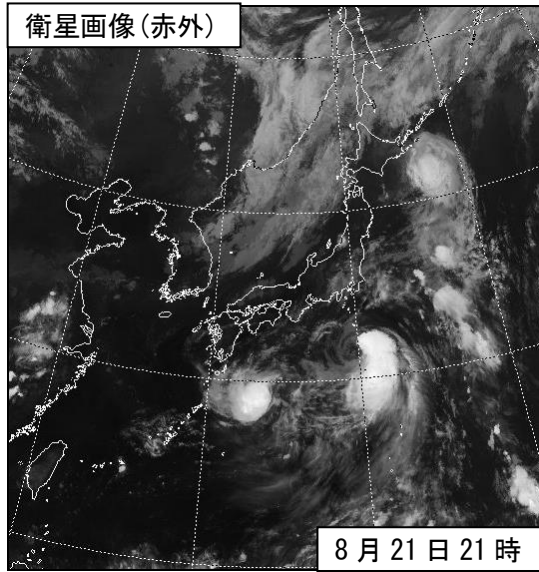
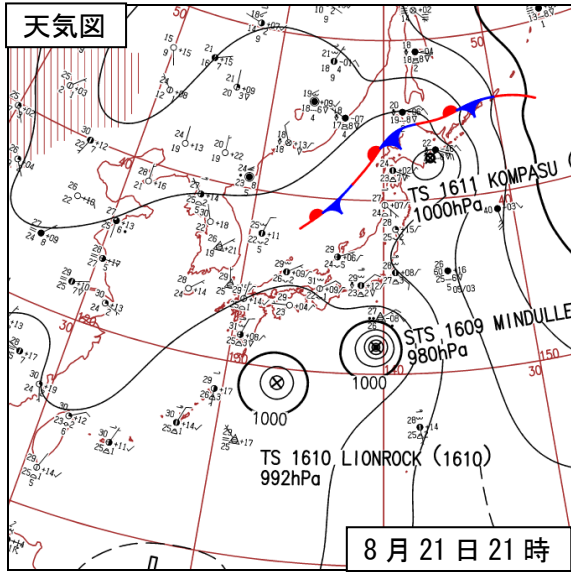
期間 [8月16日~8月18日]総降水量分布図



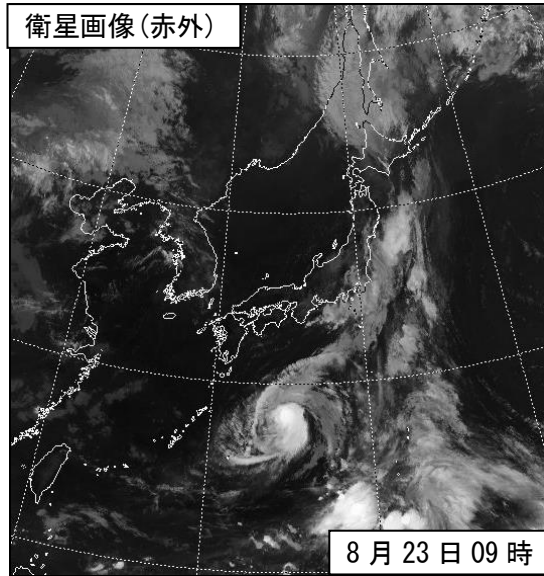
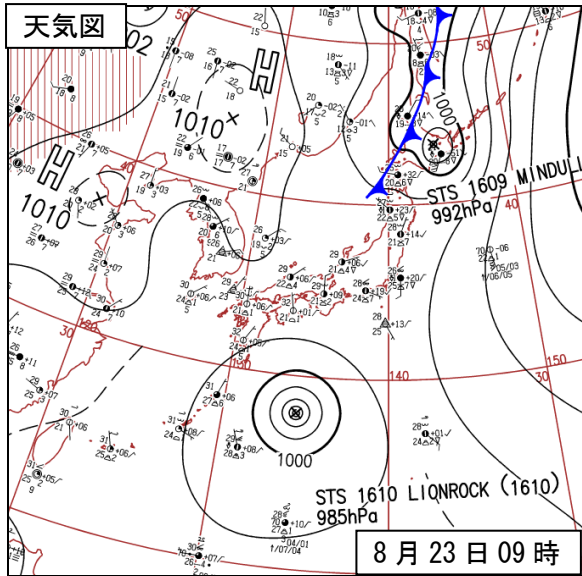
※上位5位の地点については地点名・値を記載

(台風第11号、第9号関連)

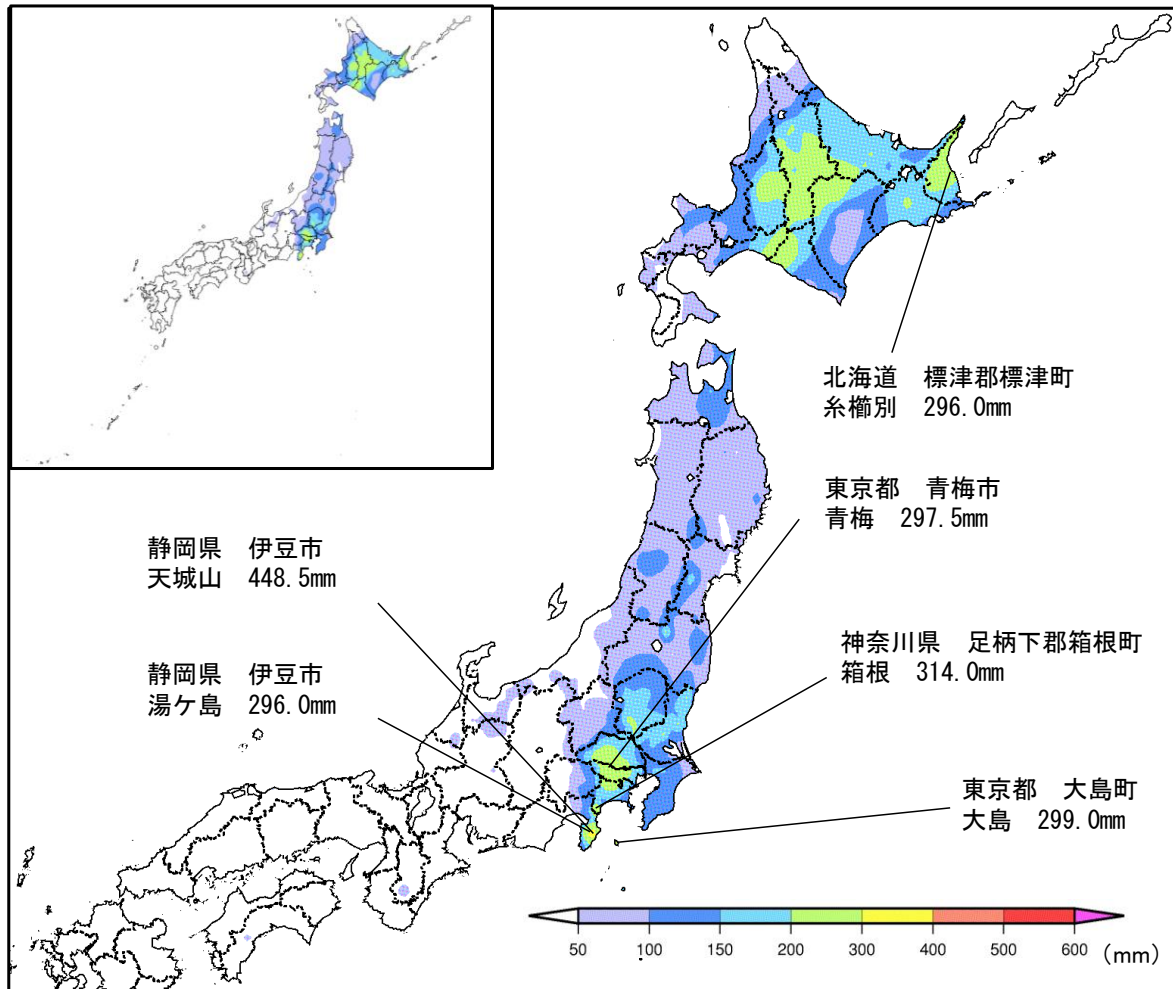
天気図等



天気図等



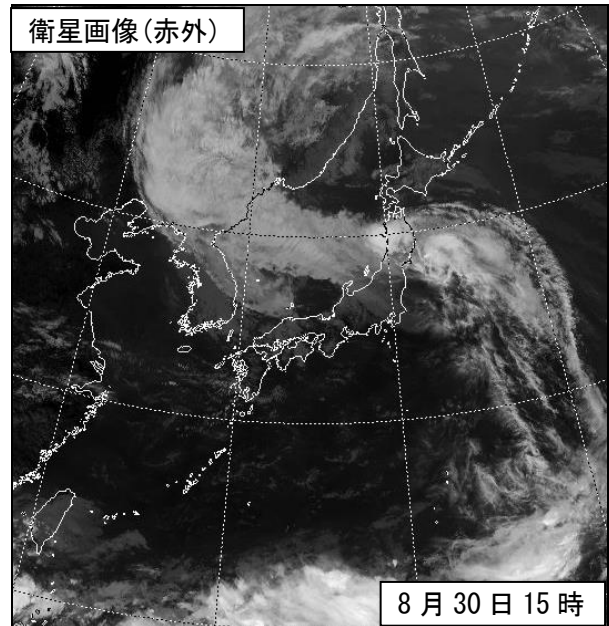
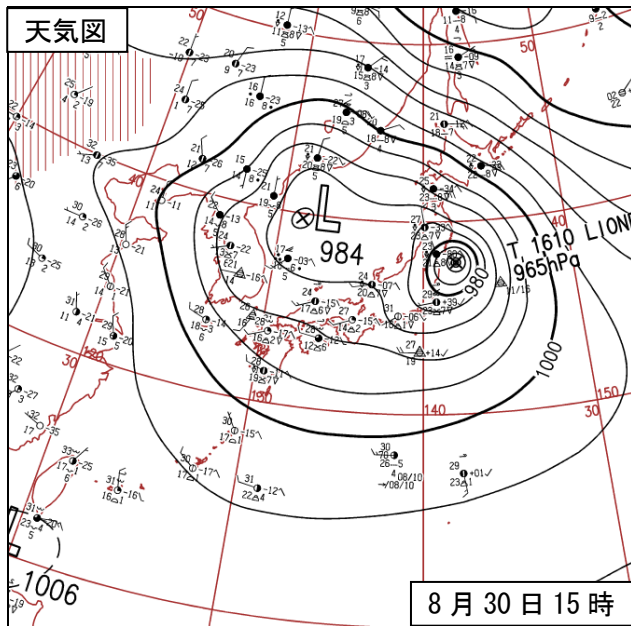
期間 [8月20日~8月23日]総降水量分布図



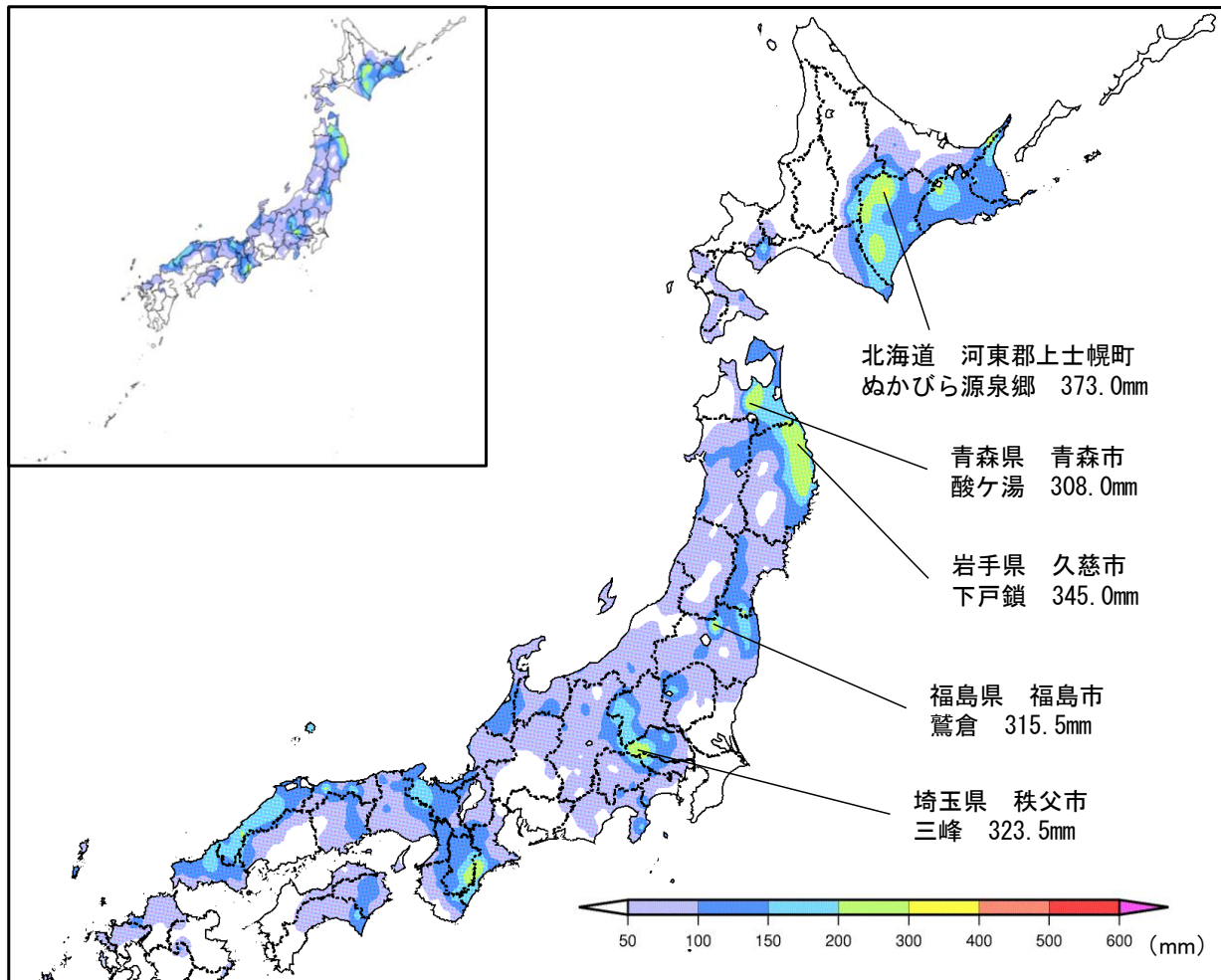
※上位5位の地点については地点名・値を記載

(台風第10号関連)

天気図等



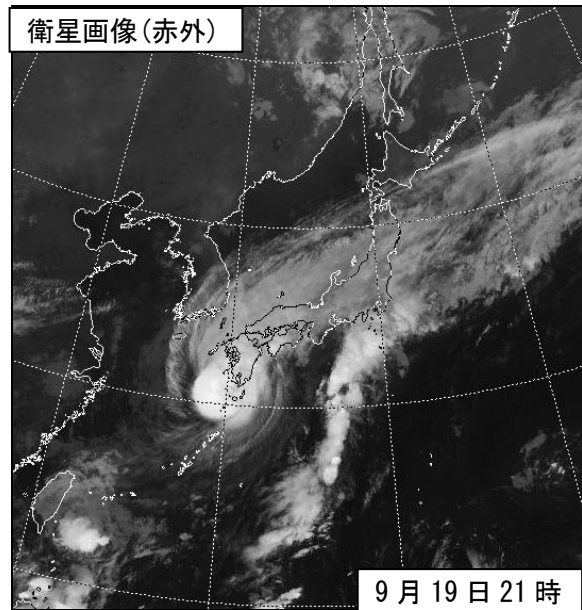
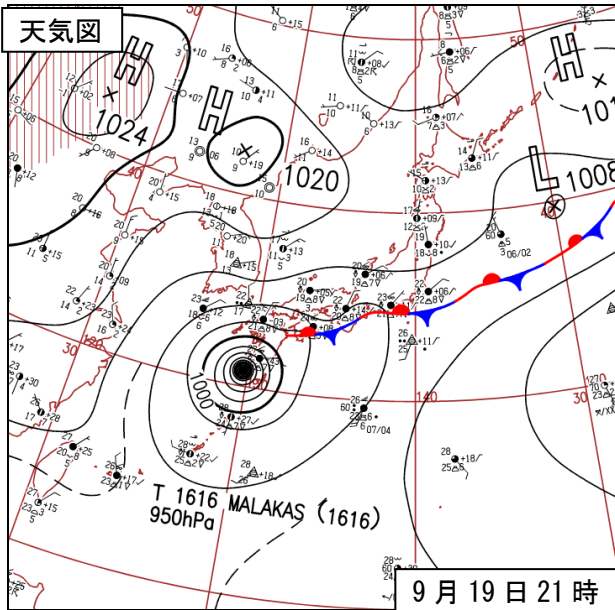
期間 [8月26日~8月31日] 総降水量分布図



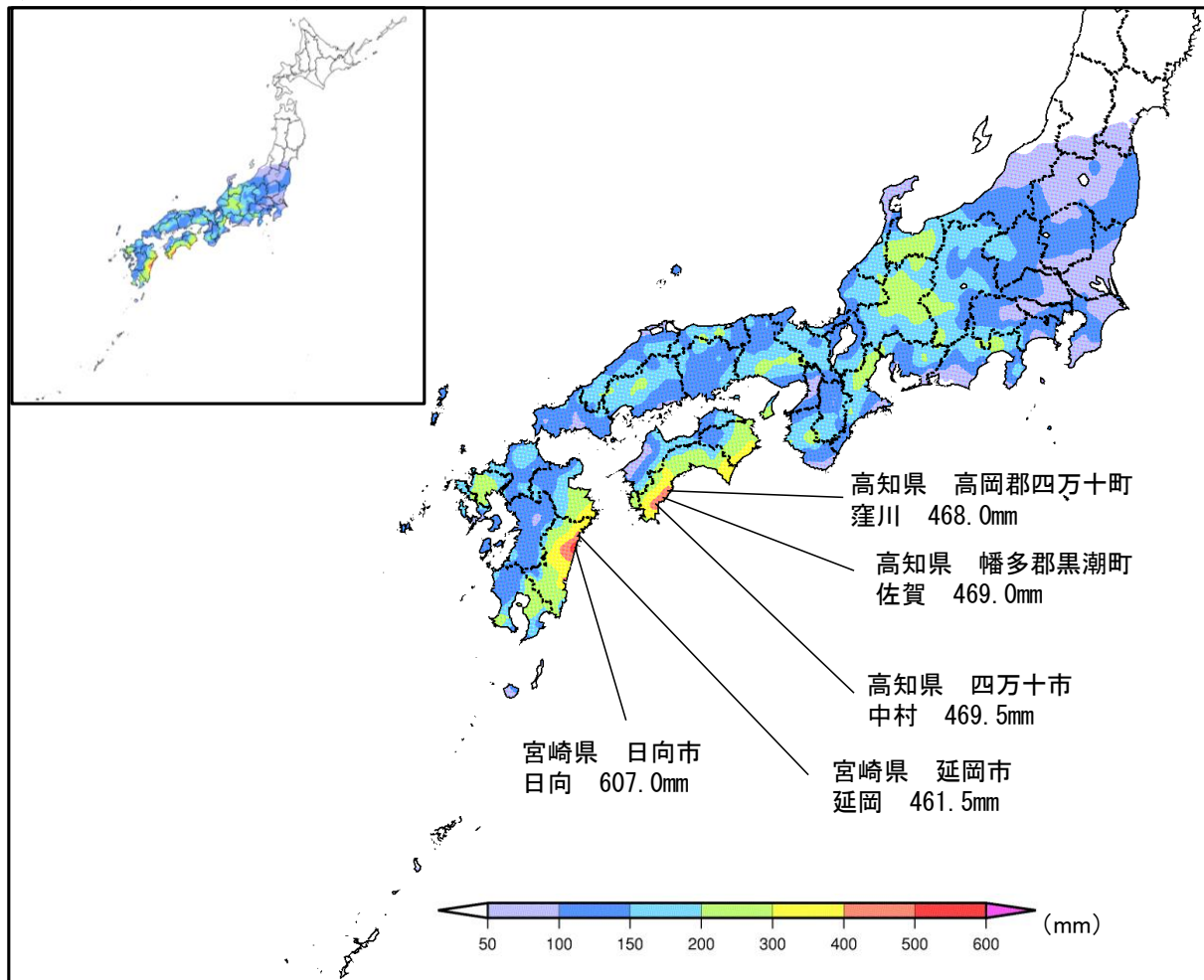
※上位5位の地点については地点名・値を記載

災害番号 (11)

天気図等



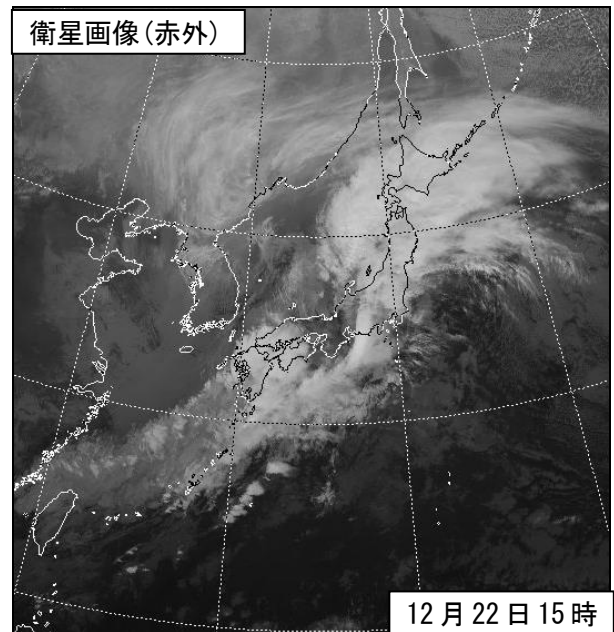
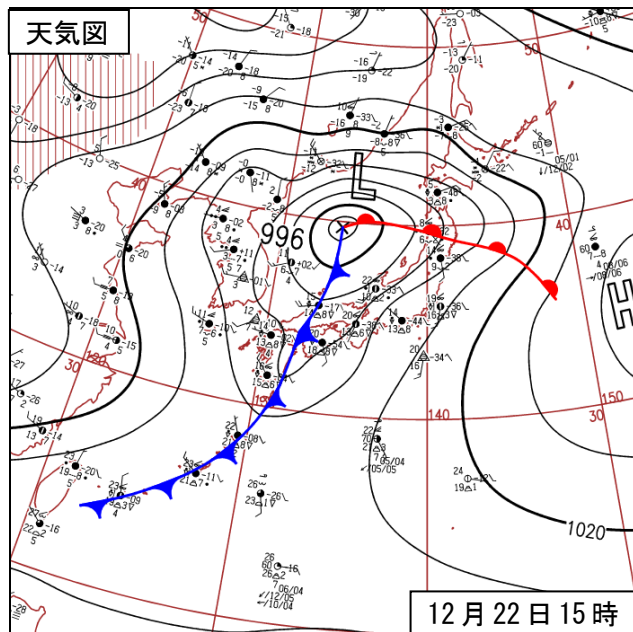
期間 [9月17日~9月20日]総降水量分布図



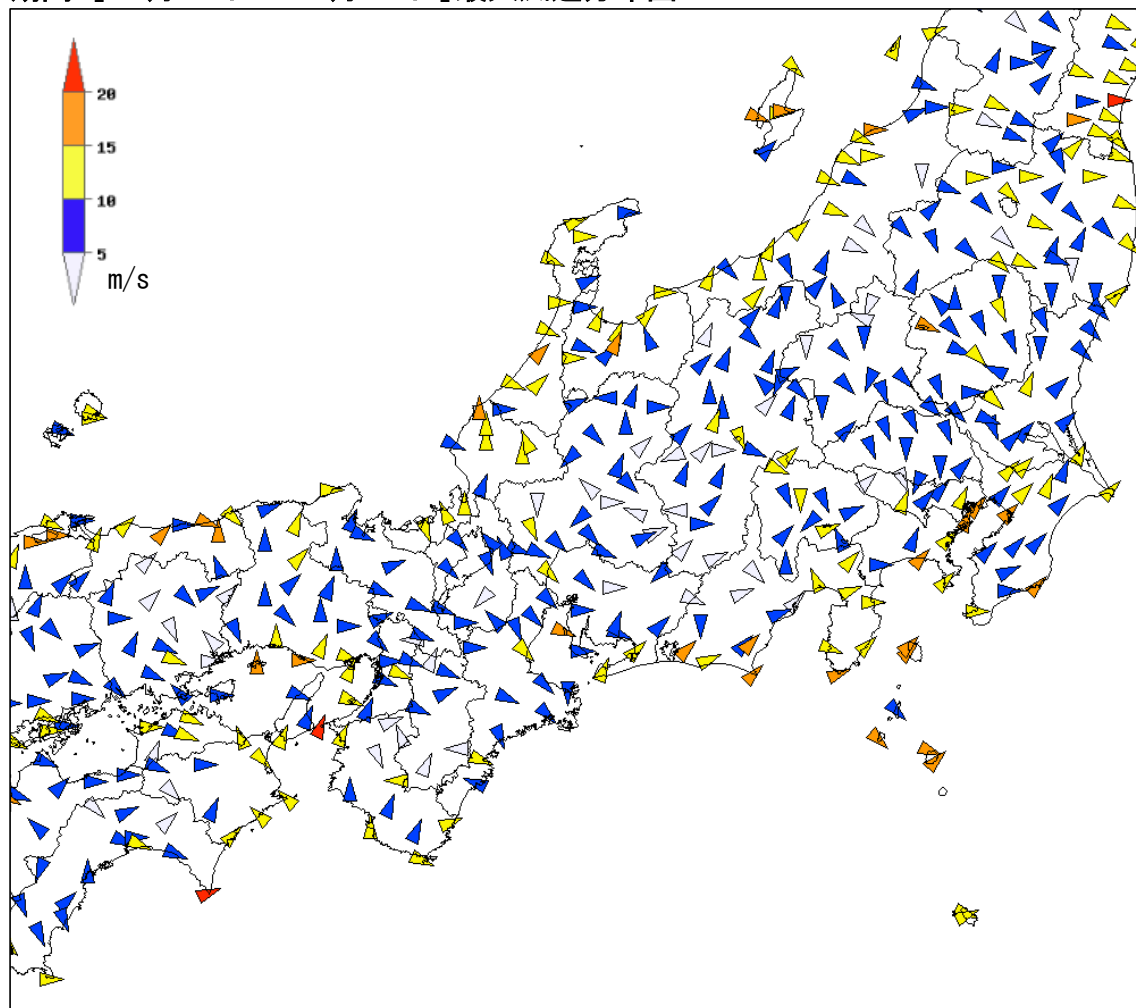
※上位5位の地点については地点名・値を記載

災害番号 (15)

天気図等



期間 [12月22日~12月23日]最大風速分布図



資料1-2-2 平成28年に発生した主な竜巻等の突風

発生日時	現象区別	発生場所	主な被害状況	日本版改良藤田(JEF)スケール	気象状況
3月28日 11時40分頃	じん旋風	福島県 猪苗代町	負傷者1名	F0 ※	移動性高気圧・寒気の移流
7月4日 15時から16時頃	不明	山梨県 甲府市、 斐崎市	負傷者3名	JEF0	停滞前線
8月22日 07時10分頃	竜巻	千葉県 南房総市	負傷者1名	JEF1	台風
8月22日 07時30分頃	不明	千葉県 南房総市	住家半壊3棟	JEF1	台風
9月28日 20時10分頃	竜巻	福岡県 筑後市、 八女市	負傷者1名、住家全 壊1棟	JEF2	停滞前線
10月5日 14時20分頃	竜巻	高知県 高知市、 南国市	負傷者4名、住家半 壊1棟	JEF2	暖気の移流

被害（死者、負傷者、住家全壊、住家半壊）が発生したものを掲載しています。

詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載していますのでご参照ください。

(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

※平成28年3月までは藤田(F)スケール、平成28年4月以降は日本版改良藤田(JEF)スケールにより評定しています。

※日本版改良藤田スケール(JEFスケール)

米国シカゴ大学の藤田哲也により1971年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをよりの確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケールです。

階級	風速(m/s)の範囲	主な被害の状況(参考)
	(3秒値)	
JEF0	25-38	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、目視でわかる程度の被害、飛散物による窓ガラスの損壊が発生する。比較的狭い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。 ・園芸施設において、被覆材(ビニルなど)がはく離する。パイプハウスの鋼管が変形したり、倒壊する。 ・物置が移動したり、横転する。 ・自動販売機が横転する。 ・コンクリートブロック塀(鉄筋なし)の一部が損壊したり、大部分が倒壊する。 ・樹木の枝(直径2cm~8cm)が折れたり、広葉樹(腐朽有り)の幹が折損する。
JEF1	39-52	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、比較的広い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。屋根の軒先又は野地板が破損したり、飛散する。 ・園芸施設において、多くの地域でプラスチックハウスの構造部材が変形したり、倒壊する。 ・軽自動車や普通自動車(コンパクトカー)が横転する。 ・通常走行中の鉄道車両が転覆する。 ・地上広告板の柱が傾斜したり、変形する。 ・道路交通標識の支柱が傾倒したり、倒壊する。 ・コンクリートブロック塀(鉄筋あり)が損壊したり、倒壊する。 ・樹木が根返りしたり、針葉樹の幹が折損する。
JEF2	53-66	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、上部構造の変形に伴い壁が損傷(ゆがみ、ひび割れ等)する。また、小屋組の構成部材が損壊したり、飛散する。 ・鉄骨造倉庫において、屋根ふき材が浮き上がったり、飛散する。 ・普通自動車(ワンボックス)や大型自動車が横転する。 ・鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。 ・カーポートの骨組が傾斜したり、倒壊する。 ・コンクリートブロック塀(控壁のあるもの)の大部分が倒壊する。 ・広葉樹の幹が折損する。 ・墓石の棹石が転倒したり、ずれたりする。
JEF3	67-80	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 ・鉄骨系プレハブ住宅において、屋根の軒先又は野地板が破損したり飛散する、もしくは外壁材が変形したり、浮き上がる。 ・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが比較的広い範囲で変形する。 ・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的狭い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。 ・鉄骨造倉庫において、外壁材が浮き上がったり、飛散する。 ・アスファルトがはく離・飛散する。
JEF4	81-94	<ul style="list-style-type: none"> ・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的広い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。
JEF5	95-	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨系プレハブ住宅や鉄骨造の倉庫において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 ・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが著しく変形したり、脱落する。

日本版改良藤田スケールに関するガイドライン

(http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221_kentoukai/guideline.pdf) より

資料 1-2-3 平成 28 年（2016 年）激甚災害指定状況一覧表（地すべり、地震、火山を除く）

■激甚災害（本激：地域を特定せず、災害そのものを指定）

<内閣府作成資料等から引用>

期間	災害原因	気象要因
6/6～7/15※	豪雨	梅雨前線
8/16～9/1	暴風雨、豪雨	台風第 7 号、台風第 9 号、台風第 10 号、台風第 11 号
9/17～9/21※	暴風雨、豪雨	台風第 16 号

■局地激甚災害（局激：市町村単位で災害を指定）

期間	災害原因	気象要因	対象地区	
			都道府県	市町村
4/6～4/7	豪雨	前線	長野県	小谷村
			高知県	北川村
6/6～7/15※	豪雨	梅雨前線	熊本県	美里町、産山村、御船町、甲佐町、山都町
			宮崎県	諸塚村、五ヶ瀬町
			鹿児島県	十島村
9/17～9/21※	暴風雨、豪雨	台風第16号	高知県	三原村
			鹿児島県	垂水市

※本激は農地等、局激は公共土木施設等

(注)激甚災害および局地激甚災害は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき指定された政令により公布される。

(参考) 激甚災害について

＜内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用＞

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

3 本激と局激の違い

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。

ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

2 平成 28 年(2016 年)台風の概要

2-1 平成 28 年(2016 年)に発生した台風

台風の発生数は平年並の 26 個(平年値 25.6 個)であった。日本への接近数は平年並の 11 個(平年値 11.4 個)であり、日本への上陸数は平年より多い 6 個(平年値 2.7 個)であった。

表 2.1 平成 28 年(2016 年)の台風発生数、日本への上陸数*¹、日本への接近数*²と平年値及び平成 27 年(2015 年)との比較

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
		平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	
上陸数						0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
接近数					0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成 27 年 (2015 年)	発生数	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27
	上陸数							2	1	1				4
	接近数					2		3	4	4		1		14
平成 28 年 (2016 年)	発生数							4	7	7	4	3	1	26
	上陸数								4	2				6
	接近数							1	5	4	1			11

(注)・平年値は、昭和 56 年(1981 年)～平成 22 年(2010 年)の 30 年平均。

- ・日本への接近は 2 か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*¹ 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合をいう。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

接近*² 台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から 300km 以内に入った場合をいう。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)
52 27	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)
53 28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	1	23 (-)
54 29	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21 (-)
55 30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	1	28 (0)
56 31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	1	23 (-)
57 32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	0	22 (-)
58 33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	2	31 (+)
59 34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	2	23 (-)
60 35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	1	27 (0)
1961 36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	1	29 (+)
62 37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	1	30 (+)
63 38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	3	24 (0)
64 39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	1	34 (+)
65 40	2	1	1	1	2	3	5	5	8	2	2	0	32 (+)
66 41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	4	3	1	35 (+)
67 42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	1	39 (+)
68 43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	0	27 (0)
69 44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	1	19 (-)
70 45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	0	26 (0)
1971 46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	0	36 (+)
72 47	1	0	0	0	1	3	6	5	5	5	3	2	31 (+)
73 48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	0	21 (-)
74 49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	2	32 (+)
75 50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	1	21 (-)
76 51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	2	25 (0)
77 52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	2	21 (-)
78 53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	0	30 (+)
79 54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	2	24 (0)
80 55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	1	24 (0)
1981 56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	2	29 (+)
82 57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	1	25 (0)
83 58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	2	23 (-)
84 59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	1	27 (0)
85 60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	2	27 (0)
86 61	0	1	0	1	2	2	3	5	3	5	4	3	29 (+)
87 62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	1	23 (-)
88 63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	1	31 (+)
89 H.1	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	1	32 (+)
90 2	1	0	0	1	1	3	4	6	4	4	4	1	29 (+)
1991 3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	0	29 (+)
92 4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	0	31 (+)
93 5	0	0	1	0	0	1	4	7	5	5	2	3	28 (0)
94 6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	2	36 (+)
95 7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	1	23 (-)
96 8	0	1	0	1	2	0	5	6	6	2	2	1	26 (0)
97 9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	1	28 (0)
98 10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	2	16 (-)
99 11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	0	22 (-)
2000 12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	1	23 (-)
01 13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	3	26 (0)
02 14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	1	26 (0)
03 15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	0	21 (-)
04 16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29 (+)
05 17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23 (-)
06 18	0	0	0	0	1	1	3	7	3	4	2	2	23 (-)
07 19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	0	24 (0)
08 20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	1	22 (-)
09 21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	0	22 (-)
2010 22	0	0	1	0	0	0	2	5	4	2	0	0	14 (-)
11 23	0	0	0	0	2	3	4	3	7	1	0	1	21 (-)
12 24	0	0	1	0	1	4	4	5	3	5	1	1	25 (0)
13 25	1	1	0	0	0	4	3	6	7	7	2	0	31 (+)
14 26	2	1	0	2	0	2	5	1	5	2	1	2	23 (-)
15 27	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27 (0)
16 28	0	0	0	0	0	0	4	7	7	4	3	1	26 (0)
平年値 1981-2010	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6

台風の発生月：熱帯低気圧が台風(風速およそ17m/s以上)となった月とする。

合計の(-)は24個未満、(0)は24個以上29個未満、(+)は29個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
11 23	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
12 24	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
13 25	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
14 26	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
15 27	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
16 28	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	6
平年値	-	-	-	-	0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	-	2.7
1981-2010	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

日本への台風上陸：台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。
 小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52 27	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53 28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	0	10
54 29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	0	10
55 30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	1	16
56 31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	0	10
57 32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	0	10
58 33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	0	15
59 34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	0	13
60 35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	1	19
1961 36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	0	15
62 37	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	0	14
63 38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	0	12
64 39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	8
65 40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	0	15
66 41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	0	19
67 42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	0	13
68 43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0	10
69 44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	8
70 45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	9
1971 46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	0	13
72 47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	0	11
73 48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
74 49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	0	10
75 50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	0	9
76 51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	0	13
77 52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	6
78 53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	0	14
79 54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	7
80 55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	0	9
1981 56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	2	1	0	11
82 57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	0	13
83 58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	0	7
84 59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
85 60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	0	12
86 61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	0	12
87 62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	0	10
88 63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	0	13
89 H.1	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	0	11
90 2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	1	14
1991 3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	0	14
92 4	0	0	0	0	0	1	1	5	3	2	3	0	14
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	0	9
94 6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	0	15
95 7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
96 8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	0	10
97 9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	0	15
98 10	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0	0	8
99 11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	0	11
2000 12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	0	15
01 13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	0	11
02 14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	0	13
03 15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	1	12
04 16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	1	19
05 17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	0	12
06 18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	0	10
07 19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	0	12
08 20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	0	9
09 21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	0	8
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	7
11 23	0	0	0	0	2	1	1	2	4	0	0	0	9
12 24	0	0	0	0	1	3	3	6	3	4	0	0	17
13 25	0	0	0	0	0	2	1	2	4	6	0	0	14
14 26	0	0	0	0	0	2	3	2	3	2	1	0	12
15 27	0	0	0	0	2	0	3	4	4	0	1	0	14
16 28	0	0	0	0	0	0	1	5	4	1	0	0	11
平年値 1981-2010	-	-	-	0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4

日本への台風接近：台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合をいう。
 接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H.1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
11 23	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	5
12 24	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	6
13 25	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	6
14 26	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	5
15 27	0	0	0	0	1	0	2	1	2	0	0	0	6
16 28	0	0	0	0	0	0	0	5	3	1	0	0	9
平年値	-	-	-	0.0	0.1	0.4	1.0	1.7	1.7	0.7	0.0	-	5.5
1981-2010													

北海道・本州・四国・九州への台風接近：台風の中心が、北海道・本州・四国・九州のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合をいう。接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-5 平成28年(2016年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値						熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時			
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧		風速		強風半径		月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯	東経
								月日時	hPa	月日時	m/s	月日時	km							
1	NEPARTAK	7 2 21	8.3	145.1	7 3 09	8.9	144.9	7 7 21	900	7 7 21	55	7 8 03	390	7 9 15	24.8	118.5	TD	7 10 09	26.4	116.7
2	LUPIT	7 23 03	24.6	151.5	7 24 03	28.9	157.1	7 24 21	1000	7 24 21	20	7 24 21	E:190 W:150	7 25 03	37.2	159.5	L	7 26 15	48.4	152.1
3	MIRINAE	7 25 21	17.2	114.7	7 26 15	18.5	112.0	7 27 21	980	7 27 21	30	7 28 03	E:220 W:170	7 28 15	21.2	105.0	TD	7 28 21	22.0	104.9
4	NIDA	7 29 21	11.7	127.1	7 30 15	15.5	125.8	7 31 21	975	7 31 21	30	8 1 15	SE:390 NW:280	8 2 21	23.9	110.8	TD	8 3 09	25.0	107.9
5	OMAS	8 2 21	16.7	148.8	8 4 09	18.4	148.5	8 7 15	975	8 7 15	30	8 6 21	NE:700 SW:390	8 10 03	44.1	151.7	L	8 12 15	域外	
6	CONSON	8 7 21	18.8	163.0	8 9 09	16.9	159.3	8 14 15	985	8 14 15	23	8 14 15	NE:650 SW:280	8 15 09	43.6	145.6	L	8 16 21	58.7	143.1
7	CHANTHU	8 12 09	16.0	137.6	8 14 03	20.9	142.9	8 17 18	980	8 17 21	30	8 17 03	E:390 W:220	8 18 03	47.7	144.6	L	8 19 03	域外	
8	DIANMU	8 15 15	21.7	117.0	8 18 03	21.1	112.2	8 19 15	980	8 19 15	20	8 18 15	SE:440 NW:220	8 19 21	20.8	104.8	TD	8 20 03	21.2	102.5
9	MINDULLE	8 17 09	15.3	138.9	8 19 15	17.8	141.8	8 22 12	975	8 22 12	35	8 23 00	SE:330 NW:170	8 23 12	45.1	145.3	L	8 23 12	45.1	145.3
10	LIONROCK	8 17 09	26.4	159.1	8 21 21	29.2	133.3	8 29 03	940	8 29 03	45	8 30 21	SE:600 NW:440	8 31 00	42.0	138.0	L	8 31 03	43.9	135.7
11	KOMPASU	8 18 21	22.3	152.8	8 20 09	32.9	147.3	8 20 21	994	8 21 23	18	8 20 15	NE:440 SW:220	8 22 03	45.0	145.0	L	8 22 15	48.2	147.0
12	NAMTHEUN	8 31 09	21.1	123.2	9 1 09	23.8	127.7	9 3 12	955	9 3 12	35	9 3 21	E:170 W:110	9 5 03	33.1	129.8	TD	9 5 21	35.9	132.3
13	MALOU	9 5 21	24.8	124.8	9 6 15	27.6	126.8	9 7 03	1000	9 7 03	20	9 6 21	SE:280 NW:170	9 7 09	29.2	130.3	TD	9 7 15	29.1	132.1
14	MERANTI	9 9 21	13.7	141.7	9 10 15	14.8	139.2	9 13 21	890	9 13 21	60	9 13 03	NE:440 SW:390	9 15 21	27.0	117.1	TD	9 17 21	33.2	125.2
15	RAI	9 11 15	12.3	114.3	9 13 03	15.5	108.9	9 13 09	996	9 13 09	18	9 13 03	N:280 S:110	9 13 15	16.0	105.9	TD	9 14 03	16.1	103.5
16	MALAKAS	9 12 03	12.5	144.8	9 13 03	13.8	139.4	9 17 12	930	9 19 18	50	9 20 13	N:440 S:330	9 20 21	34.5	138.1	L	9 20 21	34.5	138.1
17	MEGI	9 23 03	15.4	141.1	9 24 03	16.9	137.6	9 27 12	945	9 27 12	45	9 27 12	NE:600 SW:440	9 28 21	25.4	116.7	TD	9 29 15	26.5	117.2
18	CHABA	9 25 03	14.9	164.6	9 29 15	13.7	141.8	10 4 00	905	10 4 00	60	10 5 18	SE:440 NW:280	10 5 21	38.7	136.7	L	10 8 03	域外	
19	AERE	10 4 21	19.2	130.0	10 6 03	20.1	122.1	10 8 03	975	10 8 03	30	10 9 15	NE:220 SW:170	10 10 09	22.1	118.0	TD	10 10 09	22.1	118.0
20	SONGDA	域外			10 8 21	19.9	154.4	10 12 09	925	10 12 09	50	10 11 09	NE:330 SW:280	10 13 15	40.3	171.1	L	10 14 03	域外	
21	SARIKA	10 13 09	12.9	129.4	10 14 03	13.5	127.3	10 16 03	935	10 16 03	50	10 18 03	N:390 S:280	10 19 15	21.7	108.1	TD	10 20 03	22.4	108.0
22	HATMA	10 14 21	7.4	144.5	10 15 09	8.8	142.9	10 19 15	900	10 19 15	60	10 20 15	500	10 22 03	25.9	115.5	TD	10 26 15	27.8	145.4
23	MEARI	10 31 03	10.1	146.9	11 3 09	13.3	137.3	11 6 21	960	11 6 21	40	11 7 09	NW:500 SE:280	11 7 15	28.3	147.5	L	11 10 03	39.0	165.5
24	MA-ON	11 9 03	12.8	161.4	11 10 09	16.9	156.9	11 11 15	1002	11 12 03	18	11 11 15	170	11 12 09	20.8	145.5	TD	11 13 09	21.3	141.4
25	TOKAGE	11 24 09	9.7	126.8	11 25 21	11.7	120.7	11 26 09	992	11 26 09	25	11 27 21	220	11 28 09	17.1	118.7	TD	11 28 09	17.1	118.7
26	NOCK-TEN	12 20 21	6.2	144.5	12 22 03	7.8	140.0	12 25 09	915	12 25 09	55	12 25 21	N:330 S:170	12 28 03	13.3	114.7	TD	12 28 21	11.2	111.4

表中の日はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

2-2 平成 28 年(2016 年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

*ここでは、台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合をいう。

(1) 台風第1号 (1601 NEPARTAK ニパルタック)

7月2日21時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西に進み、3日09時に同海域で台風第1号となった。台風は、引き続き北西に進み、6日15時に沖縄の南海上で勢力が最大となった後、8日に台湾を横断した。その後、台風は9日9時に華南に上陸した後、同日15時に同地域で熱帯低気圧に変わり、10日15時に同地域で消滅した。

(2) 台風第5号 (1605 OMAIS オーマイス)

8月2日21時に北マリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は北に進み、4日09時に同海域で台風第5号となった。台風は、引き続き北に進み、6日15時に小笠原諸島近海で勢力が最大となった。その後、台風は進路を北東に変え、10日03時に北海道のはるか東海上で温帯低気圧に変わり、12日15時前にベーリング海で東経180度を越えた。

(3) 台風第6号 (1606 CONSON コンソン)

8月7日21時にウェーク島近海で発生した熱帯低気圧は南西に進み、9日09時に南鳥島近海で台風第6号となり、北西に進んだ。台風は、進路を北北東に変えて進んだ後、北北西に進み、13日15時に日本の東海上で勢力が最大となった。台風は、引き続き北北西に進み、15日08時頃に北海道根室半島を通過した。台風は、同日09時にオホーツク海で温帯低気圧に変わり、北に進んで17日03時に同海域で消滅した。

(4) 台風第7号 (1607 CHANTHU チャンスー)

8月12日09時に北マリアナ諸島の西の海上で発生した熱帯低気圧は北東に進み、14日03時に同海域で台風第7号となった。その後、台風は北に進み、進路を北西に変えた後、再び進路を北に変え、17日09時に東北地方の東海上で勢力が最大となった。台風は、引き続き北に進み、同日17時30分頃に北海道襟裳岬付近に上陸した。その後、台風は18日03時にサハリン付近で温帯低気圧に変わり、19日03時にオホーツク海で北緯60度を越えた。

(5) 台風第9号 (1609 MINDULLE ミンドウル)

8月17日09時に北マリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は東に進んだ後、進路を北西に変え、19日15時に同海域で台風第9号となった。台風は、進路を北に変え、22日03時に八丈島近海で勢力が最大となった後、同日12時30分頃に千葉県館山市付近に上陸して北北東に進んだ。台風は、東日本及び北日本を進んだ後、23日06時前に北海道日高地方中部に再上陸した。台風は、23日12時にオホーツク海で温帯低気圧に変わり、同日15時に同海域で消滅した。

(6) 台風第10号 (1610 LIONROCK ライオンロック)

8月17日09時に南鳥島の東北東海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、速度を落としながら進路を南西に変え、21日21時に四国の南海上で台風第10号となった。台風は、急激に進路を南東に変えた後、徐々に進路を再び南西に変えて進んだ。その後、台風は26日03時に南大東島の南海上で急激に進路を東に変えた後、速度を上げながら進路を北東に変え、28日15時に父島の西の海上で勢力が最大となった。台風は、徐々に進路を北北西に変え、30日17時30分頃に岩手県大船渡市付近に上陸した後北西に進んだ。その後、台風は31日00時に日本海で温帯低気圧に変わり、同日09時に同海域で消滅した。

(7) 台風第11号 (1611 KOMPASU コンパス)

8月18日21時に南鳥島近海で発生した熱帯低気圧は北に進み、徐々に進路を北西に変えた後、20日09時に日本の東の海上で台風第11号となり、勢力が最大となった。その後、台風は進路を北北東に変え、21日23時過ぎに北海道釧路市付近に上陸した後、22日03時にオホーツク海で温帯低気圧に変わり、同日21時に同海域で消滅した。

(8) 台風第12号 (1612 NAMTHEUN ナムセーウン)

8月31日09時にルソン海峡付近で発生した熱帯低気圧は北東に進み、9月1日09時に沖縄の南海上で台風第12号となった。台風は、進路を北に変えた後、3日03時に奄美大島の東海上で勢力が最大となった。台風は、引き続き北に進み、5日01時過ぎに長崎県長崎市付近に上陸し、同日03時に熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は進路を北東に変え、6日03時に日本海で消滅した。

(9) 台風第13号 (1613 MALOU マーロウ)

9月5日21時に宮古島近海で発生した熱帯低気圧は北東に進み、6日15時に久米島の北の海上で台風第13号となり、勢力が最大となった。台風は徐々に進路を東に変え、7日09時に屋久島の南海上で熱帯低気圧に変わり、7日21時に九州の南海上で消滅した。

(10) 台風第14号 (1614 MERANTI ムーランティ)

9月9日21時に北マリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、10日15時に同海上で台風第14号となった。台風は、引き続き西北西に進み、13日21時にルソン島の北の海上で勢力が最大となった。台風は、徐々に進路を北西に変え、15日午前に華南に上陸した後、進路を北北東に変え、同日21時に同地域で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、16日15時に長江の河口で温帯低気圧に変わり、18日03時にチェジュ島付近で消滅した。

(11) 台風第16号 (1616 MALAKAS マラカス)

9月12日03時にグアム島の南海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、13日03時に北マリアナ諸島の西海上で台風第16号となった。台風は、引き続き西北西に進んだ後、徐々に進路を北に変え、17日03時に与那国島の南海上で勢力が最大となった。台風は、東シナ海に達した後、進路を北東に変え、20日0時過ぎに鹿児島県大隅半島に上陸し、続いて同日13時半頃に和歌山県田辺市付近に再上陸し、更に同日17時過

ぎに愛知県常滑市付近に再上陸した。台風は、同日21時に東海道沖で温帯低気圧に変わり、21日03時に消滅した。

(12) 台風第17号 (1617 MEGI メーギー)

9月23日03時に北マリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、24日03時に同海域で台風第17号となった。台風は、引き続き北西に進んだ後、27日09時に石垣島の南西海上で勢力が最大となり、同日午後に台湾に上陸した。台風は、台湾海峡に達した後、28日09時前に華南に再上陸した。台風は、北西に進み、同日21時に同地域で熱帯低気圧に変わり、進路を北東に変え、29日21時に消滅した。

(13) 台風第18号 (1618 CHABA チャバ)

9月25日03時にウエーク島の南西海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、29日15時にグアム島の西海上で台風第18号となった。台風は進路を北西に変え、10月3日18時に沖縄の南西海上で勢力が最大となった。台風は、徐々に進路を北東に変え、5日21時に能登半島付近で温帯低気圧に変わり、東北東に進んで、8日03時前にアリューシャン近海で東経180度を越えた。

(14) 台風第19号 (1619 AERE アイレー)

10月4日21時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、6日03時に台湾の南海上で台風第19号となり、西北西に進んだ。台風は8日03時に南シナ海で勢力が最大となった。台風はその後ほとんど停滞し、10日09時に熱帯低気圧に変わり、同日15時に同海域で消滅した。

(15) 台風第20号 (1620 SONGDA ソングダー)

10月4日03時過ぎに熱帯低気圧がマーシャル諸島の北東海上で東経180度を越えて北太平洋西部に進み、西北西に進んで、8日21時に南鳥島の南海上で台風第20号となった。台風は、進路を北東に変え、12日03時に伊豆諸島の東海上で勢力が最大となった。台風は、引き続き北東に進み、13日15時にアリューシャンの南海上で温帯低気圧に変わり、同日21時過ぎに東経180度を越えた。

(16) 台風第23号 (1623 MEARI メアリー)

10月31日03時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、徐々に進路を北東に変え、11月3日09時にマリアナ諸島の西海上で台風第23号となった。台風は、5日21時に小笠原諸島の南海上で勢力が最大となった後、7日15時に同諸島の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は引き続き北東に進み、10日09時に日本のはるか東海上で消滅した。

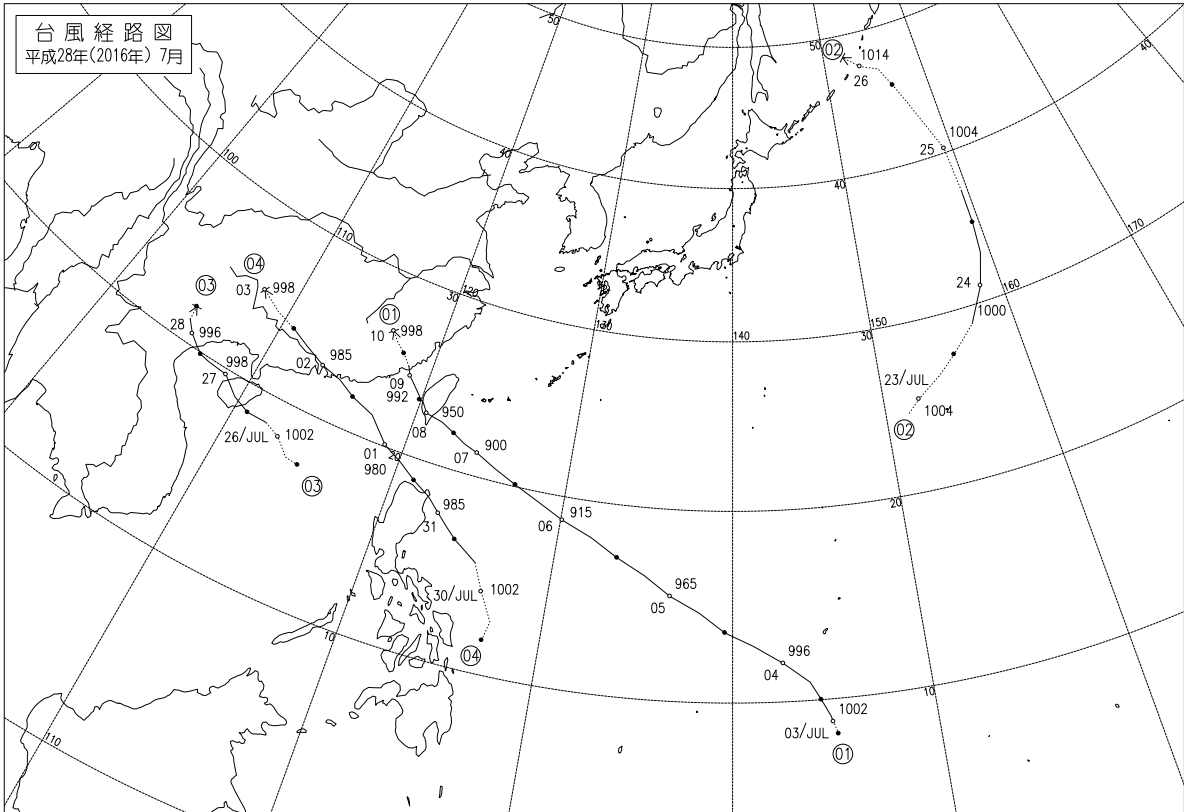
資料2-2-1 平成28年(2016年)に日本に影響*1した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

台風 番号	日本への影響*1			日本への接近*2			上陸、通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
1	7/7	7/9	沖縄地方	7/7	7/8	沖縄地方	上陸または通過せず。
5	8/8	8/10	東海地方、伊豆・小笠原諸島、関東甲信地方、北日本				上陸または通過せず。
6	8/14	8/15	北日本	8/15	8/15	北海道地方	15日08時頃、根室半島を通過した。
7	8/14	8/18	近畿地方、東日本、北日本	8/15	8/18	東日本、北日本	17日17時半頃、北海道襟裳岬付近に上陸した。
9	8/20	8/23	四国地方、中国地方、近畿地方、東日本、北日本	8/20	8/23	東日本、北日本	22日12時半頃、千葉県館山市付近に上陸した。 23日06時前、北海道日高地方中部に再上陸した。
10	8/21	8/30	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、四国地方、東日本、北日本	8/21	8/30	沖縄地方、九州南部、関東甲信地方、北陸地方、北日本	30日17時半頃、岩手県大船渡市付近に上陸した。
11	8/20	8/22	東日本、北日本	8/20	8/22	関東甲信地方、北日本	21日23時過ぎ、北海道釧路市付近に上陸した。
12	9/1	9/5	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、四国地方、中国地方	9/1	9/5	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、四国地方、中国地方	5日01時過ぎ、長崎県長崎市付近に上陸した。
13	9/6	9/7	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、四国地方	9/6	9/7	沖縄・奄美、九州南部	上陸または通過せず。
14	9/13	9/15	沖縄地方				上陸または通過せず。
16	9/16	9/20	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	9/16	9/20	沖縄・奄美、西日本、東日本	20日00時過ぎ、鹿児島県大隅半島に上陸した。 20日11時頃、高知県室戸岬付近を通過した。 20日13時半頃、和歌山県田辺市付近に再上陸した。 20日17時過ぎ、愛知県常滑市付近に再上陸した。
17	9/26	9/28	沖縄地方	9/26	9/28	沖縄地方	上陸または通過せず。
18	10/2	10/5	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信地方、北陸地方、東北地方	10/3	10/5	沖縄・奄美、九州北部地方、四国地方、中国地方、近畿地方、東海地方、関東甲信地方、北陸地方	上陸または通過せず。
19	10/6	10/6	沖縄地方				上陸または通過せず。
20	10/10	10/11	伊豆・小笠原諸島				上陸または通過せず。
23	11/7	11/7	伊豆・小笠原諸島				上陸または通過せず。

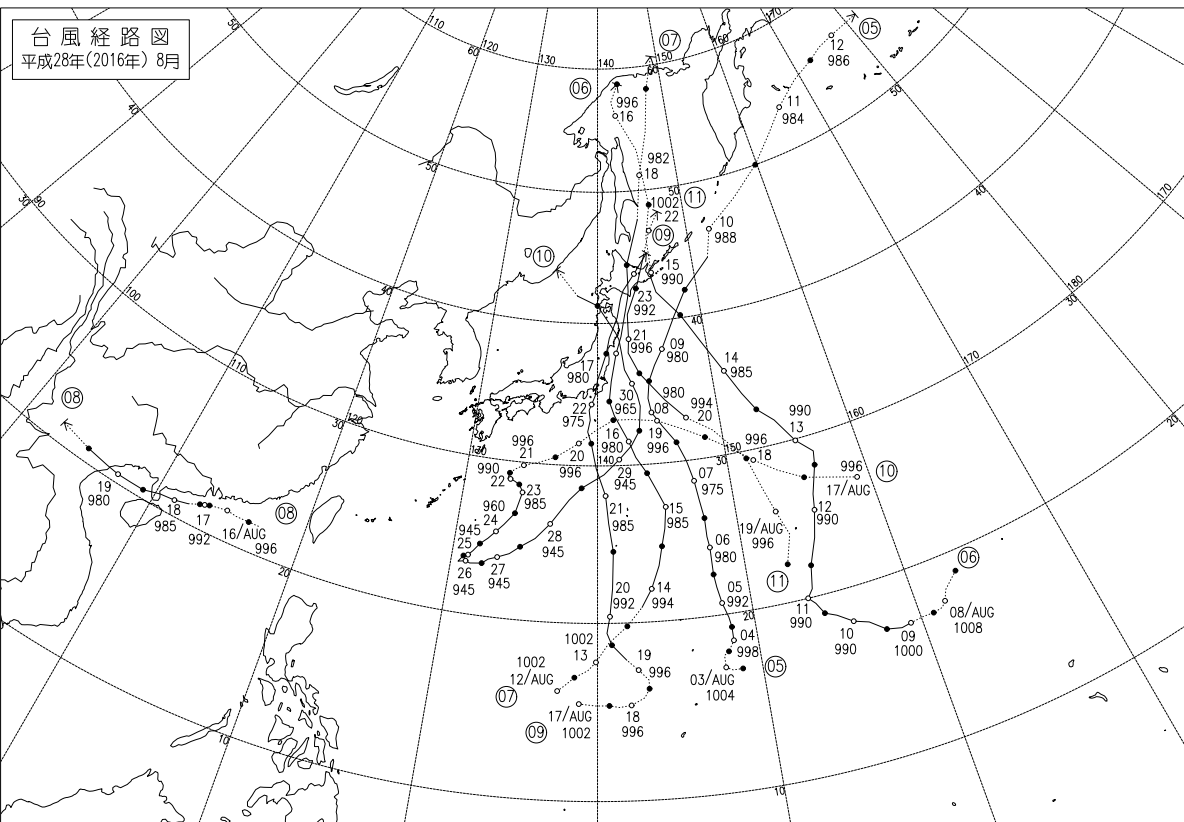
*1 ここでは、台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合をいう。

*2 台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合をいう。

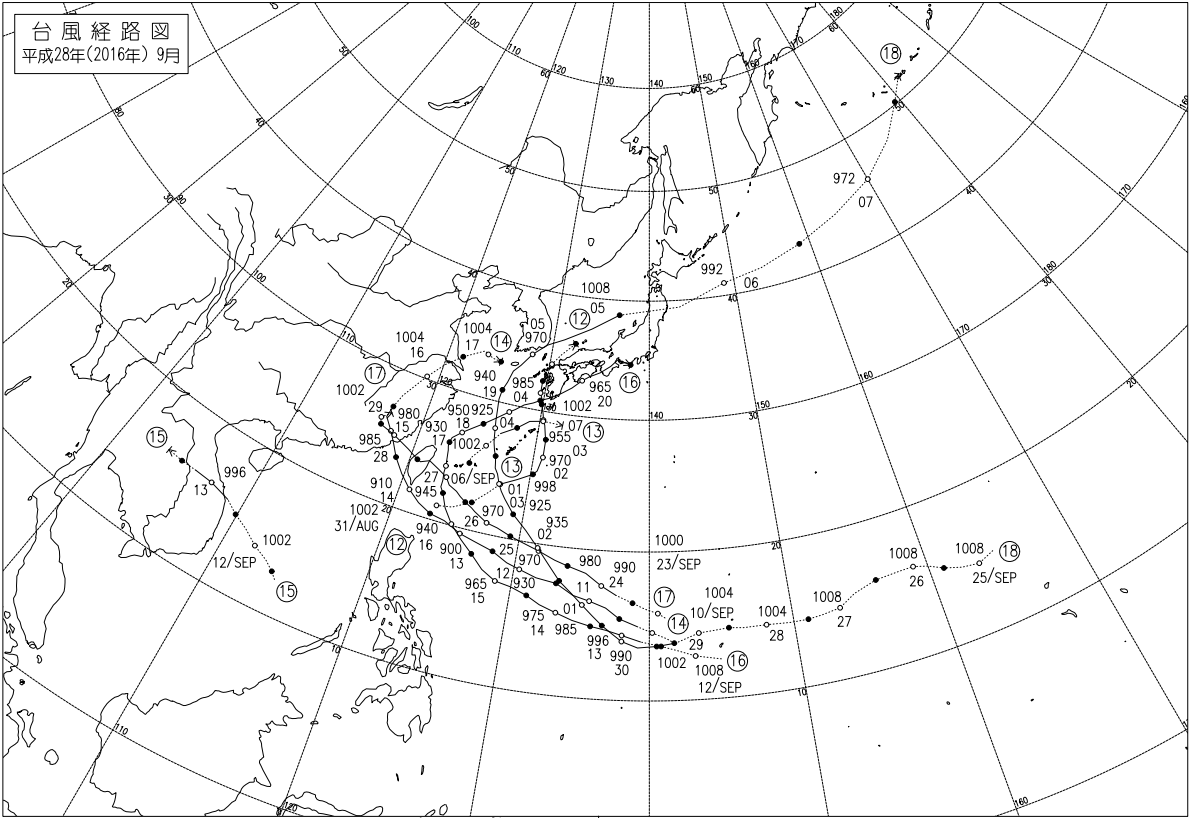
資料 2-2-2 平成 28 年(2016 年)に発生した台風の経路図



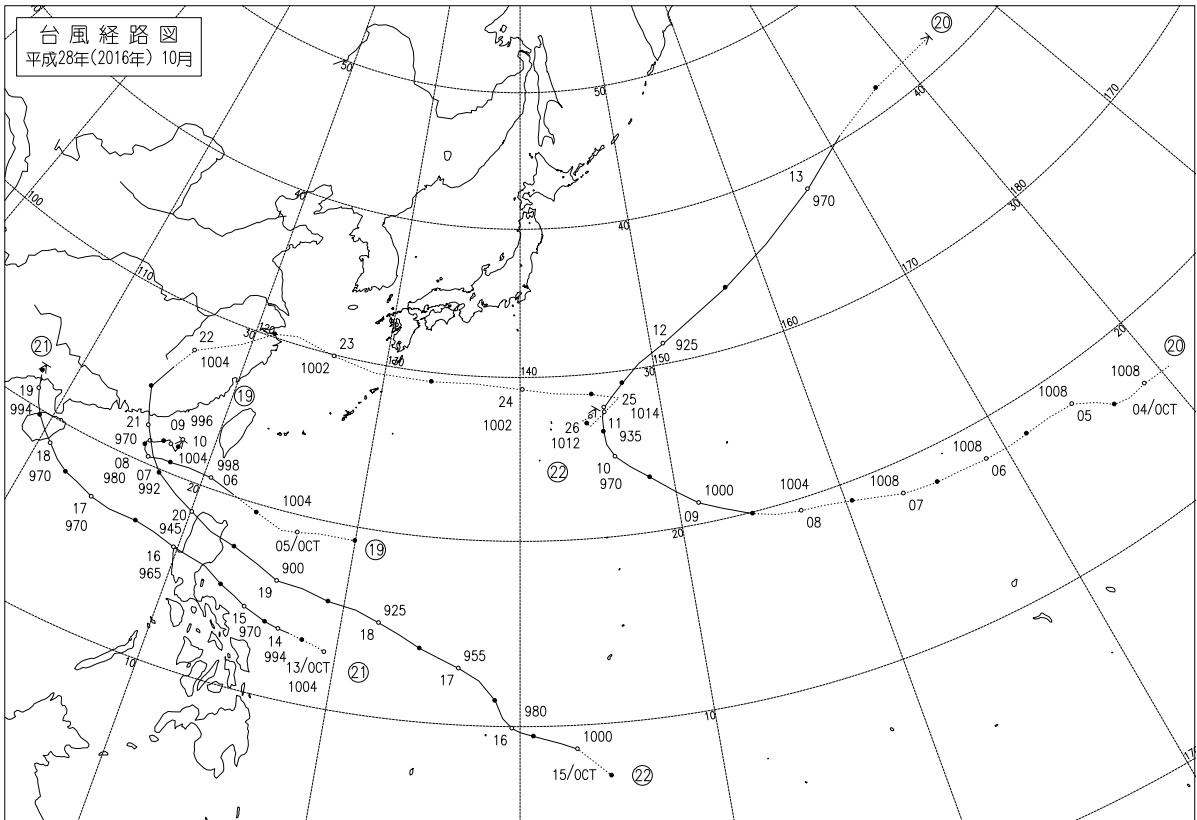
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



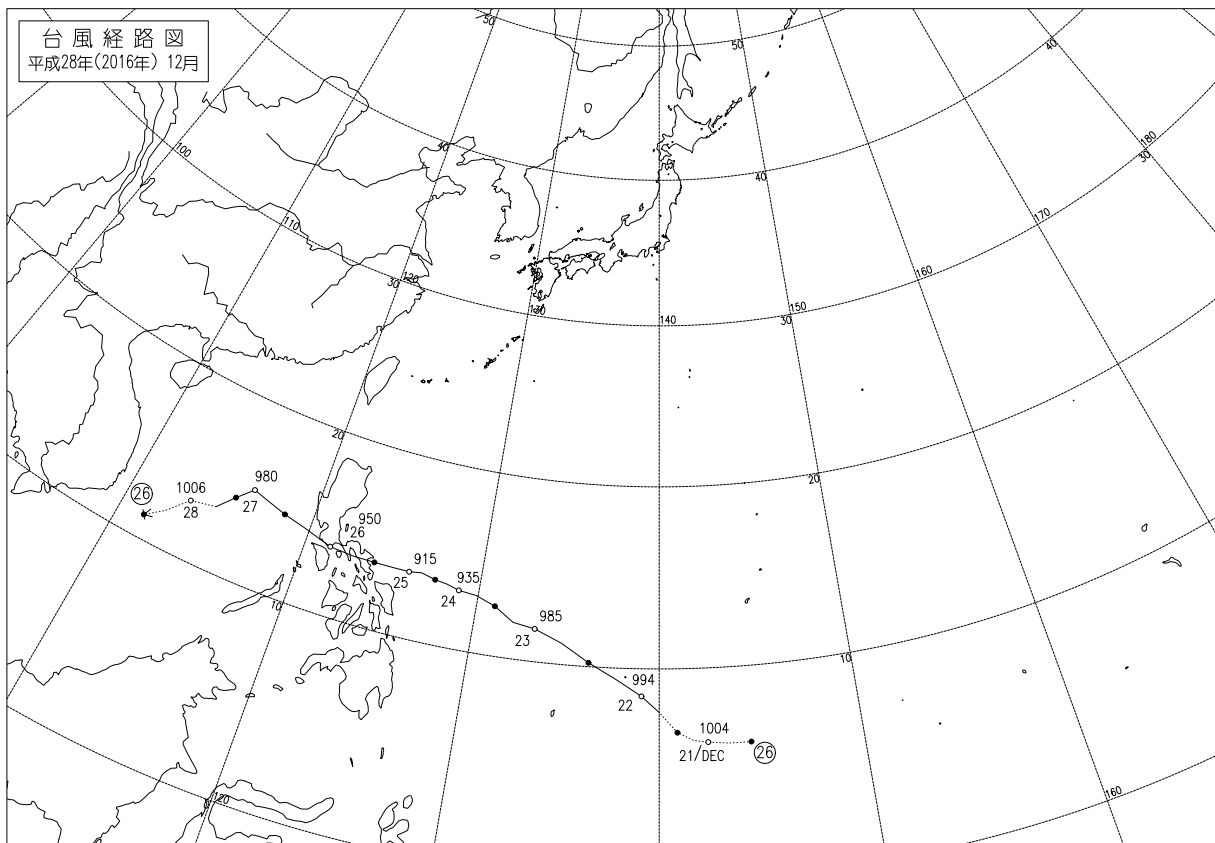
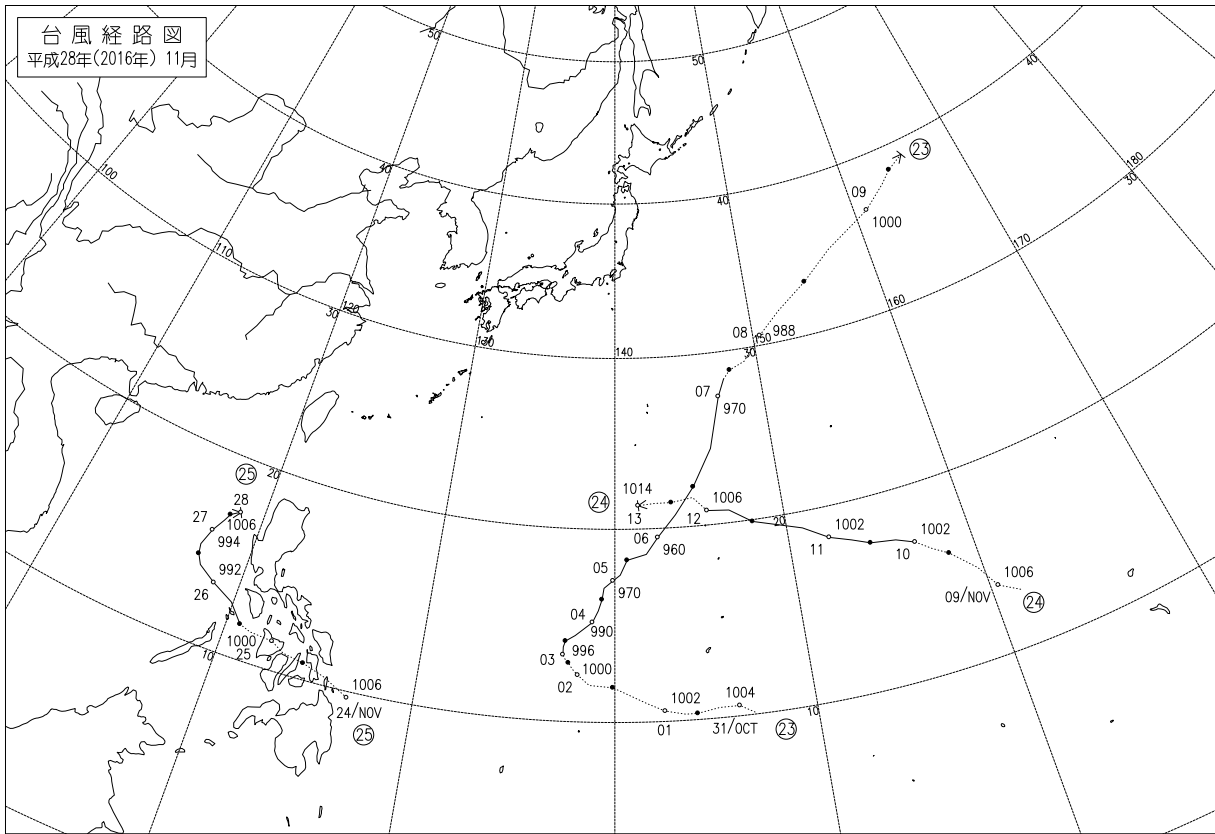
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消散を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消散を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



3 平成28年(2016年)の天気概況

1月

一時的な冬型の気圧配置の影響で東日本や北日本の日本海側で雨や雪、本州の太平洋側は高気圧に覆われおおむね晴れ(1日~2日)

1日は、日本の東海上を低気圧が東へ進み、東日本や北日本を中心に一時的に冬型の気圧配置(以下冬型と略す。)となった影響で、山陰から北陸にかけて雨が降り、関東甲信の山沿いや北日本で雪や雨が降った。その他の地域は、次第に高気圧に覆われおおむね晴れた。2日は、サハリンの西海上の低気圧がオホーツク海へ進んだ。この低気圧や気圧の谷の影響で、北日本の日本海側を中心に雪や雨が降り、北海道では強風となった所があった。一方、西日本から東日本は、日本の南に中心を持つ高気圧に覆われたが、この高気圧の縁辺から流れ込む湿った空気や気圧の谷の影響で、南西諸島や九州で雨が降った所があった。

低気圧や冬型の気圧配置の影響で北陸や北日本で雨や雪、南西諸島は前線の影響で雨(3日~4日)

3日は、南西諸島から本州南岸にかけて前線が停滞し、この前線上を低気圧が東に進んだ。これらの影響で、南西諸島や西日本太平洋側、伊豆諸島で雨が降った。また、北日本を中心に冬型となり、北陸や北日本では雨や雪が降った。4日は、日本海中部に低気圧が発生し、東に進んで三陸沖に達し、東日本や北日本は冬型となった。これらの影響で、北陸や北日本では雨や雪が降った。また、南西諸島では、気圧の谷や湿った空気の影響で雨が降った。

冬型の気圧配置の影響で西日本から北日本で雨や雪、南西諸島や九州では低気圧の影響で雨(5日~9日)

5日から6日にかけては、はじめ本州付近は冬型が続いた影響で、北陸から北日本日本海側にかけて雨や雪が降り、北海道では強風となった所があった。また、南西諸島から日本の南海上にかけて前線がのび、前線上の九州の南海上に発生した低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、南西諸島や西日本、伊豆諸島で雨が降った。7日は、日本付近は冬型となり、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本を中心に雨や雪が降った。8日は、日本付近は冬型となった。また、日本海中部に低気圧が発生し、東へ進んで消滅した。これらの影響で山陰から北日本にかけて雨や雪が降り、北陸では雷を伴った所があった。また、沖縄の南海上に発生した低気圧や寒気の影響で、南西諸島で雨が降った。9日は、日本付近は冬型となり、東日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降った。また、沖縄では湿った空気の影響で雨が降った。

低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で、西日本から北日本の日本海側で雪や雨、南西諸島は湿った空気の影響で雨(10日~16日)

10日は、秋田沖と関東の東海上に低気圧が発生して東に進み、日本付近は冬型となった。これらの影響で、北陸や北日本では雪や雨が降った。また、気圧の谷の影響で、先島諸島で雨が降った。11日から12日にかけては、北日本を中心に冬型の気圧配置となった。この影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に、雪や雨が降った。また、南西諸島付近に低気圧が発生し、前線を伴って北東に進んだ。これらの影響で、南西諸島や九州から関東地方にかけての太平洋側の一部で雨が降った。13日は、日本海西部の低気圧が秋田沖に進んだ影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸では雷を伴った所があった。また、南西諸島では湿った空気や気圧の谷の影響で雨が降った。14日は、北海道付近の低気圧が前線を伴って千島近海に進み、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から東日本にかけての日本海側を中心に雨や雪、北日本では雪が降り、北陸では雷を伴った所があった。一方、北海道では強風となった所があった。南西諸島では、湿った空気の影響で雨が降った。15日は、冬型が次第に緩んだが、西日本から東日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降り、北日本では雪が降った。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、南西諸島では雨が降った。16日は、北日本を中心に冬型となった影響で、北陸から北日本にかけての日本海側で雪となった。また、南西諸島では湿った空気の影響で雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われておおむね晴れた。

発達した低気圧の影響で全国的に雪や雨(17日~20日)

17日は、東シナ海の低気圧が前線を伴って北東に進み、九州付近に達した。この影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、先島諸島では大雨となった所があった。また、北日本を中心に、はじめ冬型になった影響

1月から2月

で、関東甲信の山沿いや北日本日本海側を中心に雪が降った。18日は、四国沖の前線を伴う低気圧が発達しながら本州南岸を北東に進み、三陸沖に達した。これらの影響で、全国的に雪や雨が降り、北陸では雷を伴った所があった。一方、全国的に強風となり、一部では暴風となった所があった。19日は、三陸沖の低気圧が前線を伴って北海道の東海上に進み、西日本を中心に冬型となった。また、日本海中部に低気圧がほぼ停滞した。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雪や雨が降り、北陸では雷を伴った所があった。特に、西日本や北日本では大雪となった所があった。一方、西日本から北日本にかけて強風となり、西日本や北海道では暴風となった所があった。20日は、北海道の東海上の低気圧が東へ進み、日本付近は冬型となった。これらの影響で、本州の日本海側や北海道オホーツク海側を中心に雪や雨が降り、北海道で大雪となった所があった。また、北陸では雷を伴った所があった。一方、西日本から北日本にかけて強風となった所があった。

冬型の気圧配置の影響で西日本から北日本で雪や雨、南西諸島では低気圧の影響で雨（21日～22日）

21日から22日にかけては、日本付近は引き続き冬型となった影響で、西日本日本海側や北陸、北日本で雪や雨が降った。また、南西諸島付近に前線を伴った低気圧が発生して東に進んだ影響で、南西諸島を中心に雨が降った。

低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で、全国的に雪や雨（23日～25日）

23日は、日本付近は冬型となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。また、寒気の影響で南西諸島で雨が降り、沖縄・奄美では強風となった所があった。このほか、東海沖に低気圧が発生し、東へ進んだ影響で、四国から東日本にかけての太平洋側を中心に一部で雨が降った。24日は、関東地方の東海上にある二つの低気圧が発達しながら東に進み、日本の東海上で、一つにまとまり日本付近は冬型が強まった。この影響で、全国的に雪や雨が降り、西日本、北陸、北日本では大雪となった所があったほか、南西諸島の一部でも雪が降った。また、北陸では一部で雷を伴った。一方、南西諸島から東日本にかけて一部で強風となり、九州では暴風となった所があった。25日は、日本付近は引き続き冬型となった影響で、南西諸島や西日本、北陸、北日本で雪や雨が降った。一方、南西諸島や九州では強風となり、一部では暴風となった。

北陸から北日本では気圧の谷や寒気の影響で雪や雨（26日～28日）

26日から27日にかけては、次第に冬型が緩んだが、気圧の谷や寒気の影響で、北陸や北日本の日本海側を中心に雪が降り、西日本の一部で雨が降った。28日は、本州付近は日本の南海上に中心を持つ高気圧に緩やかに覆われたが、北日本では冬型の気圧配置となった。この影響で、北陸や北日本の日本海側を中心に雪や雨が降り、北海道では強風となった所があったが、東海地方や関東地方ではおおむね晴れた。一方、前線上の東シナ海に低気圧が発生し、東に進んだ影響で、西日本を中心に雨となった。

本州南岸を通過した低気圧の影響で沖縄から東北地方にかけて雨や雪（29日～31日）

29日は、前線が南西諸島付近から本州南岸へのび、前線上の九州の西海上の低気圧が、本州南岸に進んだ。これらの影響で、南西諸島から東北南部にかけて雨が降り、九州や近畿地方で大雨となった所があった。また、北海道付近ではじめ冬型となった影響で、北海道を中心に雪が降った。30日は、南西諸島から関東の東海上にかけて前線が停滞し、この前線上を低気圧が東に進んだ影響で、南西諸島から東北南部にかけて雨や雪が降った。また、サハリン付近に低気圧が発生した影響で、北海道を中心に雪が降った。31日は、日本付近は冬型となり、日本海西部の低気圧が北陸付近に進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。

2月

冬型の気圧配置の影響で西日本から北日本の日本海側で雪や雨、寒気や前線の影響で南西諸島や関東で雨（1日～7日）

1日は、日本付近は冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。また、前線が九州の南海上から日本の南海上にのびた影響で、南西諸島や九州の南部、東海地方を中心に雨が降った。2日は、日本付近は冬型となった。この影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。また、寒気や気圧の谷の影響で、南西諸島や伊豆諸島で雨が降った。3日は、はじめ日本付近は冬型となり、その後次第に緩んだ。冬型の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で、雪や雨が降った所があった。また、気圧の谷の影響で、伊豆諸島の一部で雨が降った。4日は、低気

圧が日本海中部に発生し、東へ進んだ。また、別の低気圧がサハリンの西海上に発生し、ほぼ停滞した。これらの影響で、北陸や北日本日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸の一部で雷を伴った。また、気圧の谷の影響で、沖縄で雨が降った。5日は、低気圧が前線を伴ってオホーツク海を北東へ進んだ。また、別の低気圧が日本海中部に発生した。これらの影響で、北陸や北日本日本海側を中心に雪や雨が降った。また、前線が沖縄付近に発生し、東へ進んだ。この影響で、南西諸島で雨が降った。6日は、低気圧が関東の東海上から日本の東海上へ進み、日本付近は次第に冬型となった。この影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雪や雨が降り、北陸の一部で雷を伴ったほか、寒気の影響で、南西諸島で雨が降った。また、気圧の谷の影響で、関東の一部で雨が降った。7日は、はじめ本州付近は冬型となった。また、低気圧が宗谷海峡付近を東へ進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雨や雪が降ったほか、寒気の影響で、南西諸島で雨が降った。また、上空の寒気や気圧の谷の影響で、関東や伊豆諸島で雨が降った所があったほか、北海道の一部で強風となった。

低気圧や冬型の気圧配置の影響で西日本から北日本の日本海側で雪や雨、その後高気圧に覆われ全国的に晴れ（8日～11日）

8日は、低気圧が朝鮮半島付近に発生し、日本海中部へ進んだ。この影響で、西日本日本海側や北陸、北日本で雪や雨が降った所があった。また、寒気の影響で、奄美では雨が降った所があった。9日は、低気圧が日本海北部から北海道付近へ進んだ。また、別の低気圧が日本の東海上を東へ進み、本州付近は冬型となった。これらの影響で、本州の日本海側や北海道を中心に雪や雨が降り、北陸の一部で雷を伴ったほか、四国や中国地方で強風となった所があった。10日から11日にかけては、はじめ東日本や北日本を中心に冬型となり、その後次第に西から高気圧に覆われた。冬型の影響で、山陰から東日本にかけての日本海側や北日本で雪や雨が降り、その他の地域はおおむね晴れた。また、東北地方で強風となった所があった。

低気圧の影響で全国的に雨や雪、一部で大雨（12日～14日）

12日は、高気圧が日本付近から日本の東に移動し、前線が華中から九州の西海上にのびた。高気圧から流れ込む湿った空気や前線の影響で、南西諸島や西日本、東日本太平洋側の一部で雨が降り、先島諸島では大雨となった。13日から14日にかけては、前線を伴う低気圧が華中から日本海を通過して北海道の東海上に達し、本州付近は冬型となった。これらの影響で、全国的に雨や雪が降り、九州や四国、東海地方、甲信地方の一部で大雨となったほか、九州や四国の一部で雷を伴った。また、西日本から北日本の一部で強風となり、東北地方では暴風となった所があった。

冬型の気圧配置の影響で西日本から北日本の日本海側で雪や雨、その後高気圧に覆われ西日本や東日本はおおむね晴れ（15日～18日）

15日は、日本付近は冬型となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、九州では暴風、北海道では強風となった所があった。また、寒気や気圧の谷の影響で、南西諸島や四国、近畿南部、関東で雨が降った所があった。16日は、日本付近は引き続き冬型となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降ったほか、北陸の一部で雷を伴った。17日は、はじめ日本付近は冬型となったが、その後次第に西から高気圧に覆われた。冬型の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸の一部で雷を伴ったほか、北海道の一部で強風となった。18日は、日本海から流れ込む湿った空気の影響で、北日本の一部で雪や雨が降ったほか、北海道の一部で強風となった。また、気圧の谷や暖かく湿った空気の影響で、先島諸島で雨が降った。その他の地域は、高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置の影響で全国的に雨や雪（19日～21日）

19日は、低気圧が日本海中部からオホーツク海付近へ進んだ。この影響で、北日本を中心に雪や雨が降った。また、別の低気圧が前線を伴って東シナ海を東へ進んだ。この影響で、沖縄・奄美や九州で雨が降り、先島諸島では大雨となった所があった。20日は、前線を伴う低気圧が東シナ海から本州南岸を進み、東海沖に達した。この影響で、全国的に雨や雪が降り、西日本太平洋側や伊豆諸島で大雨となった所があったほか、九州の一部で強風となった。21日は、前線を伴う低気圧が三陸沖から千島の東海上へ進み、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本日本海側や北陸、北日本を中心に雪や雨が降り、北日本の一部で強風となった。

低気圧の影響で南西諸島や九州で雨、その後冬型の気圧配置や低気圧の影響で西日本から北日本の日本海側で雪や雨（22日～26日）

2月から3月

22日は、はじめ北日本付近は冬型となり、北陸や北日本の一部で雪や雨が降った。また、低気圧が東シナ海や関東の南海上に発生した。これらの低気圧や湿った空気の影響で、九州や関東の一部で雨が降った。23日は、前線を伴う低気圧が東シナ海から日本の南海上へ進んだ。この影響で、南西諸島や九州を中心に雨が降り、奄美の一部で大雨となった。また、複数の低気圧が、関東の東海上、日本海北部、宗谷海峡付近をそれぞれ東へ進んだ。これらの影響で、関東の一部や北陸、北日本日本海側を中心に雪や雨が降った。24日は、日本付近は冬型となった。この影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、九州の一部で強風となった。また、寒気の影響で、南西諸島の一部で雨が降ったほか、気圧の谷の影響で、関東甲信の一部で雨や雪が降った。25日から26日にかけては、日本付近は冬型となり、その後次第に西から緩んだ。また、日本海中部に低気圧が相次いで発生し秋田沖へ進んだほか、日本海北部に低気圧が発生した。これらの影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降り、九州の一部で強風となった。このほか、気圧の谷の影響で、関東甲信の一部で雨が降った。

低気圧が次々に通過した影響で全国的に雨や雪（27日～29日）

27日は、前線を伴う低気圧が日本海西部に発生し、秋田沖へ進んだ。また、低気圧が宗谷海峡付近に発生し、東へ進んで消滅した。これらの影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本を中心に、雪や雨が降り、北陸の一部で雷を伴った。このほか、気圧の谷の影響で、南西諸島で雨が降った。28日は、前線を伴う低気圧が三陸沖を東へ進んだ。この影響で、北陸や北日本の一部で雪や雨が降った。また、前線を伴う低気圧が黄海付近に発生し、日本海中部へ進んだほか、別の低気圧が沖縄付近に発生し、東へ進んだ。これらの影響で、沖縄・奄美や西日本日本海側、関東南部で雨が降った所があった。29日は、前線を伴う低気圧が日本海中部から日本海北部へ進み、本州付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨や雪が降り、北海道太平洋側で大雪となった所があったほか、中国地方や北陸の一部で雷を伴った。また、西日本や北陸、北海道の一部で強風となったほか、九州や北海道の一部で暴風となった。

3月

発達した低気圧や冬型の気圧配置の影響で西日本から北日本にかけては日本海側を中心に雪や雨、その後気圧の谷や暖かく湿った空気の影響で西日本の一部や沖縄では雨（1日～5日）

1日から2日にかけては、発達した低気圧が千島近海を北東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置（以下、冬型と略す。）となった。これらの影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。また、東北地方の一部や北海道では強風となり、北海道の一部では暴風となった。3日は、低気圧が日本海中部から日本の東海上へ進み、北日本を中心に冬型となった。これらの影響で、北陸から北日本にかけては雪や雨が降った。一方、東日本の太平洋側や西日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。4日から5日にかけては、気圧の谷や暖かく湿った空気の影響で、西日本の一部や沖縄では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

前線や低気圧の影響で全国的に雨や雪（6日～8日）

6日は、前線を伴う低気圧が日本海中部から宗谷海峡へ進んだ。また、別の低気圧が九州の南海上及び沖縄の南海上の前線上に発生した。これらの影響で、南西諸島から東日本にかけては雨が降り、北日本では雨や雪が降った。7日は、低気圧がサハリン付近からオホーツク海へ進み、伴う前線が北日本を通過した。これらの影響で、北陸から北日本にかけては雨や雪が降った。また、別の低気圧が九州の南海上から日本の南海上へ進んだ。この低気圧の影響で、東日本では雨が降り、東海地方の一部や伊豆諸島の一部では大雨となったほか、伊豆諸島や小笠原諸島では強風となった。8日は、低気圧が沿海州からサハリン付近へ進んだ。また、前線が日本の東海上から東北地方へのびた。これらの影響で、北陸から北日本にかけては雨や雪が降り、北海道の一部では強風となった。また、湿った空気の影響で、西日本の日本海側を中心に雨が降った。

低気圧や冬型の影響で全国的に雨や雪、その後高気圧に覆われ全国的に晴れ（9日～12日）

9日は、前線を伴う低気圧が九州の西海上から東海沖へ進んだ。この影響で、南西諸島から東日本にかけては雨が降り、九州から四国にかけての一部では大雨や暴風となった。また、北日本を中心に冬型となった影響で、北日本の日本海側を中心に雪が降り、北海道の一部では強風となった。10日は、前線を伴う低気圧が関東の東海上から日本の東海上へ進み、日本付近は冬型となった。冬型の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降った。また、この低気圧からのびる前線の影響で、南西諸島では雨が降った。11

日は、日本付近は引き続き冬型となった。この影響で、北陸から北日本にかけては雪や雨が降った。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、西日本の一部や南西諸島及び関東甲信では雨が降った。12日は、寒気の影響で、西日本から北海道にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、関東甲信の一部では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で西日本から北日本にかけては雨や雪、その後高気圧に覆われ全国的に晴れ（13日～17日）

13日は、前線を伴う低気圧が東シナ海に発生して北東へ進んだほか、別の低気圧が九州の南西海上に発生した。これらの影響で、南西諸島から西日本にかけて雨が降り、沖縄の一部では雷を伴った。また、別の低気圧が関東の東海上に発生し、ほぼ停滞した影響で、伊豆諸島では雨が降った。14日は、2つの低気圧が日本の南海上に北東へ進んだ。これらの低気圧の影響で、南西諸島から東北地方にかけては雨が降り、沖縄の一部では大雨となり、雷を伴ったほか、南西諸島の一部や伊豆諸島の一部では強風となった。また、別の低気圧がオホーツク海でほぼ停滞した。この低気圧からのびる前線の影響で、北海道の一部では雪が降った。15日は、前線を伴う低気圧が関東の東海上から千島の東海上へ進み、日本付近は冬型となった。この低気圧の影響で、関東から伊豆諸島、小笠原諸島にかけての一部では雨が降り、伊豆諸島の一部では強風となった。また、冬型の影響で、北陸から北日本にかけては雪や雨が降った。16日から17日にかけては、西日本から北日本にかけては高気圧に覆われおおむね晴れた。一方、寒気や気圧の谷の影響で、関東甲信から北日本にかけての一部では雪や雨が降り、北海道の一部では強風となった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、南西諸島の一部や小笠原諸島では雨が降った。

低気圧や前線の影響で全国的に雨や雪（18日～19日）

18日は、低気圧が九州の西海上から日本海西部へ進み、前線が東シナ海から九州南部へのびた。これらの影響で、南西諸島から東日本にかけては雨が降り、九州南部の一部では大雨となった。また、北海道の西海上に発生した低気圧の影響で、北海道の一部では雪が降った。19日は、前線を伴う低気圧が四国沖から日本の東海上へ進んだ。また、日本海西部から千島付近に前線がのびた。これらの影響で、南西諸島から東日本にかけては雨が降り、近畿の一部では大雨となったほか、北日本では雨や雪が降った。

冬型の気圧配置の影響で西日本から北日本にかけては日本海側を中心に雪や雨（20日～25日）

20日から21日にかけては、北日本を中心に冬型となった。この影響で、北陸から北日本にかけての一部では雨や雪が降った。また、気圧の谷の影響で、関東甲信の一部では雨が降った。22日は、気圧の谷が北日本を通過した。この影響で、北日本の日本海側を中心に雨や雪が降り、東北地方の一部では雷を伴った。一方、西日本から東日本にかけては高気圧に覆われおおむね晴れた。23日は、低気圧が釧路沖から千島の東海上へ進み、低気圧から前線が日本の南海上にのびた。また、別の低気圧がサハリン付近を南西へ進んだ。これらの影響で、東日本から北日本にかけて雨や雪が降った。また、九州の南海上に低気圧が発生した影響で、南西諸島から九州南部にかけての一部では雨が降った。24日は、北日本を中心に冬型となった。この影響で、北陸から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。また、低気圧が九州の南海上から関東の東海上にのびる前線上に発生し、東へ進んだ。この低気圧や前線の影響で、南西諸島から九州南部にかけての一部や関東甲信では雨が降った。25日は、日本付近は冬型となった。この影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が降った。また、湿った空気の影響で、南西諸島の一部や伊豆諸島の一部では雨が降った。

高気圧に覆われ全国的に晴れ、その後低気圧や上空の寒気の影響で西日本から東日本にかけての一部では雨や雪（26日～28日）

26日は、はじめ北日本を中心に冬型となり、その後次第に緩んだ。冬型の影響で、北日本の一部では雨や雪が降った。また、気圧の谷の影響で、南西諸島から九州にかけての一部や伊豆諸島の一部では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。27日は、四国沖に発生した低気圧や上空の寒気の影響で、西日本の一部では雨が降った。また、気圧の谷の影響で、東日本から北日本にかけての一部では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。28日は、低気圧が東海沖から関東の東海上へ進んだ。低気圧や上空の寒気の影響で、西日本から東日本にかけての一部では雨が降り、関東の一部では雷を伴った。また、前線を伴う低気圧がサハリン付近を東に進んだ影響で、北日本の一部では雨や雪が降った。

3月から4月

高気圧に覆われ全国的に晴れ、その後低気圧や前線の影響で西日本の一部では雨、北日本の一部では雨や雪（29日～31日）

29日は、高気圧に覆われ全国的におおむね晴れた。30日は、低気圧が日本海中部からサハリンの西海上へ進み、伴う前線が中国地方から北日本にかけて通過した。この前線の影響で、西日本の日本海側や北陸地方、北日本で雨が降った。また、気圧の谷の影響で、九州南部地方では雨が降った。31日は、東シナ海の前線上に低気圧が発生し、北東へ進んだ。この低気圧や前線の影響で、南西諸島から西日本にかけての一部では雨が降り、九州の一部では雷を伴った。また、日本海北部や千島近海の低気圧がともに東へ進んだ。これらの低気圧や寒気の影響で、北日本の一部で雨や雪が降った。

4月

低気圧や湿った空気の影響で西日本から東日本にかけて雨（1日～2日）

1日は、前線を伴う低気圧が九州付近から本州南岸へ進んだ。この影響で、東日本の太平洋側や西日本を中心に雨が降り、四国の一部では大雨となった。2日は、前線を伴う低気圧が本州南岸を東へ進み、日本付近は千島近海に中心を持つ高気圧に覆われたが、太平洋側を中心に高気圧の縁辺から湿った空気が流れ込んだ。低気圧や湿った空気の影響で、西日本から東北地方にかけての太平洋側や伊豆諸島の一部では雨が降った。その他の地域では、おおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、のち全国的におおむね晴れ（3日～5日）

3日から4日にかけては、低気圧が日本海北部からサハリン付近へ進み、伴う前線が北日本を通過した。また、前線を伴う別の低気圧が九州の西海上および本州付近で発生して東へ進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降った。5日は、気圧の谷が北日本を通過した影響で、北海道の一部では雨が降り、強風となった。また、東シナ海から日本の東海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美の一部では雨が降った。その他の地域は二つの高気圧に覆われておおむね晴れたが、関東地方では高気圧の縁辺の湿った空気の影響で雨が降った。

低気圧や前線の影響で7日を中心に全国的に雨（6日～8日）

6日は、前線を伴う低気圧が華中で発生し、東シナ海へ進んだ。前線や低気圧の影響で、九州を中心に雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われておおむね晴れた。7日は、前線を伴う低気圧が東シナ海から三陸沖へ進んだ。前線や低気圧の影響で、九州南部から北日本にかけて雨が降り、九州北部から関東甲信にかけての一部では大雨となったほか、九州の一部では雷を伴った。また、中国地方や関東の一部では強風となり、九州から四国にかけての一部や近畿の一部では暴風となった。沖縄・奄美はおおむね晴れた。8日は、低気圧が沿海州からオホーツク海へ進み、伴う前線が北日本を通過した。これらの影響で、北陸から北日本の一部では雨が降った。また、華南から九州の南海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降った。

前線や低気圧の影響で沖縄から九州、および北日本で雨（9日～12日）

9日は、低気圧が日本海北部からオホーツク海へ進んだ。この影響で、北海道では雨や雪が降り、一部では強風となった。また、南西諸島から日本の南海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄や九州南部地方では雨が降り、沖縄の一部では大雨となったほか、沖縄・奄美では雷を伴った。10日は、低気圧が南西諸島から日本の南海上にかけて停滞する前線上に発生し、東へ進んだ。低気圧や前線の影響で、沖縄や九州南部地方では雨が降り、沖縄・奄美の一部では大雨となり、雷を伴った。11日は、寒気の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降り、東北地方の一部では雷を伴った。また、台湾付近から日本の南海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降った。12日は、台湾付近から日本の南海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美および小笠原諸島では雨が降り、沖縄・奄美では雷を伴った。また、寒気の影響で、北海道では雨や雪が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

発達した低気圧や前線の影響で全国的に雨（13日～15日）

13日から14日にかけては、低気圧が中国東北区から日本海北部へ進んだ。この影響で、北海道では雨が降った。また、別の低気圧が東シナ海の前線上や本州付近に発生して東へ進み、三陸沖でひとつにまとまった。これらの低気圧や前線の影響で、西日本から東北地方にかけて雨が降り、沖縄や四国、東海地方では、一部で大雨となったほか、沖縄・奄美では雷を伴った。15日は、前線を伴う低気圧が北海道の東海上から千島の東海

上へ進んだ。低気圧や寒気の影響で、北陸および北日本では雨や雪が降り、関東から北日本にかけての一部では強風となった。また、低気圧からのびる前線の影響で、小笠原諸島では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

発達した低気圧や前線の影響で全国的に雨（16 日～18 日）

16 日から 17 日にかけては、前線を伴う低気圧が華中から日本海北部へ進み、伴う前線が本州を通過した。低気圧や前線の影響で、全国的に雨が降り、九州や四国の一部では大雨となったほか、九州や東北地方では、一部で雷を伴った。また、東海地方の一部では強風となり、九州から北日本の一部では暴風となった。18 日は、前線を伴う低気圧が網走沖から千島の東海上へ進んだ。前線や低気圧の影響で、北海道の一部で雪や雨が降ったほか、北日本の一部では暴風となった。また、南西諸島付近に停滞する前線や湿った空気の影響で、沖縄や、西日本から東日本にかけての太平洋側の一部で雨が降った。

高気圧に覆われ全国的におおむね晴れ、のち低気圧や前線の影響で全国的に雨（19 日～24 日）

19 日は、寒気の影響で、関東の一部では雨が降り雷を伴ったほか、北日本で雨や雪が降った。また、日本の南海上に停滞する前線の影響で、小笠原諸島では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。20 日は、全国的に高気圧に覆われおおむね晴れた。21 日は、前線を伴う低気圧が東シナ海から山陰沖へ進んだ。前線や低気圧の影響で、九州から東北地方にかけて雨が降り、九州から東海地方にかけての一部では大雨となったほか、九州の一部では雷を伴った。また、九州の一部では強風となった。北海道はおおむね晴れた。22 日は、低気圧が関東の東海上を東に進み、伴う前線が東シナ海にのびた。前線や低気圧の影響で、近畿地方から東北地方にかけて、および沖縄・奄美の一部で雨が降った。23 日から 24 日にかけては、低気圧が日本海北部から千島の東海上へ進み、伴う前線が東日本から北日本を通過した。低気圧や前線の影響で、東日本から北日本にかけての一部で雨が降った。また、九州の南海上から日本の東海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけての一部では雨が降り、九州南部の一部では大雨となったほか、沖縄・奄美では雷を伴った。

前線や低気圧の影響で九州を中心に雨、その他の地域はおおむね晴れ（25 日～26 日）

25 日は、九州の南海上から日本の南海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄から九州にかけて、および四国の一部や伊豆諸島の一部では雨が降った。北日本はおおむね晴れた。26 日は、低気圧が日本の南海上に停滞する前線上に発生し、東へ進んだ。低気圧や前線の影響で、沖縄から九州南部地方にかけての一部や伊豆諸島の一部では雨が降った。また、日本海北部の低気圧が東に進み北日本を通過した。この影響で北海道では雨が降った。その他の地域はおおむね晴れた。

発達した低気圧や前線の影響で全国的に雨、のち寒気の影響で北日本で雨（27 日～30 日）

27 日から 28 日にかけては、低気圧が日本の南海上に停滞する前線上に発生し、九州の南海上から三陸沖へ進んだ。また、別の低気圧が東シナ海から四国沖へ進んで、前述の低気圧とまとまった。低気圧や前線の影響で、全国的に雨が降り、沖縄から九州にかけての一部では大雨となったほか、沖縄・奄美の一部では雷を伴った。29 日から 30 日にかけては、前線を伴う低気圧が三陸沖から千島の東海上へ進んだ。低気圧や寒気の影響で、東日本の日本海側や小笠原諸島で雨が降り、北日本では雨や雪が降ったほか、北海道の一部では強風となった。

5月

低気圧や気圧の谷の影響で北陸から東北地方にかけては雨、高気圧に覆われたその他の地域はおおむね晴れ（1 日～2 日）

1 日は、低気圧が日本海中部から東北地方へ進んだ。この影響で、北陸から東北地方にかけて雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。2 日は、気圧の谷の影響で北日本の一部では雨が降った。その他の地域は、日本の東と日本の南の高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、西日本から東日本にかけての一部では大雨（3 日～7 日）

3 日は、発達した低気圧が渤海から中国東北区へ進み、伴う前線が沖縄及び九州を通過して四国及び中国地方に達した。低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美から西日本、東海地方にかけては雨が降り、九州から四国の

5月

一部では大雨となったほか、西日本から北陸にかけての一部では強風となり、九州や四国、北陸では、一部で暴風となった。また、湿った空気の影響で、小笠原諸島では雨が降った。4日は、発達した低気圧が中国東北区から沿海州へ進み、伴う前線が東日本及び北日本を通過した。低気圧や前線の影響で、東日本及び北日本を中心に雨が降り、東海地方の一部では大雨となったほか、中国地方や関東、北陸では、一部で強風となった。5日は、低気圧が沿海州から千島近海へ進んだ。低気圧や気圧の谷の影響で、北日本では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。6日は、前線が華中から日本の南海上へのびた。また、低気圧が前線を伴って黄海から日本海に進んだ。これらの影響で、沖縄・奄美から西日本、東海地方、関東甲信、及び北日本では雨が降り、九州の南部では一部で大雨となった。7日は、前線が華中から日本の東海上にかけて停滞した。また、低気圧が日本海を北東に進み、伴う前線が西日本から北日本を通過した。これらの影響で、西日本から北日本で雨が降ったほか、北海道の一部では強風となった。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、西日本から東日本にかけての一部では大雨（8日～12日）

8日は、華中から日本の東海上にかけて停滞する前線が九州付近まで北上した。前線や湿った空気の影響で、九州では雨が降った。また、低気圧が千島近海にほとんど停滞した影響で、北日本では雨が降り、一部で強風となった。その他の地域は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。9日は、華中から日本の東海上にかけて停滞する前線上に低気圧が発生し、九州付近に停滞した。低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけては雨が降り、九州の南部では一部で大雨となったほか、九州の一部では雷を伴った。高気圧に覆われた北日本はおおむね晴れた。10日から11日にかけては、華中から日本の東海上にかけて停滞する前線上に低気圧が発生し、九州の西海上から北海道付近へ進んだ。また、別の低気圧が関東付近を東に進んだ。これらの低気圧や前線の影響で、全国的に雨が降り、西日本から東日本にかけての一部では大雨となり、沖縄・奄美の一部や九州の一部では雷を伴ったほか、関東の一部では強風となった。12日は、前線を伴う低気圧が北海道の東海上から千島近海に進んだ。また、別の低気圧が日本海北部から網走沖へ進み、ひとつにまとまった。低気圧や寒気の影響で、北日本では日本海側を中心に雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で沖縄や九州で雨、その他の地域はおおむね晴れ（13日～15日）

13日から14日にかけては、奄美付近に停滞する前線や気圧の谷の影響で、沖縄・奄美では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。15日は、低気圧が黄海から日本海西部へ進み、伴う前線が日本海から東シナ海にのびた。これらの影響で、九州では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、四国から東海地方の一部では大雨（16日～17日）

16日は、低気圧が日本海西部から沿海州へ進み、伴う寒冷前線が西日本を通過した。また、前線上の四国付近には低気圧が発生した。一方、低気圧に伴う温暖前線が日本海中部から北海道付近へ進んだ。これらの低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美から関東甲信にかけて、及び北日本の一部では雨が降ったほか、四国から東海地方の一部で大雨となった。また、北海道の一部では強風となった。17日は、低気圧が沿海州付近からサハリン付近へ進み、伴う前線が北日本や東日本を通過した。また、その前線上の別の低気圧が本州付近から関東の東海上へ進んだ。これら低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美、四国から北日本にかけて雨が降り、東海地方の一部では大雨となった。

前線や湿った空気の影響で沖縄・奄美や小笠原諸島を中心に雨、沖縄の一部では大雨（18日～24日）

18日から20日にかけては、東シナ海付近から日本の南海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美、伊豆諸島及び小笠原諸島では雨が降り、沖縄の一部では大雨となり雷を伴った。その他の地域は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。21日は、東シナ海付近から日本の東海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降った。また、気圧の谷の影響で、東北地方や関東では、一部で雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。22日から23日にかけては、東シナ海付近から日本の東海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美及び小笠原諸島では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。24日は、東シナ海から日本海に前線がのびた。この前線の影響で、四国から中国地方にかけての一部や九州では雨が降った。また、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美や小笠原諸島では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨（25日～27日）

25日は、前線が西日本から北日本にかけて停滞した。前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて、及び北陸から北日本にかけては雨が降り、九州から四国にかけての一部で大雨となったほか、沖縄・奄美の一部では雷を伴った。26日は、低気圧が四国沖に停滞した。また、気圧の谷が北日本を通過した。これらの影響で、北日本の一部や西日本から東海地方、北陸にかけて雨が降った。27日は、低気圧が東海沖から関東の東海上へ進んだ。また、前線が東日本付近を東へ進んだほか、気圧の谷が北日本を通過した。これらの影響で、近畿から北日本にかけて雨が降った。また、東シナ海に前線が停滞した影響で、九州の一部では雨が降った。

低気圧や前線の影響で西日本を中心に雨（28日～29日）

28日は、前線が華中から日本の南海上にかけて停滞した。この影響で、西日本の一部では雨が降った。また、日本の東海上の低気圧からのびる前線の影響で、小笠原諸島では雨が降ったほか、気圧の谷が通過した影響で、北海道では雨が降った。高気圧に覆われた東北地方はおおむね晴れた。29日は、華中から日本の東海上にかけて停滞する前線上に低気圧が発生し、九州の西海上から四国沖へ進んだ。低気圧や前線の影響で、東日本の一部や西日本では雨が降り、四国の一部では大雨となった。その他の地域は高気圧に覆われ、おおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨（30日～31日）

30日は、前線が東シナ海から日本の南海上に停滞し、この前線上の低気圧が四国沖から関東の東海上へ進んだ。これらの影響で、沖縄・奄美や、西日本から東日本にかけて雨が降った。31日は、低気圧が日本海北部を東へ進み、伴う前線が北日本及び本州の日本海側にのびた。低気圧や前線の影響で、東日本の一部や北日本では雨が降り、関東の一部や北日本の一部では雷を伴った。また、日本の南海上に停滞する前線の影響で、小笠原諸島では雨が降った。

6月

前線や低気圧の影響で沖縄・奄美や北日本では雨、高気圧に覆われたその他の地域は晴れ（1日～3日）

1日は、華中から日本の東海上にかけて停滞する前線上を低気圧が華中から九州の南海上へ進んだ。前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美から九州南部地方にかけて雨が降った。また、前線を伴う低気圧が釧路沖から千島近海へ進んだ。低気圧や寒気の影響で、北陸の一部や北日本では雨が降ったほか、東北地方の一部では強風となった。近畿から関東甲信にかけては高気圧に覆われおおむね晴れた。2日から3日にかけては、東シナ海から日本の東海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄では雨が降った。また、千島近海を東へ進んだ低気圧や寒気の影響で、北陸の一部や北日本では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

前線や低気圧の影響で西日本や北日本では雨（4日～5日）

4日から5日にかけては、華南から日本の東海上にかけて停滞する前線上の低気圧が東シナ海から日本の南海上へ進んだ。前線や低気圧の影響で、東日本の太平洋側や沖縄・奄美及び西日本では雨が降った。また、別の低気圧が前線を伴って日本海北部から千島の東海上へ進んだ影響で、北日本では雨が降った。

前線や低気圧の影響で沖縄・奄美から東日本にかけては雨、四国では大雨、高気圧に覆われた北日本は晴れ（6日～7日）

6日から7日にかけては、東シナ海から日本の南海上にかけて前線が停滞した。また、低気圧が九州の西海上と四国沖にほとんど停滞して消滅した。これらの影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降り、四国では大雨となった所があったほか、沖縄の一部では雷を伴った。北日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、のち高気圧に覆われた西日本から東北地方では晴れ（8日～10日）

8日から9日にかけては、華南から伊豆諸島付近にかけて前線が停滞した。また、黄海に中心を持つ高気圧と日本の東海上に中心を持つ高気圧の間で、日本付近は気圧の谷となったほか、低気圧が秋田付近に発生して三陸沖へ進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降った。10日は、華南から日本の南海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄では雨が降り、一部では雷を伴った。また、オホーツク海と千島近海の2つの低気圧の影響で、北海道では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

6月から7月

前線や低気圧の影響で全国的に雨、北日本の一部や南西諸島から東日本の太平洋側にかけての一部では大雨（11日～18日）

11日は、東シナ海から日本の東海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美から九州南部地方では雨が降り、一部では雷を伴った。また、湿った空気の影響で、中国地方から北陸にかけての一部や四国地方の一部では雨が降り、中国地方の一部では雷を伴った。東海地方から関東甲信、北日本にかけては高気圧に覆われおおむね晴れた。12日から13日にかけては、東シナ海から日本の東海上にかけて停滞する前線上に低気圧が発生し、九州の西海上から関東の東海上へ進んだ。また、13日には別の低気圧が日本海北部に発生して北東へ進んだ。これらの影響で全国的に雨が降り、北日本の一部や南西諸島から東日本の太平洋側にかけての一部では大雨となった。14日から15日にかけては、華中から日本の東海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降り、大雨となった所があったほか、一部で雷を伴った。また、日本海北部の低気圧や湿った空気の影響で、東日本から北日本では雨が降った。16日から17日にかけては、東シナ海から日本の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の四国付近に低気圧が発生し、本州の太平洋側を東へ進んだ。また、別の低気圧が日本海を東へ進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、九州南部地方、近畿、東海地方及び北海道では大雨となった所があった。18日は、華中から九州の南海上にかけて停滞する前線が九州付近へ北上した影響で、九州の北部では雨が降った。また、低気圧が宗谷海峡付近にほとんど停滞して消滅した。低気圧や気圧の谷の影響で、北日本では雨が降った。沖縄及び中国地方から東日本にかけては高気圧に覆われおおむね晴れた。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、西日本から北日本にかけての一部では大雨（19日～26日）

19日から21日にかけては、華中から本州付近にかけて停滞する前線上の黄海付近に低気圧が発生して東へ進んだ。また、別の低気圧が日本海を北東へ進んだ。これらの影響で全国的に雨が降り、西日本から北日本にかけての一部では大雨となったほか、雷を伴った所があった。また、四国の一部や伊豆諸島の一部では暴風となり、九州の一部で強風となった。22日から23日にかけては、華中から本州付近にかけて停滞する前線上の黄海付近に低気圧が発生して本州付近を東へ進んだ。これらや気圧の谷の影響で全国的に雨が降り、西日本から東日本にかけての一部では大雨となったほか、雷を伴った所があった。24日から25日にかけては、華中から日本の南海上にかけて停滞する前線上の黄海付近に低気圧が発生し、発達しながら日本海北部へ進んだ。また、伴う前線が本州付近を通過した。これらの影響で全国的に雨が降り、北海道の一部では大雨となり、西日本から東海地方、北陸にかけての一部では雷を伴ったほか、中国地方や関東では強風となった所があった。26日は、華中から日本の南海上にかけて停滞する前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降った。また、低気圧が日本海北部から釧路沖へ進んだ。低気圧や気圧の谷の影響で、北陸から北日本にかけて雨が降った。西日本から東海地方、関東甲信にかけては高気圧に覆われおおむね晴れた。

前線や低気圧の影響で西日本から東日本にかけては雨、一部では大雨、高気圧に覆われた沖縄・奄美や北日本は晴れ（27日～30日）

27日から28日にかけては、華中から日本の東海上に停滞する前線がゆっくり北上し、前線上の九州付近に低気圧が発生して、本州の太平洋側を東へ進んだ。これらの影響で、九州南部地方から東日本にかけて雨が降り、九州や近畿、東海地方、伊豆諸島、これらの一部では大雨となり、九州では雷を伴った所があった。29日から30日にかけては、西日本から東日本にかけて前線が停滞した。このため、九州南部地方から東日本にかけて雨が降った。九州では一部では大雨となったほか、雷を伴った所があった。沖縄・奄美や北日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。

7月

前線や湿った空気の影響で九州の一部や関東地方の一部では大雨、高気圧に覆われた沖縄・奄美や東海地方、及び北海道はおおむね晴れ（1日）

1日は、低気圧が華北から朝鮮半島へ進み、伴う温暖前線が九州に達した。この影響で、九州では雨が降り、一部で大雨となった。また、関東地方の一部では湿った空気や上空の寒気の影響で雨が降り、大雨となった所があった。沖縄・奄美や東海地方、及び北海道はおおむね晴れた。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、西日本の一部や北陸から北日本にかけての一部では大雨（2日～6日）

2日から3日にかけては、低気圧が日本海を東北東に進み、北海道を通過して日本の東海上に達した。また、伴う温暖前線が西日本から北日本を通過したほか、寒冷前線や停滞前線が北日本から西日本にのびた。これらの影響で、全国的に雨が降り、九州や中国地方、北海道では大雨となった所があったほか、西日本では一部で雷を伴った。4日は千島近海の低気圧が東に進んだ。また、本州に前線が停滞した。これらの影響で、北海道や東日本から西日本にかけて雨が降り、中国地方では大雨となった所があった。また、関東甲信や西日本では雷を伴った所があった。5日から6日にかけては、前線上の低気圧が黄海から日本海を進んで三陸沖へ達し、前線が東北地方から朝鮮半島付近にのびた。これらの影響で、中国地方や東日本から北日本にかけては雨が降り、北陸や東北地方では大雨となった所があったほか、中国地方や北陸では雷を伴った所があった。

台風第1号や低気圧、前線の影響で全国的に雨、南西諸島、西日本、東海地方、これらの一部で大雨（7日～9日）

7日は、台風第1号が沖縄の南海上を北西に進んだ。台風や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州南部地方では雨が降り、沖縄・奄美では大雨となった所があった。また、東北地方から山陰沖にのびる前線が南下して消滅した。この影響で、北陸や東北地方では雨が降った。8日から9日にかけては、低気圧が前線を伴って九州の西海上から関東の東海上へ進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、奄美地方から東海地方にかけては大雨となった所があったほか、九州の一部では雷を伴った。

前線や低気圧の影響で西日本及び北日本では雨、九州の一部では大雨、東日本は晴れ（10日～11日）

10日から11日にかけては、西日本から伊豆諸島にかけて前線が停滞した。この影響で、南西諸島や西日本では雨が降り、九州南部地方では大雨となり、雷を伴った所があった。また、低気圧が北海道付近から北海道の東海上へ進んだ影響で、北日本では雨が降り、一部では雷を伴った。東日本はおおむね晴れた。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、九州の一部及び北陸地方から関東、東北地方にかけての一部では大雨（12日～15日）

12日から13日にかけては、前線が西日本から東日本にかけて停滞した。前線や湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけては雨が降り、九州や北陸地方では大雨となった所があったほか、西日本から北陸にかけての一部では雷を伴った。また、九州の一部では強風となった。北日本はおおむね晴れた。14日から15日にかけては、九州から関東付近にかけて停滞する前線が、ゆっくりと南下したほか、関東付近の低気圧が北東へ進んだ。また、日本海の低気圧が北陸地方に南下した。これらの影響で、全国的に雨が降り、九州や関東、東北地方では大雨となった所があったほか、関東甲信の一部では雷を伴った。

前線や低気圧の影響で全国的に雨（16日～17日）

16日から17日にかけては、東シナ海からのびる前線が九州から関東付近にかけて停滞した。また、低気圧が日本海を東に進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、九州の一部では雷を伴った。

低気圧の影響で沖縄・奄美、九州、関東甲信及び北日本では雨、九州南部地方の一部では大雨、西日本から東海地方にかけてはおおむね晴れ（18日～20日）

18日から19日にかけては、熱帯低気圧が沖縄の南海上から九州の南海上へ進んだ影響で、南西諸島では雨が降り、一部では雷を伴った。また、別の低気圧が北海道付近に停滞した影響で、北日本では雨が降った。西日本から東海地方にかけてはおおむね晴れた。20日は、熱帯低気圧が九州の南海上を東へ進んで消滅した。熱帯低気圧の影響で、九州では雨が降り、九州南部地方では大雨となった所があったほか、一部では雷を伴った。また、湿った空気の影響で、関東甲信から北日本にかけての一部では雨が降った。中国地方、近畿及び東海地方はおおむね晴れた。

湿った空気の影響で西日本から東日本の太平洋側の一部で大雨、沖縄・奄美、及び北日本はおおむね晴れ（21日～25日）

21日から23日にかけては、北日本は千島近海に中心を持つ高気圧に覆われおおむね晴れたが、高気圧からの湿った空気の影響で、東海地方及び関東では雨が降り、東海地方では大雨となった所があった。沖縄・奄美及び西日本は、沖縄の南海上に中心を持つ高気圧に覆われおおむね晴れた。24日から25日にかけては、北日本は千島近海に中心を持つ高気圧に覆われ、おおむね晴れた。一方、高気圧からの湿った空気や、日本海

7月から8月

西部を東に進んだ低気圧の影響で、西日本や北陸地方を中心に雨が降り、九州や四国の太平洋側では大雨となった所があった。

低気圧や前線の影響で近畿から北日本にかけて雨、東海地方、北陸、北海道、これらの一部で大雨（26日～28日）

26日は、低気圧が日本海中部にほとんど停滞して消滅した。低気圧の影響で、近畿から東日本にかけて雨が降り、東海地方や北陸では大雨となった所があった。27日は、低気圧が朝鮮半島から日本海北部へ進み、伴う前線が北日本にのびた。これらや湿った空気の影響で、東日本から北日本にかけては雨が降り、北陸や北海道では大雨となった所があったほか、北陸では雷を伴ったと所があった。28日は、前線を伴う低気圧が日本海北部からサハリン付近へ進んだ。この影響で、北日本では雨が降り、北海道では大雨となった所があった。沖縄・奄美及び西日本はおおむね晴れた。

前線の影響で北海道を中心に雨、その他の地域はおおむね晴れ（29日～31日）

29日から30日にかけては、気圧の谷や湿った空気の影響で、沖縄・奄美では雨が降り、一部では雷を伴った。また、前線が宗谷海峡付近に停滞した影響で、北海道では雨が降った。その他の地域はおおむね晴れた。31日は、前線が宗谷海峡付近から南下して消滅した。この影響で、北海道では雨が降り、一部では雷を伴った。また、上空の寒気や気圧の谷の影響で、西日本から東北地方にかけては雨の降った所があり、関東甲信や東北地方では大雨となった所があったほか、南西諸島から東海地方にかけての一部では雷を伴った。

8月

低気圧や上空の寒気、湿った空気の影響で東日本及び北日本では雨、一部では大雨、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れ（1日～5日）

1日から2日にかけては、低気圧が日本の南海上でほとんど停滞して消滅した。この低気圧や上空の寒気、湿った空気の影響で、東日本や北日本では雨が降り、一部では大雨となったほか、雷を伴った所があった。南西諸島から西日本にかけては高気圧に覆われおおむね晴れたが、日射の影響で大気の状態が不安定となり、所々で雨が降り、雷を伴った。3日は、気圧の谷の影響で、東日本や東北地方では雨が降り、一部で雷を伴った。また、西日本では、日射の影響で大気の状態が不安定となり、所々で雨が降り、雷を伴った。4日から5日にかけては、全国的に高気圧に覆われおおむね晴れたが、日射の影響で大気の状態が不安定となり、所々で雨が降り、雷を伴った。また、気圧の谷の影響で、南西諸島や北海道では雨が降った所があり、一部で雷を伴った。

台風第5号や熱帯低気圧、前線の影響で沖縄・奄美及び北日本では雨、一部では大雨、関東の一部では暴風、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れ（6日～9日）

6日から7日にかけては、西日本から北日本にかけては高気圧に覆われおおむね晴れたが、日射や湿った空気の影響で、西日本を中心に大気の状態が不安定となり、所々で雨が降り、九州や近畿では雷を伴った所があった。また、熱帯低気圧が沖縄の南海上でほとんど停滞した影響で、南西諸島では雨が降り、一部では雷を伴った。8日は、熱帯低気圧が沖縄付近でほとんど停滞した。この影響で、沖縄・奄美では雨が降り、大雨となった所があった。また、台風第5号が日本の東海上を北上したほか、サハリン付近の低気圧に伴う前線が北海道にのびた。これらの影響で、北日本を中心に雨が降り、北海道では、一部で大雨となり、雷を伴った所があった。また、関東の沿岸部では暴風となった所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れたが、九州北部地方や中国地方を中心に日射の影響で大気の状態が不安定となり、所々で雨が降り、雷を伴った。9日は、台風第5号が三陸沖から北海道の東海上に進んだ。また、前線が北海道を通過した。これらや湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側、及び北日本では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

高気圧に覆われ全国的に晴れ。低気圧や湿った空気の影響で沖縄・奄美、東日本及び北海道では雨、関東の一部では大雨（10日～14日）

10日は、全国的に高気圧に覆われおおむね晴れたが、日射の影響で大気の状態が不安定となり、関東地方の一部では雨が降り、大雨となった所があった。また、沖縄の南海上に熱帯低気圧が発生しほとんど停滞した影響で、沖縄・奄美では雨が降り、一部では雷を伴った。また、台風第11号から変わった温帯低気圧の影響で、

北海道では雨が降った所があった。11日から13日にかけては、全国的に高気圧に覆われおおむね晴れた。一方、気圧の谷や湿った空気の影響で、沖縄・奄美では雨が降り、雷を伴った所があった。14日は、上空の寒気や気圧の谷の影響で、中国地方から関東にかけてや北海道の太平洋側、これらの一部では雨が降り、近畿では雷を伴った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れたが、日射の影響で大気の状態が不安定となり、所々で雨が降った。

台風第6号、台風第7号、前線、及び低気圧の影響で西日本から北日本にかけては雨や強風、一部では大雨や暴風（15日～19日）

15日は、台風第6号が釧路沖から北北西に進み、北海道根室半島を通過して09時に温帯低気圧に変わった。また、低気圧が日本海中部から東北地方に進んで消滅した。これらの影響で、九州北部地方から北海道にかけて雨が降り、雷を伴った所があった。また、北海道では一部で強風となった。沖縄・奄美や九州地方、四国地方はおおむね晴れた。16日から17日にかけては、台風第7号が日本の東海上から三陸沖を北上し、17日17時30分頃に北海道襟裳岬付近に上陸して、さらに北に進んだ。また、日本海から北日本にかけて前線が停滞した。これらの影響で、西日本から北日本にかけては雨が降り、雷を伴った所があったほか、近畿や関東、北日本では大雨となった所があった。また、北日本の一部では強風となり、北海道では暴風となった所があった。18日から19日にかけては、前線が北日本付近に停滞した。この前線や気圧の谷の影響で、近畿から北日本にかけては雨が降り、一部では雷を伴ったほか、関東甲信では大雨となった所があった。

台風第11号、台風第9号、及び前線の影響で西日本から北日本にかけては雨、東日本及び北日本では強風、一部では大雨や暴風（20日～23日）

20日から21日にかけては、台風第11号が日本の東海上から三陸沖を進み、21日23時過ぎに北海道釧路市付近に上陸した。また、前線が北海道付近に停滞した。台風や前線の影響で、東日本や北日本では雨が降り、北海道では大雨となった所があった。22日から23日にかけては、台風第9号が日本の南海上を北に進み、22日12時30分頃に千葉県館山市付近に上陸した。台風はその後、東日本及び北日本を進んで、23日06時前に北海道日高地方中部に再上陸した後、23日12時にオホーツク海で温帯低気圧に変わった。また、台風第11号から変わった温帯低気圧からのびる前線が北日本を通過した。これらの影響で、西日本から北日本にかけては雨が降り、一部では大雨となったほか、雷を伴った所があった。また、東海地方から北日本にかけての一部では強風となり、関東甲信から北日本にかけては暴風となった所があった。

気圧の谷や湿った空気の影響で西日本から東日本にかけての太平洋側では雨、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れ（24日～25日）

24日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨が降り、近畿から東海地方にかけて雷を伴った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。25日は、日本付近は高気圧に覆われおおむね晴れたが、気圧の谷や湿った空気の影響で、所々で雨が降り、東海地方の一部では大雨となったほか、沖縄及び関東では雷を伴った所があった。

台風第10号、前線、及び低気圧の影響で西日本から北日本では雨や強風、一部では大雨や暴風、高気圧に覆われた南西諸島を中心に晴れ（26日～30日）

26日は、日本の南海上の台風第10号からの湿った空気の影響で、沖縄では雨が降り、雷を伴った所があった。また、低気圧がオホーツク海を北に進み、伴う前線が日本海から本州付近へ南下した影響で、西日本から東日本にかけての日本海側、及び北日本では雨が降り、東北地方では、一部で大雨となったほか、雷を伴った所があった。27日は、前線が本州付近に停滞した影響で、北日本の太平洋側、及び西日本から東日本にかけては雨が降り、東日本の一部では大雨となったほか、関東では雷を伴った所があった。高気圧に覆われた南西諸島や九州南部、北海道の日本海側はおおむね晴れた。28日は、低気圧が九州の西海上から瀬戸内海へ進んだ影響で、西日本では雨が降り、九州や中国地方では大雨となった所があったほか、九州の一部では雷を伴った。また、気圧の谷や日本の南の台風第10号からの湿った空気の影響で、東日本や北日本の太平洋側を中心に雨が降り、伊豆諸島の一部では大雨となった。29日は、低気圧が日本海西部にほとんど停滞した。また、台風第10号が本州の南東海上をゆっくりと北上した。これらや湿った空気の影響で、東日本から北日本にかけての太平洋側、及び西日本では雨が降り、一部では大雨となったほか、四国では雷を伴った所があった。また、九州、伊豆諸島、小笠原諸島、これらの一部では強風となった。30日は、台風第10号が関東の東海上から三陸沖へ進み、17時30分頃に岩手県大船渡市付近に上陸して北西に進んだ。また、低気圧が日本海西部でほとんど停

8月から9月

滞した。これらの影響で、東日本や北日本、西日本では雨が降り、大雨となった所があったほか、一部では強風となり、北日本では暴風となった所があった。高気圧に覆われた南西諸島はおおむね晴れた。

低気圧や湿った空気の影響で北海道では雨や強風、一部では大雨、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れ（31日）

31日は、台風第10号から変わった温帯低気圧が日本海を北西に進んで消滅した。また、別の低気圧が日本海西部でほとんど停滞した。これらや湿った空気の影響で、北海道では雨が降り、一部では大雨となったほか、強風となった所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

9月

台風第12号の影響で南西諸島や九州で雨、また、湿った空気の影響で北日本では一部で雨、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れ（1日～2日）

1日から2日にかけては、台風第12号が沖縄の南海上に北上して九州の南海上に進んだ。台風の影響で、南西諸島から九州にかけての一部では雨が降った。また、湿った空気の影響で、東北地方の太平洋側から北海道にかけての一部では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

台風第12号や台風から変わった熱帯低気圧の影響で西日本及び東日本を中心に雨、西日本の一部では大雨、高気圧に覆われた東北地方はおおむね晴れ（3日～5日）

3日から4日にかけては、台風第12号が九州の南海上に北上して九州の西海上に進んだ。台風や湿った空気の影響で、奄美及び西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨が降り、九州や四国、近畿では大雨となった所があったほか、九州の一部では雷を伴った。北日本は高気圧に覆われ北陸や東北地方の日本海側を中心におおむね晴れた。5日は、台風第12号が01時前に長崎県長崎市付近に上陸して03時に熱帯低気圧に変わり、対馬海峡から山陰沖を北東に進んだ。台風や台風から変わった熱帯低気圧の影響で、九州の北部から北陸、東海地方にかけて雨が降り、四国の一部では大雨となった。また、気圧の谷の影響で、南西諸島では雨が降った。関東及び東北地方はおおむね晴れたが、高気圧周辺の湿った空気や日射の影響で大気の状態が不安定となり、一部で雨が降り、雷を伴った。

台風第13号や低気圧、前線の影響で全国的に雨、一部では大雨や強風（6日～9日）

6日は、東シナ海の熱帯低気圧が15時に台風第13号となり北東に進んだ。熱帯低気圧や台風、これらの周りの湿った空気の影響で、南西諸島や西日本、東海地方で雨が降り、一部では雷を伴ったほか、沖縄では大雨となった所があった。また、沖縄の一部では強風となった。一方、低気圧が日本海北部から宗谷海峡付近へ進み、伴う前線が北日本を通過した影響で、北日本で雨が降り、北海道では、大雨となった所があったほか、一部で雷を伴った。7日は、台風第13号が九州の南海上を進んで熱帯低気圧に変わった。また、本州付近に停滞する前線に暖かく湿った空気が流れ込んだ。これらの影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、一部では大雨となったほか、雷を伴った所があった。また、気圧の谷や上空の寒気の影響で、北海道では雨が降った。8日は、本州付近に停滞する前線上の北陸付近に低気圧が発生して日本海を北東に進んだ。前線や低気圧、及びこれらに向かって流れ込む暖かく湿った空気の影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、一部では大雨となったほか、雷を伴った所があった。また、別の前線が華南から九州の南海上にかけて停滞した影響で、沖縄・奄美で雨が降り、一部では雷を伴った。9日は、前線が華南から九州の南海上にかけて停滞した。前線の影響で、沖縄・奄美では雨が降り、一部で雷を伴った。また、前線を伴う低気圧が三陸沖から釧路沖に進んだ影響で、北日本を中心に雨が降り、大雨となった所があったほか、北海道の一部では強風となった。西日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。

前線や湿った空気の影響で沖縄・奄美から東日本にかけての一部では雨、北日本は気圧の谷や寒気の影響で一部では雨（10日～11日）

10日は、前線が華南から東シナ海に停滞した影響で、沖縄の一部では雨が降った。また、気圧の谷や上空の寒気の影響で、北日本の日本海側を中心に雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。11日は、前線が本州南岸に停滞した影響で、東海地方や関東地方で雨の降った所があった。また、東シナ海に停滞した前線や気圧の谷の影響で、沖縄・奄美、九州南部地方、これらの一部では雨が降り、沖縄の一部では雷を伴った。また、気圧の谷の影響で、北海道の一部では雨が降った。

台風第14号、台風第16号、前線及び低気圧の影響で全国的に雨、一部では大雨（12日～16日）

12日から13日にかけては、前線が東シナ海から本州南岸付近にかけて停滞した影響で、南西諸島から東北地方にかけて雨が降り、大雨となった所があったほか、一部で雷を伴った。14日は、前線が東シナ海から本州南岸付近にかけて停滞したほか、台風第14号が台湾付近を西に進んだ。また、低気圧が秋田沖にほとんど停滞した。これらの影響で、南西諸島から東北地方にかけて雨が降り、大雨となった所があったほか、一部で雷を伴った。15日は、台風第14号が華南に上陸して熱帯低気圧に変わった。また、前線が華中から本州南岸付近にかけて停滞した。台風周辺の湿った空気や前線の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨が降った。北日本は上空の寒気の影響で、所々で雨が降った。16日は、台風第16号がフィリピンの東海上から沖縄の南海上に進んだ。また、前線が華中から本州南岸付近にかけて停滞した。台風周辺の湿った空気や前線の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に所々で雨が降った。また、前線を伴う低気圧が沿海州から宗谷海峡に進んだ影響で、北海道の一部では雨が降った。

台風第16号、前線、低気圧の影響で全国的に雨、一部では大雨や暴風（17日～20日）

17日から18日にかけては、台風第16号が先島諸島付近を通り、東シナ海を北東に進んだ。また、前線を伴った低気圧が黄海から関東の東海上に進んだ。これらの影響で、南西諸島から東北地方南部にかけて雨が降り、大雨となった所があったほか、一部では雷を伴った。また、沖縄の一部では暴風となった。一方、千島近海の低気圧からのびる前線が北日本をゆっくり南下した影響で、北日本で雨が降った。19日から20日にかけては、本州付近に前線が停滞した。また、東シナ海を北東に進んだ台風第16号が20日0時過ぎに鹿児島県大隅半島に上陸し、続いて同日13時半頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。台風は20日17時過ぎには愛知県常滑市付近に上陸し、その後、温帯低気圧に変わった。これらの影響で、南西諸島から東北地方南部にかけて雨が降り、大雨となった所があったほか、一部で雷を伴った。また、西日本から東海地方にかけての一部では強風となり、西日本の一部では暴風となった。

前線や低気圧、気圧の谷の影響で全国的に雨、関東甲信の一部では大雨（21日～23日）

21日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、近畿及び東日本を中心に雨が降った。北日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。22日から23日にかけては、前線が本州南岸に停滞し、前線上の九州の南海上の低気圧が東に進んだほか、別の低気圧が関東の東海上の前線上に発生して北東に進み、釧路沖に達した。また、日本海に低気圧が発生し北東に進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、関東甲信では大雨となった所があった。

前線の影響で西日本及び東日本では雨、四国の一部では大雨、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れ（24日～25日）

24日は、前線が本州南岸に停滞した影響で、近畿及び東日本の太平洋側を中心に雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。25日は、前線が九州北部から関東にかけて停滞した影響で、西日本を中心に雨が降り、四国では大雨となった所があったほか、近畿の一部では雷を伴った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

台風第17号、前線、湿った空気の影響で南西諸島から東日本にかけては雨、沖縄や四国の一部では大雨、沖縄の一部では暴風（26日～27日）

26日は、台風第17号が沖縄の南海上を北西に進んだ。台風の影響で、沖縄では雨が降ったほか、一部では強風となった。また、前線が朝鮮半島付近から東日本にかけて停滞した。前線や湿った空気の影響で、東日本の日本海側及び四国、中国地方、近畿を中心に雨が降った。27日は、台風第17号が沖縄の南海上を北西に進んで台湾に上陸した。台風の影響で、沖縄では雨が降り、大雨となった所があったほか、一部では暴風となった。また、台風周辺の湿った空気の影響で、九州及び四国では雨が降り、雷を伴った所があったほか、四国の一部では大雨となった。また、東北地方では、前線が停滞した影響で雨が降った。

前線や湿った空気、低気圧の影響で西日本から北日本にかけては雨、一部では大雨、高気圧に覆われた南西諸島はおおむね晴れ（28日～30日）

28日から29日にかけては、日本海から東北地方にかけて停滞する前線が南下して九州南部地方から本州南岸に達した。前線や湿った空気の影響で、西日本から東北地方にかけては雨が降り、大雨となった所があったほか、一部で雷を伴った。また、オホーツク海の低気圧からのびる前線や気圧の谷の影響で、北日本では雨が

9 月から 10 月

降った。30 日は、前線が九州から四国にかけて停滞した影響で、九州北部、四国、中国地方、近畿及び北陸を中心に雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

10 月

前線や湿った空気の影響で西日本から東日本にかけての一部で雨、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れ（1 日～2 日）

1 日は、前線が西日本から関東の南海上に停滞した影響で、九州の北部、四国、中国地方、近畿及び東日本では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。2 日は、湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての一部では雨が降り、四国では雷を伴った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

台風第 18 号や低気圧、前線の影響で全国的に雨、一部では暴風、九州南部地方では大雨（3 日～5 日）

3 日は、台風第 18 号が沖縄の南海上から沖縄本島付近に進んだ。また、前線が東シナ海から本州南岸にかけて停滞した。台風や前線の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側及び沖縄・奄美では雨が降り、九州南部地方では大雨となった所があったほか、沖縄の一部では暴風となった。また、低気圧が朝鮮半島付近から北海道付近に進み、伴う温暖前線が東北地方を通過して北海道に達した。低気圧や前線の影響で、北日本では雨が降り、東北地方では雷を伴った所があった。4 日は、台風第 18 号が沖縄本島付近から九州の西海上に進んだ。また、前線が九州付近から本州南岸にかけて停滞した。台風や前線の影響で、沖縄・奄美から九州南部地方にかけては雨が降り、沖縄では暴風となった。また、低気圧が北海道付近から千島の東海上に進み、伴う寒冷前線が北日本を通過した影響で、北日本では雨が降ったほか、北海道の一部では暴風となった。5 日は、台風第 18 号が九州の西海上から日本海へ進んで温帯低気圧に変わり、前線を伴って東に進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、九州、四国では雷を伴った所があったほか、九州、中国地方及び北陸では暴風となった所があった。

低気圧や寒気の影響で北日本を中心に雨、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れ、東海地方、関東及び北海道では一部で強風（6 日～7 日）

6 日は、台風第 18 号から変わった低気圧が前線を伴って三陸沖から日本のはるか東海上へ進み、北日本には寒気が流れ込んだ。これらの影響で、北陸及び北日本では雨が降ったほか、北海道、東海地方、関東では強風となった所があった。東日本の太平洋側、沖縄・奄美及び西日本は高気圧に覆われおおむね晴れた。7 日は、寒気の影響で、北海道では雨が降った。また、千島近海の低気圧の影響で、北海道では強風となった所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、一部では大雨、北海道の一部では強風（8 日～9 日）

8 日から 9 日にかけては、低気圧が黄海から日本海へ進み、北海道を通過して千島の東海上に進んだ。また、この低気圧に伴う温暖前線が中国地方から東北地方を通過し、寒冷前線が西日本から東北地方を通過したほか、南西諸島付近には前線が停滞した。これらの影響で、全国的に雨が降り、沖縄、西日本、東北地方では大雨となった所があったほか、北海道の一部では強風となった。

前線や気圧の谷の影響で南西諸島では雨、寒気の影響で北日本の日本海側を中心に雨（10 日～14 日）

10 日は、前線が南西諸島付近に停滞した影響で、南西諸島の一部では雨が降った。また、寒気の影響で、北日本の日本海側を中心に雨が降った。西日本及び東海地方は高気圧に覆われおおむね晴れた。11 日から 12 日にかけては、南西諸島付近に前線が停滞した影響で、南西諸島の一部では雨が降った。また、低気圧が日本海北部から千島近海に進み、伴う前線が北陸や北日本を通過した。低気圧や前線、寒気の影響で、東日本から北日本の日本海側を中心に雨が降った。13 日から 14 日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、南西諸島では雨が降った。また、別の気圧の谷や寒気の影響で、北日本の日本海側では雨が降った所があった。

気圧の谷や湿った空気の影響で西日本を中心に雨、九州南部地方では大雨、その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れ（15 日～16 日）

15 日から 16 日にかけては、気圧の谷や湿った空気の影響で、西日本を中心に雨が降り、九州南部地方では大雨となった所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や気圧の谷、湿った空気の影響で西日本から北日本にかけては雨、西日本及び東日本では大雨、近畿の一部では暴風（17日）

17日は、低気圧が四国沖から東海道沖に進んだ。また、別の低気圧が日本海西部から秋田沖に進んで消滅した。これら低気圧や気圧の谷、湿った空気の影響で、西日本から北日本にかけては雨が降り、西日本から東日本にかけての太平洋側では大雨となった所があったほか、九州の一部では雷を伴った。また、近畿の一部では暴風となった。

高気圧に覆われ全国におおむね晴れ。低気圧や気圧の谷、湿った空気の影響で所々で雨（18日～19日）

18日は、低気圧が関東の東海上を東に進んだ影響で、関東では雨が降った。また、北日本を前線や気圧の谷が通過した。この影響で北陸や北日本で雨が降った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。19日は、東日本から北日本にかけて高気圧に覆われおおむね晴れたが、湿った空気や寒気の影響で、所々で雨が降った。

低気圧や前線の影響で西日本では雨、九州南部地方では大雨、低気圧や寒気の影響で北日本では雨や雪、一部では暴風や強風（20日～24日）

20日は、低気圧が宗谷海峡付近から千島近海に進み、伴う前線が北日本を通過した。これらや寒気の影響で、北日本では雨が降り、北海道では雷を伴った所があったほか、北海道の一部では暴風となり、東北地方の一部では強風となった。九州北部から東日本は、高気圧に覆われおおむね晴れた。21日は東シナ海から九州の南海上に前線が停滞した影響で、南西諸島や九州では雨が降った。また、寒気の影響で、北海道で雨や雪が降ったほか、千島近海の低気圧の影響で、北海道の一部で強風となった。22日から23日にかけては、華中から日本の南海上に停滞する前線上の九州の西海上に低気圧が発生し、日本の東海上に進んだ。また、台風第22号から変わった低気圧が、同じ前線を華中から日本の南海上へ進んだ。これら低気圧や前線の影響で、西日本を中心に雨が降り、九州南部地方では大雨となった所があった。また、寒気の影響で、北日本の日本海側を中心に雨が降り、北海道では雪が降った所があった。24日は、寒気の影響で、北海道の一部では雨や雪が降った。また、オホーツク海の低気圧の影響で、北海道の一部では強風となった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で西日本から北日本にかけては雨、北海道の一部では強風、南西諸島はおおむね晴れ（25日～26日）

25日は、低気圧が黄海から秋田沖に進み、伴う寒冷前線が西日本の日本海側に、温暖前線が東北地方に進んだ。これらの影響で、西日本から東北地方にかけては雨が降った。南西諸島と北海道はおおむね晴れた。26日は、低気圧が釧路沖から千島の東海上に進み、伴う前線が西日本から東日本を通過した。また、前線が東シナ海から西日本付近に停滞した。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、北海道では雷を伴った所や、強風となった所があった。関東や南西諸島はおおむね晴れた。

前線や低気圧の影響で西日本から東北地方にかけては雨、九州の北部では大雨、寒気の影響で北海道では雨（27日～28日）

27日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、九州の南部では雨が降った。また、寒気の影響で、北陸や北海道では雨が降った所があった。その他の地域はおおむね晴れた。28日は、前線を伴う低気圧が黄海から西日本を通過して東海道沖に進んだ。低気圧や前線の影響で、西日本から東北地方にかけては雨が降り、九州の北部では大雨となった所があった。また、寒気や気圧の谷の影響で、北海道の日本海側では雨が降った。沖縄はおおむね晴れた。

冬型の気圧配置や前線、低気圧の影響で西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨、北海道の一部では雪や暴風、伊豆諸島の一部では強風（29日～31日）

29日は、日本付近は冬型の気圧配置となった。この影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨が降り、北海道では雪が降った。西日本から北日本にかけての太平洋側及び沖縄・奄美はおおむね晴れた。30日は、低気圧が関東の南海上に発生してほとんど停滞した。この低気圧の影響で、関東地方を中心に雨が降ったほか、伊豆諸島の一部では強風となった。また、寒気の影響で、北海道では雪が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。31日は、気圧の谷の影響で、西日本では雨が降った。また、低気圧が日

10月から11月

本海中部から北海道を通過して千島近海に進み、伴う前線が北日本を通過した。低気圧や前線、寒気の影響で、北日本では雨が降り、北海道の一部では雪や暴風となった。

11月

低気圧や前線、寒気の影響で全国的に雨、北海道では雪（1日）

1日は、前線を伴う低気圧が本州南岸から日本の東海上に進んだ影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側では雨が降った。また、気圧の谷や寒気の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨が降り、北海道では雪が降った。

低気圧や寒気、気圧の谷の影響で日本海側を中心に雨、北海道では雨や雪、北陸の一部では暴風（2日～4日）

2日は、低気圧が日本海西部でほとんど停滞した。低気圧や寒気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側では雨が降った所があった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、関東では雨が降ったほか、寒気の影響で、北海道では雪が降った所があった。西日本の太平洋側はおおむね晴れた。3日から4日にかけては、日本海中部の低気圧が北東に進み千島近海に達した。この影響で、北陸や東北地方では雨が降り、北海道では雨や雪が降ったほか、北陸及び東北地方では雷を伴った所があった。また、北陸の一部では暴風となった。一方、別の低気圧が関東の東海上を北東に進んだ。この影響で関東地方では雨が降った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線、寒気の影響で日本海側を中心に雨、北海道では雪や雨（5日～7日）

5日から6日にかけては、前線を伴う低気圧が日本海中部からカムチャッカ半島付近に進んだ。前線や低気圧、寒気の影響で、西日本の日本海側や北陸地方、東北地方では雨が降り、北海道では雪や雨が降ったほか、北日本では強風となった所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。7日は、寒気の影響で、北海道では雪が降った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、北海道では雪、その後冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雪や雨、東北地方では大雪（8日～10日）

8日は、低気圧が日本海中部から宗谷海峡付近に進み、伴う前線が日本付近を通過した。これらの影響で、全国的に雨が降り、北海道では雪が降った所があったほか、一部で強風となった。9日は、日本付近は冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となった。この影響で、西日本から東日本にかけての日本海側、及び沖縄・奄美では雨が降り、北日本では雪や雨が降ったほか、東北地方では一部で大雪となり、北海道では強風となった所があった。また、気圧の谷の影響で、関東では雨が降った。10日は、冬型の影響で、北日本を中心に雪や雨が降った。また、九州の西海上や四国の南海上に低気圧が発生した。これらや気圧の谷の影響で西日本から東日本にかけて雨が降った。

低気圧の影響で西日本から北日本では雨、北海道の一部では雪（11日～13日）

11日は、低気圧が前線を伴って四国の南海上から関東の東海上へ進んだ。また、別の低気圧が日本海西部から津軽海峡付近へ進んだ。これらや気圧の谷の影響で、西日本から北日本にかけて雨が降ったほか、北海道では雪が降った所があった。12日から13日にかけては、低気圧が津軽海峡付近から千島近海に進んで消滅した。また、別の低気圧が日本海から北海道付近を進んで千島近海に達した。これらの影響で、北日本では雨が降り、北海道では雪が降った所や、雷を伴った所があった。また、前線が東シナ海に発生した影響で、九州では雨の降った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、九州の一部では大雨、その後冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雨や雪（14日～17日）

14日から15日にかけては、東シナ海から本州南岸に停滞する前線上に低気圧が発生して東に進んだほか、別の低気圧が同じ前線上に発生し、関東の東海上に進んだ。また、別の低気圧が中国東北区からオホーツク海に進み、伴う前線が北日本を通過した。これらの影響で、全国的に雨が降り鹿児島県では大雨となった所があったほか、北海道では雪が降った所があった。16日から17日にかけては冬型となった。この影響で、北日本

の日本海側や北陸では雨が降り、北海道では雪が降ったほか、東北地方では強風となった所があった。その他の地域は太平洋側を中心におおむね晴れた。

低気圧や前線、寒気の影響で全国的に雨、北海道の一部では雪（18日～20日）

18日は、華中から九州の西海上に停滞する前線上に低気圧が発生して東に進んだ。この影響で、九州、四国、中国地方では雨が降った。また、別の低気圧が沿海州から千島近海に進み、伴う前線が北海道に達した影響で、北海道では雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。19日は、前線を伴う低気圧が対馬海峡付近から東に進み三陸沖へ達した。この影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけては雨が降り、九州では雷を伴った所があった。20日は、前線が華南から九州の南海上に停滞した影響で、沖縄・奄美及び九州南部地方では雨が降り、沖縄では雷を伴った所があった。また、低気圧が宗谷海峡付近からオホーツク海に進み、伴う前線が東日本及び北日本を通過した。これらや寒気の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨が降り、北海道では雪が降った所があったほか、北海道の一部では強風となった。

低気圧や前線の影響で西日本から北日本にかけての太平洋側では雨、その後の冬型の気圧配置の影響で西日本から東日本の日本海側を中心に雪や雨（21日～23日）

21日は、東シナ海から九州の南海上に停滞する前線上に低気圧が発生して東へ進んだ影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側、及び沖縄・奄美では雨が降った。また、オホーツク海の低気圧や寒気の影響で、北海道では雪が降ったほか、一部では強風となった。22日は、前線を伴う低気圧が本州の南を東に進んだほか、別の低気圧が関東の東海上を北東に進んで北海道の東海上に達し、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、北日本では雪が降った所があった。23日は、日本付近は引き続き冬型となり、西日本から東日本にかけての日本海側では雨が降り、北日本では雪や雨が降ったほか、北海道では強風となった所があった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側や沖縄では雨が降った。

低気圧や前線の影響で西日本から北日本にかけて雨や雪（24日～25日）

24日は、低気圧が山陰沖を東に進んで消滅した。低気圧や寒気の影響で、西日本の日本海側を中心に雨が降った。また、本州南岸に停滞する前線上の低気圧が東に進んだ。低気圧や前線、寒気の影響で、西日本から東北地方にかけての太平洋側を中心に雨が降り、関東甲信地方、東北地方では雪が降った所があったほか、伊豆諸島では強風となった所があった。また、寒気の影響で、北海道では雪が降った。25日は、低気圧が日本海を東に進んで消滅したほか、別の低気圧が日本海に発生した。これらの低気圧や寒気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側では雨が降り、北日本の日本海側では雪が降った所があった。その他の地域は太平洋側を中心におおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で沖縄・奄美から東北地方にかけては雨、九州や四国の一部では大雨、その後冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雨や雪（26日～29日）

26日は、華南から九州の南海上に停滞する前線上に低気圧が発生した。また、別の低気圧が日本海西部を北東に進んだ。これら低気圧や前線の影響で、西日本を中心に雨が降った。また、寒気の影響で、北海道では雪が降った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。27日は、前線を伴う低気圧が九州の南海上から東海道沖に進んだ。また、同じ前線上の関東の東海上に低気圧が発生して三陸沖に進んだ。また、別の低気圧が日本海北部から北海道の東海上に進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り九州や四国では大雨となった所があったほか、北海道では雪が降った所があった。また、沖縄・奄美では強風となった所があった。28日から29日にかけては、前線を伴う低気圧が日本の東海上から千島の東海上に進み、日本付近は冬型となった。この低気圧の影響で、東日本から北日本の太平洋側を中心に雨が降ったほか、冬型の影響で西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨が降り、北日本では雪が降った所があったほか、北海道では強風となった所があった。

気圧の谷の影響で西日本の所々で雨、寒気の影響で北海道の一部では雪（30日）

30日は、気圧の谷の影響で、西日本の所々で雨が降ったほか、寒気の影響で、北海道では雪が降った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

12月

低気圧や前線の影響で全国的に雨、北海道の一部では雪、北陸の一部では暴風、その後冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に雨や雪、北日本の一部では暴風（1日～3日）

1日は、低気圧が日本海中部からサハリンの西海上に進み、伴う前線が東日本や北日本を通過したほか、別の低気圧が前線を伴って日本の南海上から三陸沖に進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、北海道では雪が降った所があったほか、北海道の一部では強風となり、北陸の一部では暴風となった。2日は、日本付近は冬型の気圧配置（以下冬型と略す。）となった。この影響で、北陸や東北地方の日本海側を中心に雨が降り、北海道では雪が降ったほか、北日本では暴風となった所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。3日は、オホーツク海の低気圧や寒気の影響で、北陸や北日本では雨や雪が降った所があったほか、北海道では強風となった所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で全国的に雨や雪、その後冬型の影響で日本海側を中心に雨や雪、北海道の一部では暴風（4日～7日）

4日は、低気圧が前線を伴って四国沖から本州南岸を東に進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東日本にかけては雨が降った。また、オホーツク海の低気圧からのびる前線が北海道に近づいた影響で、北海道で雨が降った所があった。5日は、前線を伴う低気圧が関東の東海上から日本の東海上に進んだ。この影響で、関東甲信を中心に雨が降った。また、北日本を低気圧が通過したほか、別の低気圧が日本海を東に進んだ。これらの影響で、北陸から北日本にかけては雨が降った。その他の地域は日中を中心におおむね晴れた。6日は、低気圧が津軽海峡付近から千島近海に進み、伴う寒冷前線が中国地方から東北地方にかけて通過し、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から東日本にかけての日本海側を中心に雨が降り、北日本では雪が降った。また、山陰、北陸、東北地方では雷を伴った所があったほか、北海道では暴風となった所があった。その他の地域は太平洋側を中心におおむね晴れた。7日は、低気圧が黄海から秋田沖に進んだ。この低気圧や寒気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側を中心に雨が降り、山陰、北陸では雷を伴った所があったほか、北日本では日本海側を中心に雪が降った。その他の地域は、西日本の太平洋側や東海地方を中心におおむね晴れた。

低気圧や気圧の谷の影響で西日本から東日本の日本海側では雨、北日本では雪、その後冬型の影響で日本海側を中心に雨や雪、東北地方の一部では大雪（8日～12日）

8日は、移動性の高気圧に覆われて太平洋側を中心におおむね晴れたが、日本海の低気圧や寒気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側では雨が降り、北日本では雪が降った所があったほか、山陰や北陸では雷を伴った所があった。9日は、低気圧が北日本を通過したほか、別の低気圧が日本海を南東に進んだ。これらの影響で、西日本から東北地方の日本海側を中心に雨が降り、北海道では雪が降ったほか、山陰や北陸では雷を伴った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。10日から11日にかけては、日本付近は冬型となった。この影響で、西日本から東日本の日本海側を中心に雨や雪が降ったほか、北日本では雪が降り、東北地方では大雪となった所があった。その他の地域は太平洋側を中心におおむね晴れた。12日は、気圧の谷の影響で、西日本では雨が降った所があったほか、寒気の影響で、北日本では雪が降った所があった。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で沖縄・奄美から東日本では雨、近畿の一部では大雨、北日本では雪、関東の一部では暴風、その後冬型の影響で日本海側を中心に雨や雪（13日～19日）

13日から14日にかけては、前線を伴う低気圧が東シナ海から本州南岸を進んで日本の東海上に達した。また、別の低気圧が日本海中部から千島の東海上に進み、伴う前線が北日本を通過した。これらの影響で、沖縄・奄美から東日本にかけては雨が降り、近畿の一部では大雨となったほか、北日本では雪が降った。また、九州の一部と北陸の一部では強風となり、関東の一部では暴風となった。15日から17日にかけては、日本付近は冬型となった。この影響で、西日本から東日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降り、北日本では雪が降った。また、九州では強風となった所があった。その他の地域は太平洋側を中心におおむね晴れた。18日から19日にかけては、気圧の谷や寒気の影響で、北日本の日本海側を中心に雪や雨が降り、北海道では強風となった所があった。また、沖縄・奄美では気圧の谷や湿った空気の影響で雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や気圧の谷の影響で日本海側を中心に雨や雪、その後、高気圧に覆われおおむね晴れ（20日～21日）

20日は、日本海を東に進んだ低気圧や気圧の谷の影響で、西日本から東北地方にかけての日本海側を中心に雨が降った。東日本から北日本にかけての太平洋側はおおむね晴れた。21日は、日本付近は移動性の高気圧に覆われおおむね晴れたが、西日本や北日本では、気圧の谷や湿った空気の影響で雨が降った所があった。

低気圧や前線の影響で全国的に雨や雪、西日本から北日本にかけての一部では大雨、北海道の一部では大雪、その後冬型の影響で日本海側を中心に雨や雪（22日～25日）

22日から23日にかけては、前線を伴う低気圧が朝鮮半島付近から津軽海峡付近に進んだほか、前線上の釧路沖に別の低気圧が発生して千島の東海上に進んだ。これらの影響で、全国的に雨が降り、西日本から北日本にかけての一部では大雨となったほか、山陰では雷を伴った所があった。また、北海道では雪が降り、一部では大雪となったほか、西日本から北日本にかけては強風となった所があった。24日は、日本付近は一時的に冬型となり、その後高気圧に覆われた。冬型の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降った。その他の地域は太平洋側を中心におおむね晴れた。25日は、寒気の影響で、北日本の日本海側を中心に雪や雨が降った。その他の地域は高気圧に覆われおおむね晴れた。

低気圧や前線の影響で沖縄・奄美から東北地方にかけては雨、小笠原では大雨、北日本の一部では雪、その後冬型の影響で日本海側を中心に雨や雪（26日～28日）

26日から27日にかけては、前線を伴う低気圧が東シナ海から山陰沖を進んで北海道の東海上に達したほか、前線を伴う別の低気圧が宗谷海峡付近から千島の東海上に進んだ。これらの影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけては雨が降り、小笠原諸島では大雨となったほか、北日本では雪や雨が降った。また、沖縄・奄美や西日本、関東では強風となった所があった。28日は、日本付近は一時的に冬型となり、その後高気圧に覆われた。冬型の影響で、西日本の日本海側では雨が降ったほか、東日本から北日本にかけての日本海側では雪や雨が降った。また、九州南部地方の一部では強風となった。その他の地域は太平洋側を中心におおむね晴れた。

低気圧や前線、冬型の影響で日本海側を中心に雨や雪（29日～31日）

29日は、低気圧がサハリン付近から千島近海に進み、伴う前線が北日本を通過し、日本付近は冬型となった。これらの影響で、西日本から東日本にかけての日本海側を中心に雨や雪が降ったほか、北日本では雪が降った。その他の地域は太平洋側を中心におおむね晴れた。30日から31日にかけては、日本付近は冬型となったほか、気圧の谷が北日本を通過した。これらの影響で、西日本の日本海側では雨が降り、北陸から北日本にかけては雪や雨が降った所があったほか、北海道の一部では強風となった。その他の地域は太平洋側を中心におおむね晴れた。